

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和2年度

2021年3月

京 都 市 文 化 市 民 局



出土緑釉瓦

目 次

例言

I 調査概要	1
II 平安宮	6
1 平安宮豊楽院跡, 史跡平安宮跡 (内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡), 鳳凰遺跡 (02N071)	6
III 平安京左京	12
1 平安京左京三条四坊五町跡, 烏丸御池遺跡 (19H831)	12
2 平安京左京九条三坊十四町跡, 烏丸町遺跡 (20H061)	15
IV 平安京右京	18
1 平安京右京一条四坊一・二・七町跡 (19H470)	18
2 平安京右京四条二坊十四町跡 (20H113)	21
3 平安京右京八条一坊九町跡 (19H771)	25
4 平安京右京九条二坊六町跡, 唐橋遺跡 (16H183)	27
V その他の遺跡	32
1 特別史跡・特別名勝鹿苑寺 (金閣寺) 庭園 (20A006)	32
2 市史跡貴布祢神社境内 (20A002)	36
3 史跡賀茂御祖神社境内 (下鴨神社) (02N017)	39
4 植物園北遺跡 (19S511)	42
5 室町殿跡 (花の御所), 上京遺跡 (19S334)	44
6 白河街区跡 (18S217)	47
7 如意寺跡, 西谷遺跡 (19S186)	50
8 山科本願寺跡 (寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡 (01N102)	53
9 中臣遺跡 (19N386)	59
10 史跡醍醐寺境内 (02N005)	61
11 長岡京左京一条四坊三・四町跡, 東土川遺跡 (19NG682)	63
12 長岡京左京二条四坊一町跡, 東土川遺跡 (19NG761)	67
13 長岡京左京九条三坊十二町跡, 淀城跡 (17NG294)	69
14 周山城跡 (19A009)	72

VI 調査一覧表	76
報告書抄録	102
図 版	

挿 図 目 次

地区設定概念図	1
I 調査概要	
図 1 詳細分布調査の年間件数推移 (その1)	2
図 2 詳細分布調査の年間件数推移 (その2)	3
II-1 平安宮豊楽院跡, 史跡平安宮跡 (内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡), 鳳瑞遺跡	
図 3 調査位置図	6
図 4 調査地点柱状図	6
図 5 調査地点位置図	6
図 6 出土遺物実測図 1	7
図 7 出土遺物実測図 2	8
図 8 出土遺物実測図 3	9
III-1 平安京左京三条四坊五町跡, 烏丸御池遺跡	
図 9 調査位置図	12
図 10 調査地点位置図	12
図 11 調査地点平・断面図	13
図 12 出土遺物実測図	14
III-2 平安京左京九条三坊十四町跡, 烏丸町遺跡	
図 13 調査位置図	15
図 14 調査区配置図	15
図 15 調査地点断面図及び平面模式図	16
図 16 出土遺物実測図	16
図 17 調査地周辺条坊復原図	17

IV-1 平安京右京一条四坊一・二・七町跡	
図 18 調査位置図	18
図 19 調査地点位置図	19
図 20 A-A'・B-B' 間断面図	19
図 21 A-A' 間東西溝（西から）	20
図 22 B-B' 間東西溝（北から）	20
図 23 出土遺物実測図	20
IV-2 平安京右京四条二坊十四町跡	
図 24 調査位置図	21
図 25 調査地点位置図	21
図 26 各地点断面図	23
図 27 出土遺物実測図	24
IV-3 平安京右京八条一坊九町跡	
図 28 調査位置図	25
図 29 調査地点位置図	25
図 30 A-A'・B-B' 間断面図	26
図 31 七条大路南側溝（北東から）	26
IV-4 平安京右京九条二坊六町跡，唐橋遺跡	
図 32 調査位置図	27
図 33 試掘調査区及び詳細分布調査地点配置図	29
図 34 試掘調査区平・断面図	30
図 35 詳細分布調査地点断面図	31
図 36 出土遺物実測図	31
V-1 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園	
図 37 測定試料採取地点	32
図 38 測定試料の堆積状況	32
図 39 測定試料の実体顕微鏡画像	32
図 40 測定試料（PLD-42101）	32
図 41 測定試料の採取位置図	33
図 42 暦年校正結果	34

V-2 市史跡貴布祢神社境内

図 43 調査位置図	36
図 44 調査区配置図	36
図 45 調査区実測図	36
図 46 礎石検出状況（北から）	36
図 47 出土遺物実測図	37
図 48 「貴布祢社惣指図」（元禄年間力）（部分）	38

V-3 史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）

図 49 調査位置図	39
図 50 調査地全景（東から）	39
図 51 調査地点位置図	39
図 52 No.1 地点土層断面図	40
図 53 土師器皿出土状況（南から）	40
図 54 出土遺物実測図	40

V-4 植物園北遺跡

図 55 調査位置図	42
図 56 調査地点位置図	42
図 57 遺構断面図	43
図 58 遺構断面状況（南西から）	43

V-5 室町殿跡（花の御所），上京遺跡

図 59 調査位置図	44
図 60 調査区配置図	44
図 61 調査区全体図	45
図 62 景石 10・11 平・立面図	45
図 63 景石 10（南から）	46
図 64 景石 11（西から）	46

V-6 白河街区跡

図 65 調査位置図	47
図 66 調査区配置図	47
図 67 各地点断面図	48
図 68 出土遺物実測図	49

V-7 如意寺跡, 西谷遺跡	
図 69 調査位置図	50
図 70 調査地崖断面図	51
図 71 出土遺物実測図	52
V-8 山科本願寺跡(寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡	
図 72 調査位置図	53
図 73 対象地内既存調査平面図及び調査区配置図	54
図 74 A 調査区断面位置図及び A-A' 間断面図	55
図 75 B-B' 間断面図	56
図 76 C-C' 間断面図	57
V-9 中臣遺跡	
図 77 調査位置図	59
図 78 調査区配置図	59
図 79 遺構平・断面図	60
図 80 土坑 1 遺物出土状況(北から)	60
図 81 出土遺物実測図	60
V-10 史跡醍醐寺境内	
図 82 調査位置図	61
図 83 No.1 地点柱状図	61
図 84 出土遺物実測図	62
V-11 長岡京左京一条四坊三・四町跡, 東土川遺跡	
図 85 調査位置図	63
図 86 遺構位置図	63
図 87 A 地点平・断面図	64
図 88 B 地点平面図・東壁断面図, C 地点北壁断面図	65
図 89 出土遺物実測図	65
V-12 長岡京左京二条四坊一町跡, 東土川遺跡	
図 90 調査位置図	67
図 91 調査地点位置図	68
図 92 各調査地点断面図	68

V-13 長岡京左京九条三坊十二町跡, 淀城跡	
図 93 調査位置図	69
図 94 調査地点位置図	69
図 95 No.1・2 断面図	70
図 96 No.1 石垣平・立面図	70
V-14 周山城跡	
図 97 周山城跡と周辺遺跡位置図	72
図 98 採取軒瓦実測図	73
図 99 周山城跡赤色立体図(上)と踏査地点(下)	74

表 目 次

表 1 令和2年の詳細分布調査件数	1
表 2 出土遺物概要表	5
表 3 周辺の発掘・試掘調査一覧	28
表 4 測定資料および処理	32
表 5 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	34

図 版 目 次

巻頭図版1 平安宮豊楽院跡, 史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡), 鳳瑞遺跡
出土緑釉瓦

図版1～29 調査位置図

- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条三・四坊
- 図版 4 平安京左京四～六条一・二坊
- 図版 5 平安京左京四～六条三・四坊
- 図版 6 平安京左京七～九条一・二坊
- 図版 7 平安京左京七～九条三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条三・四坊

- 図版 9 平安京右京北辺～三条一・二坊
- 図版 10 平安京右京四～六条三・四坊
- 図版 11 平安京右京四～六条一・二坊
- 図版 12 平安京右京七～九条三・四坊
- 図版 13 平安京右京七～九条一・二坊
- 図版 14 伏見城跡、福島太夫遺跡、金森出雲遺跡、御香宮廃寺、桃陵遺跡、指月城跡
- 図版 15 伏見城跡、木幡ノ関跡、中山遺跡
- 図版 16 1 御土居跡 2 御土居跡 3 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園、
鹿苑寺旧境内（北殿）、御土居跡、大徳寺旧境内、史跡船岡山、雲林院跡、
紫野齋院跡、尊重寺跡、世尊寺跡、上京遺跡、北野遺跡、北野廃寺
- 図版 17 1 栗栖野瓦窯跡、幡枝古墳群、木野墓窯跡 2 史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）
3 雲林院跡、紫野齋院跡、寺ノ内旧域、
上京遺跡、相国寺旧境内、室町殿跡（花の御所）、常盤井殿町遺跡、寺町旧域、
公家町遺跡
- 図版 18 1 上里北ノ町遺跡 2 革嶋館跡、革嶋遺跡、下津林遺跡 3 上久世遺跡、
中久世遺跡、下久世構跡、大藪遺跡、長岡京跡、東土川遺跡
- 図版 19 長岡京跡、東土川遺跡、久我殿遺跡、鶏冠井清水遺跡、羽束師斐川城跡、羽束師遺跡、
長黒遺跡、志水落合城跡
- 図版 20 長岡京跡、水垂遺跡、淀水垂大下津町遺跡、旧淀城跡、淀城跡、木津川河床遺跡
- 図版 21 仁和寺院家跡、鳴滝藤ノ木町古墳、草木町遺跡、太秦馬塚町遺跡、村ノ内町遺跡、
上ノ段町遺跡、一ノ井遺跡、和泉式部塚古墳、和泉式部町遺跡、森ヶ東瓦窯跡、
西野町遺跡、多藪町遺跡、梅津坂本町遺跡、門田町遺跡
- 図版 22 上終町遺跡、北白川廃寺、小倉町別当町遺跡、北白川追分町遺跡、追分町古墳群、
北白川追分町縄文遺跡、吉田上大路町遺跡、吉田山遺跡、吉田神社境内、
神楽岡城跡、吉田二本松遺跡、聖護院川原町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、
白河南殿跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、延勝寺跡、最勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡、
東光寺跡、名勝無鄰庵庭園、史跡南禅寺境内
- 図版 23 白河街区跡、史跡青蓮院旧仮御所、知恩院境内、祇園遺跡、
名勝円山公園、法観寺旧境内、御土居跡、六波羅政庁跡、音羽・五条坂窯跡、
史跡方広寺大仏殿跡及び石塁・石塔、方広寺跡、法住寺殿跡
- 図版 24 1 嵯峨遺跡 2 周山城跡、周山廃寺
- 図版 25 1 史跡賀茂別雷神社境内、植物園北遺跡 2 今村城跡、法性寺跡、正覚寺跡
3 四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、
史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡

- 図版 26 1 中臣遺跡 2 鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡, 下鳥羽遺跡
3 史跡・名勝嵐山, 嵐山谷ヶ辻子町遺跡 4 福西古墳群
- 図版 27 1 東山古墳群, 長岡京跡 2 愛宕山遺跡 3 南野古墳群
4 梅津糺原町遺跡 5 東衣手町遺跡, 郡城跡 6 市史跡貴布祢神社境内
7 岩倉忠在地遺跡
- 図版 28 1 醍醐ノ森瓦窯跡 2 一乗寺松田町遺跡 3 御土居跡, 法成寺跡
4 如意寺跡, 西谷遺跡 5 法性寺跡, 本多山古墳群, 鳥部(辺)野
6 日ノ岡堤谷須恵器窯跡 7 安朱遺跡 8 山科本願寺南殿跡
- 図版 29 1 大宅廃寺, 大宅遺跡 2 深草坊町遺跡 3 史跡醍醐寺境内
4 日野谷寺町遺跡 5 向鳥城跡 6 深草遺跡, 西飯食町遺跡
7 上鳥羽遺跡 8 檜原廃寺跡, 檜原遺跡, 檜原廃寺瓦窯跡
- 図版 30・31 遺構
- 図版 30 山科本願寺跡(寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡 遺構
1 A-A' 土塁断面(南東から) 2 B-B' 土塁断面と現存土塁(南から)
3 B-B' 土塁断面(南東から)
- 図版 31 長岡京左京九条三坊十二町跡, 淀城跡 遺構
1 石垣東側(北から) 2 石垣西側(北から)

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和2年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では、令和2年1月6日から3月31日までの令和元年度分185件、令和2年4月1日から令和2年12月28日までの令和2年度分435件、計620件を報告する(表1)。

詳細分布調査の総件数は620件で、前年に比べて20件減少している(図1・2)。しかしこの件数は過去12年間では4番目に次いで多い件数にあたり、ここ5年はいずれも600件を超えている。ただ平安京内(平安宮・左京・右京地区)が前年309件、本年229件と80件も減少している。前年も一昨年より減少しており、平成30年をピークに減少傾向に入っている。しかし平安京外の地区ごとの増減傾向は、南桂川・京北地区が合わせて9件減少しているが、それ以外の地区は全て増加し、増加地区の前年の合計が309件で本年の合計が358件と64件も増加している。

令和2年はコロナ禍の年であった。東京オリンピックという世界的規模のイベントが延期になり、海外からの観光客も入国を規制され、観光都市を宣言している京都市には大きな痛手を受けている。それは詳細分布調査の調査対象にも変化をみせている。平成29年80件、平成30年84件、令和元年80件と3年連続で80件台を続けていた宿泊施設(大型ホテル、簡易宿所、ゲストハウス、旅館等)建設の詳細分布調査が本年は25件と大幅に減少している。これに代わって大幅に増加したものは、公共上下水道とガス配管及び電気のライフラインの工事である。前年が合計71件(水道29件・ガス27件・電気19件)だったものが本年は116件(水道40件・ガス51件・電気25件)となった。

以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮(HQ)

平安宮域では、平安宮跡、史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡)、右京北辺二坊二町跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡、二条城北遺跡の7遺跡で67件の調査を行った。

本書では豊楽院跡、史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡)、鳳瑞遺跡の調査(O2N071)で平安時代の瓦を多数採集したので報告する。

表1 令和2年の詳細分布調査件数

地 区	元年度1~3月	2年度4月~12月	小計	地 区	元年度1~3月	2年度4月~12月	小計
平安宮(HQ)	15	52	67	洛東地区(RT)	22	70	92
平安京左京(HL)	27	62	89	伏見・醍醐地区(FD)	17	36	53
平安京右京(HR)	28	45	73	鳥羽地区(TB)	17	21	38
太秦地区(UZ)	8	25	33	長岡京地区(NG)	8	26	34
洛北地区(RH)	20	47	67	南桂川地区(MK)	9	21	30
北白川地区(KS)	12	29	41	京北地区(UK)	2	1	3
				合 計	185	435	620

他に太政官跡、聚楽遺跡の調査（20K118）では試掘調査後に平安時代前期の包含層を検出した。

②平安京左京（HL）

左京城では、平安京跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、烏丸丸太町遺跡、高陽院跡、烏丸御池遺跡、妙顕寺城跡、堀川御池遺跡、寺町旧城、二条殿御池城跡、本能寺城跡、烏丸綾小路遺跡、御土居跡、東本願寺前古墓群、教王護国寺旧境内（東寺旧境内）、史跡教王護国寺境内、烏丸町遺跡の17遺跡で89件の調査を行った。

本書では三条四坊五町跡、烏丸御池遺跡の調査（19H831）で中世の土坑群など、九条三坊十四町跡、烏丸町遺跡の調査（20H061）で鎌倉時代から室町時代の遺構群を検出したので報告する。

この他、平安時代の遺構として四条二坊十五町跡、本能寺城跡の調査（19H517）で後期の土坑、三条四坊十五町跡の調査（20H173）では末期の包含層を検出している。鎌倉時代は六条三坊一町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（19H313）で土坑、八条二坊十五町跡の調査（19H275）ではビット、土坑、溝状遺構と包含層を、二条四坊四町跡、烏丸丸太町遺跡の調査（19H560）で包含層を検出している。室町時代は九条一坊九町跡、教王護国寺旧境内（東寺旧境内）の調査（19H829）で土坑と落込を、六条三坊一町跡、烏丸綾小路遺跡の調査（20H133）で包含層を検出した。

③平安京右京（HR）

右京城では、平安京跡、御土居跡、法金剛院境内、西ノ京遺跡、西院遺跡、西院城跡（小泉城）、西京極遺跡、衣田町遺跡、西市跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡の11遺跡で73件の調査を行った。

本書では一条四坊一・二・七町跡の調査（19H470）で鎌倉時代前期の東西溝、四条二坊十四町跡の調査（20H113）で平安時代前期から後期の溝、柱穴、土坑群、八条一坊九町跡の調査（19H771）

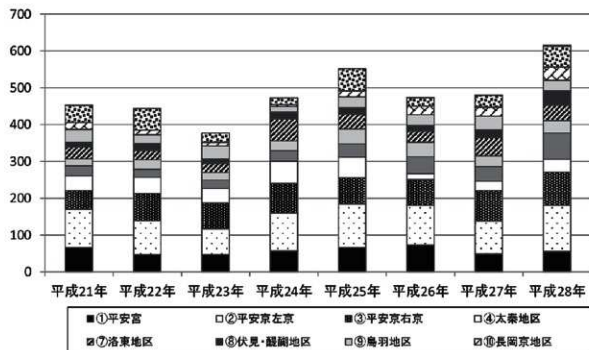


図1 詳細分布調査の年間件数推移（その1）

で平安時代の七条大路南側溝と、九条二坊六町跡、唐橋遺跡の調査（16H183）で平安時代前期から鎌倉時代の湿地を検出したのでこれらの調査を報告する。また、七条二坊七町跡、西市跡、衣田町遺跡の調査（19H531）では試掘調査後の調査で弥生時代後期のピットと土坑群、七条坊門小路北側溝と内溝を検出したため試掘調査の結果と合せて『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』に報告する。

この他、六条三坊二町跡、西院遺跡の調査（19H097）で平安時代前期の包含層を、九条二坊三・四町跡、唐橋遺跡の調査（20H103）でも平安時代の包含層を、五条二坊九町跡の調査（20H233）で鎌倉時代のピット群を、九条二坊十町跡の調査（18H850）で室町時代の湿地状堆積を検出している。また、時期不明であるが九条一坊四町跡の調査（19H154）で朱雀大路西築地内溝推定地で南北溝を、九条二坊六町跡、唐橋遺跡の調査（19H756）で九条大路推定地で路面の可能性を持つ堆積層を検出した。また六条一坊三町跡、御土居跡の調査（19H620）で御土居濠の埋土を検出している。

④太秦地区（U Z）

愛宕山遺跡、嵯峨遺跡、仁和寺院家跡、鳴滝藤ノ木町古墳、村ノ内町遺跡、太秦馬塚町遺跡、森ヶ東瓦窯、和泉式部町遺跡、和泉式部塚跡、一ノ井遺跡、西野町遺跡、上ノ段町遺跡、多数町遺跡、草木町遺跡、門田町遺跡、梅津坂本町遺跡、南野古墳群、梅津萩原町遺跡、東衣手町遺跡、都城跡の20遺跡及び南野古墳群隣接地で33件の調査を行った。

仁和寺院家跡の調査（20S203）では、鎌倉時代の包含層と時期不明の土坑、門田町遺跡の調査（20S444）で中世の土坑、愛宕山遺跡の調査（19A001）では桃山時代の陶器を多量に採集した。

⑤洛北地区（RH）

市史跡貴布祢神社境内、岩倉忠在地遺跡、栗栖野瓦窯跡、幡枝古墳群、木野墓窟跡、史跡賀茂別雷神社境内、植物園北遺跡、醍醐ノ森瓦窯跡、御土居跡、大徳寺旧境内、雲林院跡、特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園、鹿苑寺旧境内（北殿）、北野麩寺、北野遺跡、史跡船岡山、紫野斎院跡、尊重寺跡、世尊寺跡、上京遺跡、寺ノ内旧域、相国寺旧境内、常盤井殿町遺跡、室町殿跡（花の御所）、寺町旧域、公家町遺跡、史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）の27遺跡で67件の調査を行った。

本書では植物園北遺跡の調査（19S511）

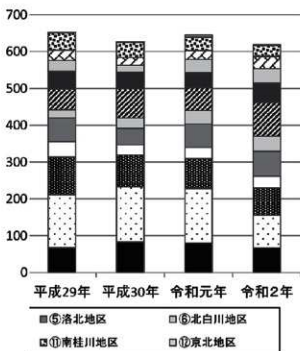


図2 詳細分布調査の年間件数推移（その2）

で古墳時代の土坑、ピット、市史跡貴布祢神社境内の調査（20A002）で平安時代後期の整地層及び礎石、室町殿跡（花の御所）、上京遺跡の調査（19S334）では2020年発掘調査で検出した室町時代の庭園遺構の一部である景石、史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）の調査（02N017）では室町時代の土坑を検出したのでこれらの調査を報告する。また特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金剛寺）庭園の調査（20A006）では2020年発掘調査後に放射性炭素年代測定のための資料採集と分析を行ったので報告する。

この他、木野墓窯跡の調査（19A002）では奈良時代の土器、瓦を多量に採集した。雲林院跡の調査（18S715）では中世の包含層及び落込、上京遺跡では2箇所の調査（20S510、20S218）で室町時代と中世の包含層を検出している。

⑥北白川地区（KS）

一乗寺松田町遺跡、小倉町別当町遺跡、北白川廃寺、上終町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、北白川追分町遺跡、追分町古墳群、吉田上大路町遺跡、吉田二本松町遺跡、吉田神社境内、吉田山遺跡、神楽岡城跡、聖護院川原町遺跡、尊勝寺跡、最勝寺跡、法勝寺跡、得長寿院跡、白河北殿跡、白河南殿跡、白河街区跡、岡崎遺跡、東光寺跡、延勝寺跡、史跡南禅寺境内、名勝無鄰庵庭園、法成寺跡、御土居跡の27遺跡で41件の調査を行った。

本書では白河街区跡の調査（18S217）で古墳時代の土坑群及び平安時代後期の落込を検出したので報告する。

この他、北白川追分町遺跡の調査（19S748）で鎌倉時代の包含層を検出した。また小倉町別当町遺跡の調査（18S707）では試掘調査後に時期不明の包含層と土坑群を検出している。

⑦洛東地区（RT）

史跡青蓮院旧仮御所、知恩院境内、祇園遺跡、名勝円山公園、御土居跡、法観寺旧境内、音羽・五条坂窯跡、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、史跡方広寺大仏殿跡及び石墨・石塔、今村城跡、法性寺跡、正覚寺跡、鳥部（辺）野、本多山古墳群、如意寺跡、西谷遺跡、日ノ岡堤谷町須恵器窯跡、安朱遺跡、四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡、山科本願寺南殿跡、大宅廃寺、大宅遺跡、中臣遺跡の27遺跡で92件の調査を行った。

本書では中臣遺跡の調査（19N386）で弥生時代のピット、土坑を、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡の調査（01N102）で史跡土塁の断面観察を行い、如意寺跡、西谷遺跡の調査（19S186）では遺跡範囲外で平安時代前期の遺物を採集したので報告する。

⑧伏見・醍醐地区（FD）

深草坊町遺跡、伏見城跡、福島大夫遺跡、金森出雲遺跡、御香宮廃寺、桃陵遺跡、指月城跡、向島城跡、木幡ノ間跡、中山遺跡、史跡醍醐寺境内、日野谷寺町遺跡の12遺跡で53件の調査を行った。

本書では史跡醍醐寺境内の調査（02N005）で平安時代中期の軒平瓦を採集したので報告する。

この他、伏見城跡の調査では1箇所（20F419）で伏見城期以前の中世の包含層、3箇所（19F231、16F293、19F643）で伏見城期、近世と考えられる造成土および整地層を検出している。

⑨鳥羽地区 (TB)

深草遺跡、西飯食町遺跡、上鳥羽遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、下鳥羽遺跡、久我殿遺跡、志水落合城跡、淀城跡、木津川河床遺跡の10遺跡で38件の調査を行った。

鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡の調査(20T128)では平安時代後期と考えられる整地層を検出した。

⑩長岡京地区 (NG)

長岡京跡、東土川遺跡、鶏冠井清水遺跡、羽東師菱川城跡、羽東師遺跡、長黒遺跡、水垂遺跡、旧淀城跡、淀城跡、淀水垂大下津町遺跡の11遺跡で34件の調査を行った。

本書では左京一条四坊三・四町跡、東土川遺跡の調査(19NG682)で弥生時代のビット、土坑を、左京二条四坊一町跡、東土川遺跡の調査(19NG761)では2019年発掘調査で検出された長岡京期の南北溝の延長部を検出し、左京九条三坊十二町跡、淀城跡の調査(17NG294)で淀城二ノ丸北限(旧宇治川南護岸)の石垣を検出したのでこれらを報告する。

この他、左京五条四坊十六町跡、長黒遺跡の調査(19NG685)で長岡京期の包含層を検出している。

⑪南桂川地区 (MK)

史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡、革嶋館跡、革嶋遺跡、下津林遺跡、榎原廃寺、榎原廃寺瓦窯跡、榎原遺跡、福西古墳群、上久世遺跡、中久世遺跡、大敷遺跡、下久世橋跡、東山古墳群、上里北ノ町遺跡の15遺跡及び上久世遺跡隣接地で30件の調査を行った。

榎原遺跡、榎原廃寺瓦窯跡の調査(20S514)で平安時代の包含層を検出している。

⑫京北地区(UK)

周山城跡、周山廃寺の2遺跡で3件の調査を行った。

本書では周山城跡の調査(19A009)で山頂部(天守)で瓦を採集したので報告する。

(吉本 健吾)

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク箱数	Cランク箱数	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	130点 (6箱)	土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、瓦など	1箱	3箱	10箱

Ⅱ-1 平安宮豊楽院跡，史跡平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡），鳳瑞遺跡（02N071）



図3 調査位置図（1：5,000）

No.1 地点		No.2 地点	
東壁	GL	東壁	GL
攪乱	-0.5m	現代盛土	-0.5m
1		1	

- 1 5YR3/2 暗赤褐色砂泥
（焼土、瓦、潮灰岩片混じる）
【平安時代包含層】
- 1 10YR2/2 黒褐色砂泥
【地山か】

0 1m

図4 調査地点柱状図（1：50）

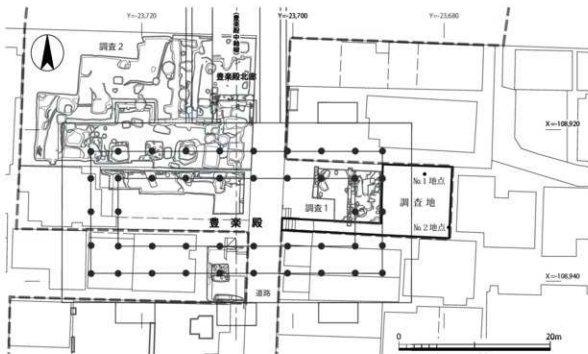


図5 調査地点位置図（1：500）

1. 調査の経緯（図3・5）

調査地である中京区聚楽廻西町 86-1 は、令和 2 年 11 月に、文化庁文化審議会より「史跡平安宮跡 内裏跡 朝堂院跡 豊楽院跡」に追加指定される答申が出ており、近々官報告示される見込みである。この度、本市による公有化を進めるため、既存木造住居を解体することとなり、基礎撤去に伴う調査を実施した。

調査地は、豊楽院の正殿である豊楽殿基壇東縁（図5）及び豊楽殿東廊附近に位置することから、関連する遺構、遺物の出土が予想された。また、隣接地の調査（調査1）から、遺構面が極めて浅い場所にあることが想定された¹⁾。

調査は 11 月 6 日に実施し、表土直下の既存建物基礎に伴う攪乱より、緑釉瓦をはじめ平安時代の瓦類が多量に出土したため、これを報告する。

2. 遺構 (図4・5)

調査は2箇所で行った(図5)。層序は、No1地点では、基礎解体に伴う攪乱直下のGL-0.5 mにて暗赤褐色砂泥の平安時代包含層、No2地点では、現代盛土直下のGL-0.5 mにて地山と考えられる黒褐色砂泥となる(図4)。

調査範囲が狭小のため明確にし得ないが、No1地点の掘削底で確認した包含層は、焼土や凝灰岩片を含んでおり、豊楽殿基壇東縁又は東廊北縁に関わる遺構の可能性を示唆するものである。No2地点では、東廊基壇内と想定されるが、基壇盛土と判断できる層序は認められなかった。

遺物は、No1地点の包含層直上の攪乱から平安時代前期～中期後半にかけての瓦や凝灰岩片が出土した。

3. 遺物 (巻頭図版1・図6～8)

出土した遺物は加工痕のある凝灰岩片(図6-1)を除き全て瓦類(図7-2～11)である。全てNo1地点の攪乱から出土したものである。

1は凝灰岩である。辺長21 cm以上、厚さ13 cm以上の方形を呈し、3面が残る。上面には幅3 cmの鑿痕が3箇所残る。

瓦類では緑軸瓦が多数を占め、軒平瓦、熨斗瓦のほか、瓦当部を欠損した軒丸瓦、軒平瓦がある。他に軒平瓦、軒丸瓦、丸瓦、平瓦が出土している。2次被熱の認められるものが多い。

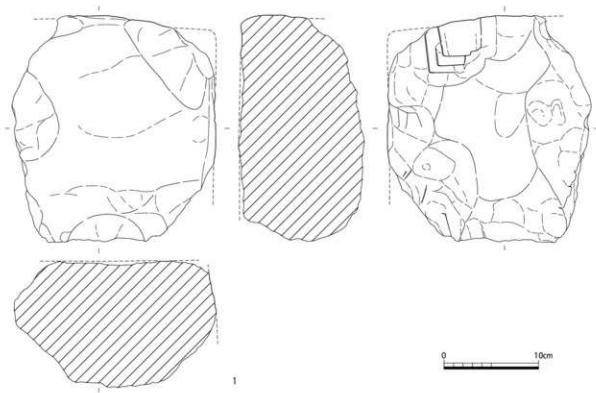


図6 出土遺物実測図1(1:4)

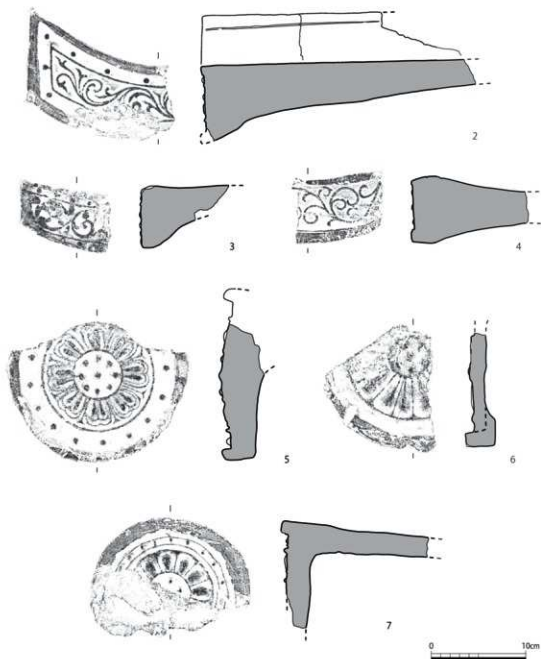


図7 出土遺物実測図2 (1:4)

2～4は軒平瓦である。2は緑釉唐草文軒平瓦である。唐草は外側に向かって展開し、主葉は連続して緩やかに反転する。外区には珠文が巡る。曲線顎で、瓦当部凹面ヨコケズリ、平瓦部凹面には布目がある。平瓦部凸面は縄叩き目と一部ナデ消し、側面はナデ。胎土は砂粒を含むものの、密で、焼成は良好である。瓦当部凹面から瓦当部、顎面、凸面にかけて濃緑色の釉が施される。栗栖野瓦窯産で平安時代前期に属する。緑釉軒平瓦は5点出土しているが、瓦当部が残るのはこの1点のみである。3は唐草文軒平瓦である。唐草は外側に向かって展開する。主葉は大きく反転し、子葉は巻き込み先端が丸くなる。外区には珠文が巡る。曲線顎で、瓦当部凹面ケズリ、平瓦部凹面に布目がある。顎部ヨコケズリ、凸面ヨコナデ、側面タテケズリを施す。胎土は密で焼成良好。森ヶ東瓦窯産と思われる、平安時代中期後半に属する。4は唐草文軒平瓦である。唐草は連続し先端が

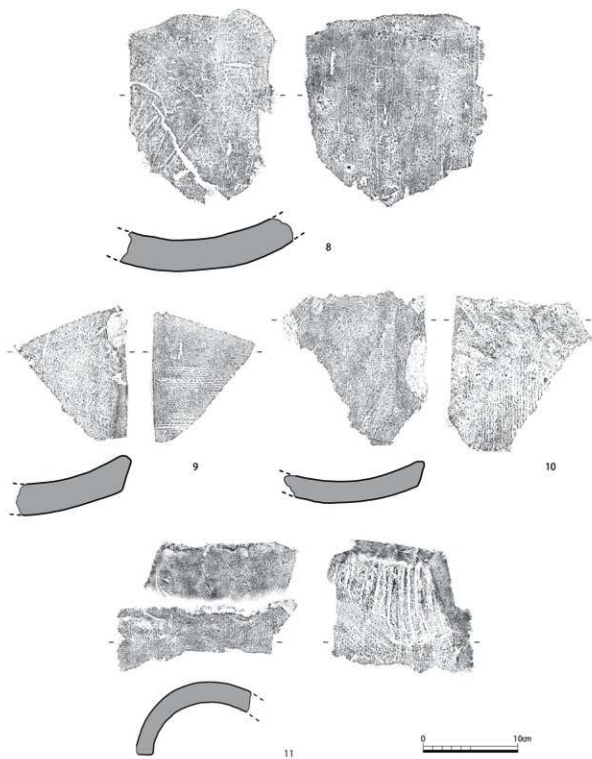


図8 出土遺物実測図3 (1:4)

大きく巻き込む。曲線顎で、瓦当部凹面タテケズリ，平瓦部凹面布目，顎部ヨコケズリ，凸面タテケズリ，側面タテケズリを施す。胎土は密で焼成良好。凹面は2次被熱により，赤変している。瓦当面中央に横方向の范傷が認められ，離れ砂が付着する。森ヶ東瓦窯産と考えられ，平安時代中期後半に属する。

5～7は軒丸瓦である。5は複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。中房は大きくやや盛り上がり、圈線が巡る。蓮子は1+8を配す。蓮弁は子葉が盛り上がり、外側に輪郭線が巡る。間弁は撥形を呈す。外区には珠文が巡る。瓦当成形は瓦当貼付けで、瓦当部側面下半ナデ、裏面ナデ。胎土は砂粒を含み、焼成はやや軟質。西賀茂瓦角社窯産で平安時代前期に属する。6は複弁蓮華文軒丸瓦である。中房は凸型で、蓮子は1+6か。蓮弁は子葉が細く、輪郭線が圈線に接する。瓦当部側面ナデ、裏面ヨコナデ及びユビオサエ。瓦当裏面の周縁寄りに粘土を足す。胎土は粗く、焼成は軟質。平安時代中期後半と考える。7は単弁蓮華文軒丸瓦である。中房は平坦で、蓮子を配す。蓮弁は子葉が盛り上がり先端が返る。外区には小型の珠文が密に巡る。瓦当成形は瓦当貼付け。瓦当部側面ヨコケズリ、裏面ケズリ、丸瓦部凸面タテケズリ、凹面に布目がある。側面タテナデ。瓦当部に緑釉が僅かに付着する。胎土は密で、焼成は良好。丹波産と考えられ、平安時代中期後半に属する。

8は緑釉軒平瓦の平瓦部である。平瓦部凹面に布目が残り、凸面タテケズリ。凹凸面に緑釉が残る。緑釉は2次被熱を受け銀化している。胎土は砂粒を多く含み、焼成はやや軟質。平安時代前期に属する。9は緑釉軒平瓦の平瓦部である。瓦当部は欠損。凸面縄叩き後、施釉部のみナデ消し。凹面布目がある。側面タテナデ。胎土は砂粒を多く含み、焼成は軟質。平安時代前期に属する。10は緑釉熨斗瓦である。凸面縄叩き、凹面は布目があり部分的にナデ消し。側面、端面ケズリ。凸面端から側面にかけて緑釉を施す。胎土は砂粒を多く含み、焼成は軟質。平安時代前期に属する。11は丸瓦である。胴部凸面縄目とヨコナデ、玉縁部凸面ナデ、凹面布目がある。側面はナデを施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好である。全体に2次被熱し、赤変している。平安時代前期に属する。

4. まとめ

今回の調査では、豊楽殿基壇東縁と豊楽殿東廊との北入隅付近と想定される場所で、擾乱からの出土であるが、平安時代の瓦が複数出土した。出土地点が基壇の内外いずれかは特定できなかったが、加工痕の残る凝灰岩片(図6-1)が出土していること、瓦が出土した擾乱下層にも凝灰岩粉が認められることから、基壇に近接した場所であることは間違いない。

出土した瓦は平安時代前期から中期後半に位置付けられるものである。複数出土した緑釉瓦については、豊楽殿創建時に葺かれていたことが明らかになっており²⁾、豊楽殿所用瓦と判断できる。2次焼成を受けているものも見受けられ(図8-7)、火災があったことを示す。史料には豊楽殿における火災は、正暦元年(990)の落雷に伴うもの³⁾と、康平6年(1063)の霽景楼西北廊からの出火によって豊楽院が焼亡した⁴⁾2度が見える。前者は消し止められており、被害は最低限に留められたことがわかる。緑釉瓦以外にも、中期後半に位置付けられる瓦(図7-4)に2次被熱痕が認められることから、豊楽院が全焼した康平6年の火災によって被災した遺物と捉えられる。ただし、擾乱の出土であることと、9世紀初頭とされる豊楽殿の創建⁵⁾に用いられた緑釉瓦が250年以上屋根に葺かれ続けたことになるため⁶⁾、慎重な判断が求められよう。

緑軸瓦以外の出土瓦は豊楽殿所用であるかどうか判断できないが、豊楽院焼亡の時期を含む中期後半の瓦が出土したことは、当該期にも豊楽院において修造が行われていたことを示している。豊楽院は、11世紀初頭には荒廃していたことが記されているものの⁷⁾、修造の記事も度々認められることから⁸⁾、いずれかの修造時に用いられたものと考えられる。

(西森 正晃)

註

- 1) 隣接地(図5調査1)では、表土直下にて豊楽殿基壇土となる。
西森正晃「平安宮豊楽殿跡・鳳瑞遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成27年度』京都市文化市民局、2016年。
- 2) 図5調査2にて、豊楽殿と後殿である清暑堂とを繋ぐ北廊の造営に当たり、豊楽殿北面中央階段を取り壊して基壇が造成され、豊楽殿が先行して造営されたことが明らかとなっている。北廊基壇盛土に瓦1と同范の緑軸瓦が含まれており、豊楽殿の創建時に用いられた瓦であることが明らかとなっている。
鈴木久男「平安宮豊楽院(1)」『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局、1989年。
- 3) 『小右記』正暦元年八月十二日条
- 4) 『扶桑略記』、『百練抄』康平六年三月二十二日条
- 5) 豊楽殿造営は、平安京遷都にやや遅れ、延暦18年(799)に渤海使を迎えた正月七日の白馬節の際、^{あひまのついで}「豊楽殿未成功」とあり、未完成であったことがわかる(『日本後紀』延暦十八年正月七日条)。大同3年(808)の平城天皇大嘗会は豊楽殿で執り行われていることから、豊楽殿の完成は9世紀初頭である(『日本紀略』大同三年十一月十五日条)。
- 6) 萬壽2年(1025)に、藤原道長が法成寺に葺く瓦に鉛を用いるため(緑軸瓦)、鉛を使って造られた豊楽殿の鴟尾を取らせたという記載がある。この鴟尾は緑軸瓦であると考えられるため、長期間の利用に十分耐えうるものであることがわかる(『小右記』萬壽二年八月十二日条)。
- 7) 『権記』長保三年(1001)三月五日条
- 8) 『御堂関白記』寛弘元年(1004)八月六日条、『小右記』寛弘8年(1011)八月十六日条、『左経記』長元元年(1028)四月三日条等に豊楽院修造の記載がある。

Ⅲ-1 平安京左京三条四坊五町跡，烏丸御池遺跡 (19H831)

1. 調査に至る経緯と経過 (図9)

調査地は、京都文化博物館より高倉通を隔てた東側に位置する (図9)。平安京の復元では、左京三条四条五町の西辺に相当し、敷地の西際が高倉小路の築地心に近接する。当町域では平安時代中期に右兵衛尉藤原保輔の邸宅跡が、後期に極中納言藤原清隆及び隆輔の三条万里小路第や、権右中弁藤原光房邸、内大臣藤原公教邸等があったとされる。今回、この区画にホテルの建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。



図9 調査位置図 (1:5,000)

同町内では、調査地の東隣接地において、平成11年度に発掘調査が行われており (図9①)、GL-1.4 mで鎌倉時代後期～室町時代の遺構面、-1.7 mで平安時代末～鎌倉時代初頭の遺構面、-1.9 mで確認された地山の上面では、古墳時代前期 (布留式期) に遡る大溝が検出されている。また、同町東半部では、平成30年度に発掘調査が行われており (②)、GL-1.7 mで江戸時代初頭遺構面、-2.0 mで戦国時代・桃山期遺構面、-2.3 mで室町時代遺構面、-2.6 mで鎌倉時代遺構面が確認されている。さらに、その下層には弥生時代～平安時代に埋没した河川の存在が報告されている。このほか、高倉通を隔てた三条四坊四町内では、昭和52年と同62年に文化博物館建設に先立つ発掘調査が行われており (③・④)、高倉小路の路面や西側溝が検出されている。このため、今回の調査においても連続する遺構面及び遺構群の存在が予測された。

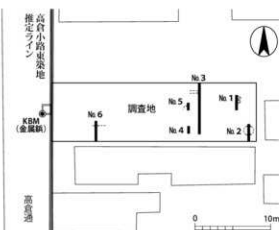


図10 調査地点位置図 (1:500)

2. 調査成果 (図10～12)

調査は、計6箇所において断面観察を行った (図10)。いずれの調査地点においても、GL-1.4 m前後まで既設工事等による攪乱を受けており、桃山期～江戸時代の包含層はすでに失われている。今回の調査では、平安時代末～鎌倉時代の整地層と室町時代の遺構群を検出した (図11)。

No.1地点では、盛土以下、GL-1.3 mまで鎌倉時代の包含層、掘削底である-1.5 mまで平安時代末～鎌倉時代の整地層を確認した。鎌倉時代の包含層上面では室町時代の土坑1とピット2が成立している。土坑1からは土師器皿（15世紀）、信楽焼播鉢（15世紀）等が出土した。No.2地点では、盛土以下、掘削底である-1.5 mまで平安時代末～鎌倉時代の整地層を確認した。整地層上

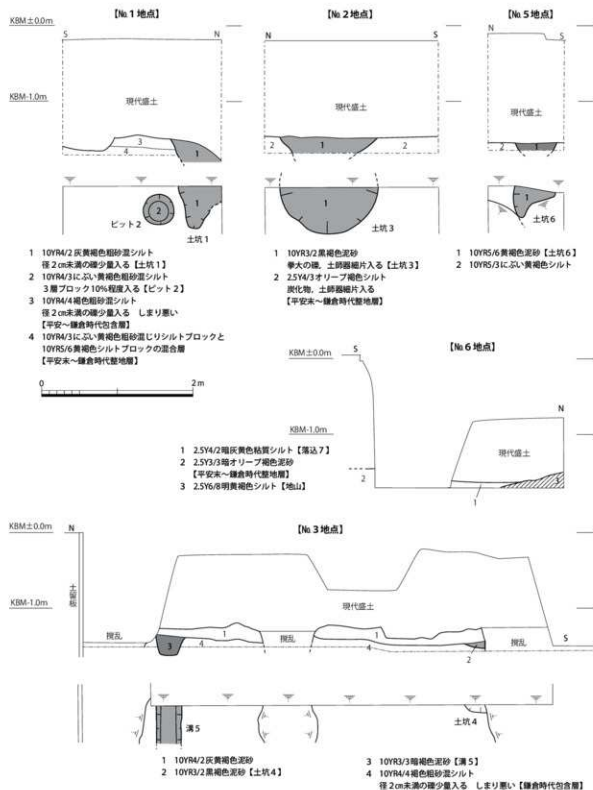


図11 調査地点平・断面図(1:50)

面では平面円形を呈する土坑3を検出した。埋土に拳大の礫を多く含むことから、根石を充填した柱穴であったと推定される。埋土から、土師器皿(図12-2~7(12~14世紀))、瓦器椀(図12-8~11(12~13世紀))が出土した。また整地層内からは、ての字状口縁をもつ土師器皿(図12-1)や緑釉陶器椀の小片が出土した。No.3・No.4地点では、盛土以下、GL-1.4 mまで室町時代の包含層、掘削底である-1.5 mまで鎌倉時代の包含層を確認した。この上面では土坑4と溝5を検出した。溝5は最大幅0.7 m、最大深度0.25 mを測る遺構で、東西に向かい直線状にのびる。埋土から白磁碗(図12-13)が出土した。また鎌倉時代の包含層からは、須恵器鉢や灰釉陶器壺の小片のほか、容器等の把手と推測される土師質の土製品(図12-12)が出土した。No.5地点では、盛土以下、掘削底であるGL-1.5 mまで平安時代末~鎌倉時代の整地層を確認した。整地層上面では土坑6を検出した。土坑6内からは、土師器皿(14~15世紀)が出土した。No.6地点では、盛土以下、GL-1.5 mで明黄褐色シルトを主体とする地山を確認した。これにより原地形が西から東へ向かって徐々に下がることが明らかとなった。

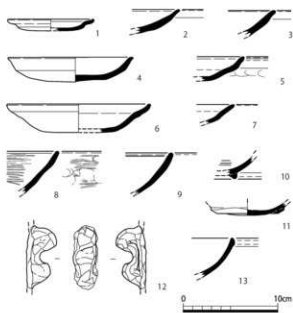


図12 出土遺物実測図(1:4)

3. まとめ

以上、平安京左京三条四坊五町跡における調査について記述した。今回の調査では、限られた範囲内ではあるものの、平安~室町時代の上層や遺構を確認することができた。当該地域は頻繁に建造物の建て替えが行われるような開発過多エリアであるが、そのような状況下においても遺構が地中に多く残存する状態を捉えた成果と言える。商業地域と重なる平安京跡の復元では、開発内容に合わせたきめ細かい対応が今後も重要となるだろう。

(黒須 亜希子)

引用文献

- 調査①：古代文化調査会『平安京左京三条四坊五街ーメロディハイム堺町新築に伴う調査ー』、2001年。
 調査②：(株)イビソク『平安京左京三条四坊五街跡・烏丸御池遺跡ー大阪材木町における埋蔵文化財発掘調査報告書ー』イビソク京都市内遺跡調査報告第22巻、2020年。
 調査③：(財)古代学協会『平安京高倉宮・曇華院跡』平安京跡研究調査報告第8巻、1983年。
 調査④：(財)古代学協会『高倉宮・曇華院跡第4次調査』平安京跡研究調査報告第18巻、1987年。

Ⅲ－２ 平安京左京九条三坊十四町跡，烏丸町遺跡 (20H061)

1. 調査に至る経緯と経過 (図13)

調査地は、烏丸通と九条通の交差点より北東に位置する。平安京の復元では、左京九条三坊十四町の南辺に相当し、敷地の一部が信濃小路の路面にかかる。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

この町域には、平安時代後期に太政大臣藤原道長の「九条亭」があり、道長亡き後は、孫である藤原信長が御堂「九条堂」を設けたとする地歴が残る。その後、永久元年(1113)に藤原忠実が寺に改築し、保安3年(1123)には「城興寺」として伽藍供養を行った。その規模は広大で、南側の十三町をあわせた二町分の敷地を占めていたとされる。

周辺の調査成果を見ると、竹田街道付近において昭和53年度に1件(図13②)、平成30年度に2件(図13①③)の発掘調査が行われており、それぞれ東洞院大路の東側築地心の基底部と東側溝、町域の内溝が確認されている(11世紀後半～12世紀)。このうち、①では、これらの遺構を横断する形で切り込む東西方向の溝が検出されており、信濃小路の北側溝である可能性が示されている。

一方、調査地の西側では地下鉄烏丸線建設に先立つ発掘調査(図13④)において、烏丸小路の路面と、東側溝と信濃小路北側溝の合流部が確認されている。

このため、今回の調査においても連続する遺構群の存在が予測された。



図13 調査位置図(1:5,000)



図14 調査区配置図(1:400)

2. 調査成果 (図14～16)

調査は、4箇所において断面観察を行った(図14)。

基本層序は、現代盛土、近世堆積層、中世包含層であり、GL-0.9 m程度で地山に達する。ただし攪乱が著しく、盛土直下に地山が露出する箇所も多い。今回の調査では、地山上面において鎌倉時代～室町時代の遺構群を検出した(図15)。

No.1地点では、重層する溝を2条検出した。新旧2時期の遺構であり、上層が東西溝の一部である。No.2地点では、連続するとみられる遺構の肩を確認した。下層は南北溝で、北側のNo.3地点まで連続すると考えられる。暗色化が顕著で埋土に流水痕跡はないことから、静かな湛水状況にあったことが窺える。この東西溝(溝1)は想定される信濃小路の北側築地心とは5 m近く離れるものの、図13④で検出された溝と連続する可能性は高い。北東端に設けたNo.4地点では、地山上面においてビット1基(室町時代)を検出した。

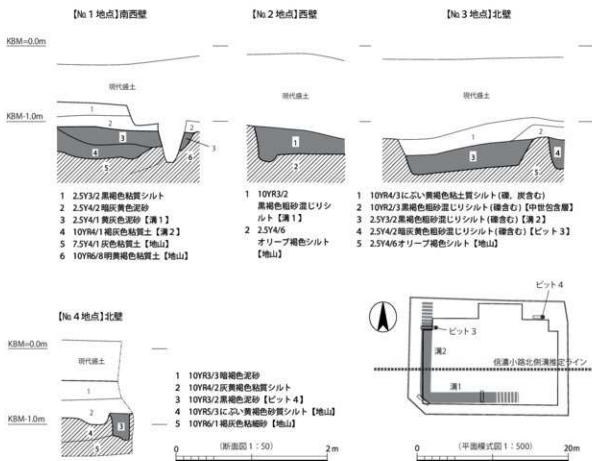


図15 調査地点断面図及び平面模式図(1:50・1:500)

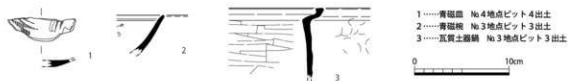


図16 出土遺物実測図(1:4)



図 17 調査地周辺条坊復原図 (1 : 1,250)

3. まとめ (図 17)

以上、平安京左京九条三坊十四町跡の調査成果について記述した。今回の調査では信濃小路に関連すると考えられる遺構の一部を捉えたが、条坊想定ラインより大きくずれる結果となった。これが二町にわたる九条亭の構造によるものか、もしくはそれ以前の都城整備の遅れに起因するものか、あるいは中世以後に人々が大路小路に居住した巷所の痕跡と見るのかは、意見が分かれるところである。今後の調査の進展を待ち、再考の機会としたい。(黒須 亜希子)

引用文献

- 調査①：(株)イビソク『平安京左京九条四坊三町跡・烏丸町遺跡—東九条山王町における埋蔵文化財発掘調査報告書—』イビソク京都市内遺跡調査報告第21輯，2019年。
- 調査②：(財)京都市埋蔵文化財研究所「27 平安京左京九条四坊三町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2011年。
- 調査③：(株)イビソク『平安京左京九条四坊二町跡・烏丸町遺跡—東九条山王町における埋蔵文化財発掘調査報告書—』イビソク京都市内遺跡調査報告第21輯，2019年。
- 調査④：(財)京都市埋蔵文化財研究所「10 平安京左京九条三坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1987年。
- 調査⑤：古代文化調査会『平安京左京九条三坊十町—パソフィックレビュー—京都駅前新築に伴う調査—』2006年。

IV-1 平安京右京一条四坊一・二・七町跡 (19H470)

1. 調査の経緯 (図18・19)

調査地は右京区花園木辻北町1-1他の花園中学校・高校敷地内に位置し、平安京右京一条四坊一・二・七町跡に該当する。当町の居住者等については不明である。

当敷地内では、校舎等の建て替えに伴って発掘調査が数回実施されている¹⁾。既存建物の影響を受けた箇所も多いが、二町西部に位置する4号館建て替え時の発掘調査では、平安時代末期～鎌倉時代前期の溝や柱穴群、墓などが検出された²⁾。

今回、校舎建て替えの付帯工事に際して、令和2年3月13日～10月28日まで断続的に調査を実施し、溝や土坑・ピットを検出した。ここでは、前述した4号館の東側で検出した鎌倉時代前期の溝を中心に報告する。



図18 調査位置図 (1:5,000)

2. 層序と遺構 (図20～22)

基本層序はA-A'間において、GL-0.33mで黒褐色シルト(1層)の遺物包含層、-0.39mで黄褐色シルトの地山(5層)となる。A-A'間では地山上面で東西溝1条を検出し、B-B'間では東西溝の西延長部とピット1基を検出した。東西溝(2・3層)は検出幅約5～6m、深さ0.5mで、埋土は黒褐色シルトである。明確な切り合い関係を判別できなかったため、図20では破線で示しているが、複数回掘り直されたと考えられ、その場合それぞれの溝の幅は2.5～3.5mほどである。ピットは径0.25m、深さ0.3mで、埋土は黒褐色シルトである。

3. 遺物 (図23)

東西溝から土師器皿、須恵器甕、瓦器碗が出土し、ピット・遺物包含層から土師器皿が出土した。ここでは東西溝と遺物包含層から出土した遺物を報告する。1～3は土師器皿Nである。1・2は口径7.8～9.4cm、高さ1.2～1.9cmである。4は瓦器碗である。1・2は遺物包含層、3・4は東西溝から出土した。時期は鎌倉時代前期のものと考えられる。図化できなかったが、ピットから出土した土師器皿も同時期のものと考えられる。

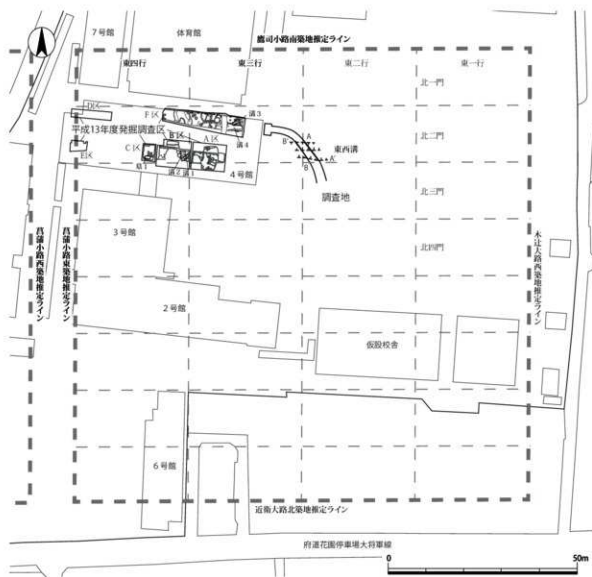


図 19 調査地点位置図 (1 : 1,000)

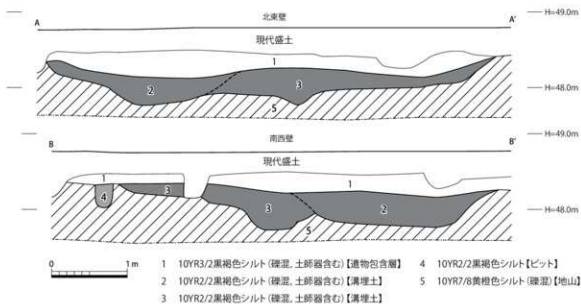


図 20 A-A'・B-B' 間断面図 (1 : 50)



図21 A-A' 間東西溝 (西から)



図22 B-B' 間東西溝 (北から)

4. まとめ

本調査では、鎌倉時代前期の東西溝とピットを確認した。東西溝は、四行八門制の北二・三門境に位置するが、11世紀以降は宅地割が四行八門制から町屋型に変わっていくことが指摘されている³⁾。したがって、今回検出した東西溝は、宅地の区画溝と考えられる。

なお、本調査地の西側で平成13年度に実施された

4号館の発掘調査では、A～C・F区を中心に、地山上面で平安時代末期～鎌倉時代前期の遺構が確認されている。特に、B区では北東-南西方向の溝1と南北方向の溝2、墓1が、F区では東西溝4とそれに合流する東北-西南方向の溝3が検出される(図19)など、今回検出した東西溝と連続するわけではないが、同時期の遺構が展開している状況を指摘できる。また、溝2は東三・四行境に位置しており、区画溝の可能性が考えられる。

今後も校舎の建て替えなどに伴って調査を積み重ねていくことで、宅地内の土地利用についてより明らかになることを期待したい。

(熊谷 舞子)

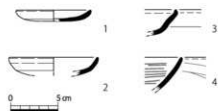


図23 出土遺物実測図(1:4)

註

- 1) 体育館・3号館・4号館等で発掘調査が実施されている(体育館:「平安京右京一条四坊一・二町」『花園大学構内調査報告Ⅲ』花大考研報告7 花園大学考古学研究室, 1989年)。
- 2) 3号館・4号館:「平安京右京一条四坊一・二町」『平安京右京二条三坊八町-花園大学構内調査報告Ⅵ- (附 平安京右京一条四坊一・二町)』花園大学考古学研究报告 第15冊 花園大学考古学研究室, 2010年。
- 3) 家原圭太「古代都城における小規模宅地の居住施設と居住形態」『古代学研究』216号, 2018年。

IV-2 平安京右京四条二坊十四町跡 (20H113)

1. 調査の経緯 (図24)

本件は、事務所兼共同住宅の建設に伴う詳細分布調査である。調査地は右京区西院西今田町で、平安京右京四条二坊十四町跡の北西部に位置する。同町は淳和天皇の離宮である淳和院の一部と伝わる。

同町内では、これまでに試掘・発掘調査は実施されておらず土地の利用状況等については不詳である。周辺では、それほど多くはないものの発掘調査が実施されている¹⁾。調査①や②では、平安時代の遺構・遺物が確認されている。特に調査①では、平安時代の築地内溝や掘立柱建物跡、柵列、鋳造施設、井戸など淳和院に関する遺構群が確認されており、各時期における土地利用の変遷の一端が明らかになった点は特筆される。また、調査③では、平安時代前期の粘土探掘坑と考えられる土坑や平安時代後期から鎌倉時代にかけての土坑や柵列、溝などが確認されている。調査④では、道祖川や道祖大路内溝、区画溝、建物跡など平安時代



図24 調査位置図 (1:5,000)

前期から後期にかけての遺構・遺物が確認されている。以上のように、周辺では疎密があるものの平安時代前期から宅地として利用されている状況が認められる。

なお、調査期間は令和2年6月29日～7月3日で、調査は7箇所で行った。調査の結果、平安時代を中心とした時期の遺構・遺物を確認した。

2. 層序と遺構 (図25・26)

層序は、厚さ0.5mほどの現代盛土の下にふい黄色細砂 (A地点1層) や明黄褐色粗砂 (E地点1層・F地点1層) が存在する。その直下に厚さ0.2mほどの遺物包含層がある。ただし、この遺物包含層には平安時代の遺物包含層とみられる暗灰黄色シルトなど (A地

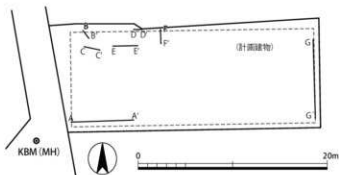


図25 調査地点位置図 (1:400)

点2層・D地点1層・E地点2層)のほか、平安時代後期～中世の遺物包含層と考えられる黒褐色シルト(G地点3層)、室町時代の遺物包含層である暗灰黄色シルト(C地点2層)の3種類が確認できる。これらの包含層の直下、最も浅い場所ではGL0.6m前後で明褐色シルトや褐色シルト、黄橙色粘土の地山となる。以下、各地点での調査成果を述べる。

A地点 地山上面で成立する溝1条、土坑3基を確認した。溝1は南北方向の溝である。深さは0.18m、幅1.55m以上である。土坑2は深さ0.17m、東西長1.0mで、底面がやや不定形である。土坑3は深さ0.27m、東西長1.65mである。土坑4は深さ0.2m、東西長0.5mである。遺物は各遺構から出土しているもののほとんどが小片であり量も少ない。ただし、土坑2より出土した土師器の椀もしくは皿とみられる小片の外にはケズリと思われる痕跡が確認できる。また、この遺構群の上面を覆う暗灰黄色シルト層は平安時代の遺物包含層と考えられることから、遺構群は平安時代のもと考えたい。

B地点 西に向かって下がる落込5を確認した。部分的な確認にとどまるが、深さ0.45m、東西長0.93m以上となる。遺物は出土せず、時期等は不明だが何らかの遺構の可能性はある。

C地点 地山上面で成立する土坑とピットを各1基ずつ確認した。土坑6は深さ0.07m、東西長0.5m。ピット7は深さ0.2m、東西長0.18mで、土坑6に切られる。小片のため断定はできないものの、土坑6から須恵器や内黒の黒色土器片が出土したことから平安時代の遺構と考えたい。

D地点 地山上面で成立する土坑を1基確認した。土坑8上面を平安時代の遺物包含層と考えられる暗灰黄色シルトに覆われており、規模は深さ0.35m、東西長1.2mとなる。埋土より布目痕のある丸瓦片と土師器小片、須恵器片が出土した。このうち、土師器1点と須恵器1点を図化した。出土した土師器から、2A～2B期の遺構と考えられる。

E地点 地山上面で成立する土坑1基、溝1条、ピット2基を確認した。溝9は両端が削平を受けており本来的な規模は不明だが、深さ0.18m、東西長0.43m以上となる。この溝9には重複してピット10が存在しており、これは溝9に伴う杭の可能性はある。土坑11は深さ0.35m、東西長さ0.9mの規模を有する。ピット12は深さ0.12mで東西長0.25mの規模を有する。遺物は、溝9より灰釉陶器の小片が出土したのみである。ただし、これらの遺構は平安時代の遺物包含層と考えられる黒褐色シルトに上面を覆われていることから、平安時代の遺構群と考えたい。

F地点 地山上面で成立する土坑1基を確認した。この土坑13は、深さ0.43m、南北長1.0mの規模を有する。埋土は上下2層に分けられ、上層からは土師器片と須恵器片、下層からは黒色土器片、須恵器片、瓦片などが出土した。小片が多いものの、うち4点を図化した。出土遺物から、2A期の遺構と考えられる。

G地点 平安時代後期～中世の遺物包含層を切って成立する土坑を1基、地山上面では土坑5基、ピット1基を確認した。土坑14は深さ0.31m、南北長0.9mとなる。土師器片や黒色土器片、瓦片が出土したものの、小片のため図化できるものはない。土坑15は深さ0.35m、南北長0.85mとなる。埋土は3層に分けられ、最上層から土師器の甕の破片が出土したものの詳細な時期は断

定できない。土坑 16 は深さ 0.27m, 南北長 0.7m である。土坑 17 は, 深さ 0.45m で南北長 1.25m の規模を有する。断面を 1箇所では確認できていないことからここでは土坑として報告する。埋土より図化可能な土師器の皿が 1点出土した。5期の遺構と考えられる。この土坑 17 の南肩口に重複してピット 18 が存在するが, これは肩口の護岸の杭とも考えられ, 土坑 17 は本来的に溝である可能性もある。土坑 19 は, 深さ 0.43m, 南北長 0.75 m の規模を有する。土師器片や須恵器片, 灰釉陶器片, 瓦片などが少量出土したものの, 小片のため詳細な時期は不明である。土坑 20 は深さ 0.3m, 南北長 0.15m 以上の規模を有する。ここから遺物は出土していない。

3. 出土遺物 (図27)

各地点から遺物が出土しているが細片が多く, また量も少ない。そのため図化できる遺物はごく一部である。ここでは, 7点の遺物を図化した。1～6は土師器, 7は須恵器の高台である。1と7はD地点の土坑8から出土した。2～4はF地点の土坑13の上層, 5はその下層から出土した。6はG地点の土坑17から出土した。口径を復元できるのは2点のみで, 4は椀Aで15.0cm, 6は皿Nで14.2cmとなる。

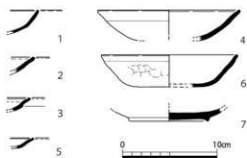


図27 出土遺物実測図 (1:4)

4. まとめ

以上, 本調査では当該地で平安時代を中心とした時期の遺構群を確認することができた。淳和院に関しては南側の十三町域で発掘調査が実施されており, 各時期における遺構の変遷の一端が明らかとなっている(調査①・②)。ただし, いずれも中心域からは外れた位置での調査であり, 実態を考えるうえでの課題は多い。本調査も淳和院の敷地内ではあるものの, やはり縁辺部にあたる。しかしながら, 本調査地においても平安時代前期以降の比較的話発な土地の利用があったことを確認できた点は重要な成果と言える。

(熊井 亮介)

註

1) 各調査の出典は下記の通りである。

調査①: 関西文化財調査会『淳和院発掘調査報告 平安京右京四条二坊』, 1997年。

調査②: 令和2年に関西文化財調査会が発掘調査を実施。現在, 報告書作成中。

調査③: 令和元年に(公財)京都市埋蔵文化財研究所が第1次調査を実施。令和2～3年にかけて第2次調査を実施中。

調査④: 辻裕司「20 平安京右京四条二坊」『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和63年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所, 1993年。

IV-3 平安京右京八条一坊九町跡 (19H771)

1. 調査の経緯 (図28・29)

調査地は下京区西七条南東野町 22-1 に位置し、平安京右京八条一坊九町跡に該当する。当町の居住者等については不明である。近隣では、当該地から西に約 10m 離れた場所で実施した平成 16 年度試掘調査で七条大路南側溝 (図 30 B-B' 断面面) が確認されている¹⁾。

今回、共同住宅の新築工事が計画されたため、令和 2 年 5 月 13 ~ 21 日に調査を実施し、七条大路南側溝を検出した。



図 28 調査位置図 (1:5,000)

2. 層序と遺構 (図29~31)

調査地北端 (図 30 A-A' 断面面) において、GL-0.66m で黄褐色シルト (4 層) の地山を確認し、その上面で東西溝 1 条とピット 1 基を検出した。東西溝は、幅約 3.8m、深さ 0.45m で、埋土は上下 2 層に分層できる。上層が暗褐色泥砂 (1 層)、下層が灰黄褐色粘質土 (2 層) である。1 層から土師器皿、須恵器、2 層から土師器皿、須恵器甕、瓦器羽釜、平瓦が出土した。いずれも平安時代末期~鎌倉時代のもと考えられる。1 層と 2 層は別々の溝の可能性もあるが、明確に別遺構と区別できなかった。東西溝は、七条大路推定南築地心付近に位置することから、七条大路南側溝と考えられる。ピットは、南北幅 0.3m、深さ 0.12m である。埋土は暗褐色シルトで、土師器細片を含むが詳細な時期は不明である。

3. まとめ

本調査で検出した東西溝は、その位置から七条大路南側溝 (以下、南側溝) と考えられる。

平成 16 年度試掘調査で検出された溝よりも、今回検出した南側溝は南寄りに位置する。南側溝については、右京八条二坊跡で実施された発掘調査で複数



図 29 調査地点位置図 (1:500)

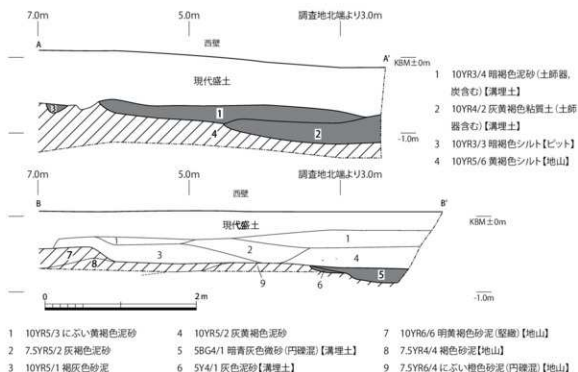


図 30 A-A'・B-B' 間断面図 (1:50)

時期あることが確認されている。その成果によると、時代が下るに従い、南側溝はわずかに大路側（北側）に張り出す傾向があるとされる²⁾。

今回、時期差に言及できるほどの情報を得られなかったが、今後も点的・面的なデータの蓄積によって、この傾向が整理されていくことを期待したい。

(熊谷 舞子)

註

- 1) 報告書一覧表には「遺構・遺物なし」と記載されているが、部分的に七条大路南側溝を検出しており、須恵器・緑釉陶器等が少量出土している（『試掘調査一覧表』『京都市内遺跡試掘調査概報 平成16年度』京都市文化市民局、2005年）。
- 2) 辻裕司「平安京右京八条二坊・西市跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1994年。



図 31 七条大路南側溝（北東から）

IV-4 平安京右京九条二坊六町跡，唐橋遺跡 (16H183)

1. 調査の経緯 (図32・33・表3)

本件は，市営住宅建替えに伴う試掘調査後の詳細分布調査である。調査地は，平安京右京九条二坊六町跡および唐橋遺跡に該当する。「拾芥抄」によると当該町は平安時代後期に東寺領の荘園であったとされる。周辺では発掘・試掘調査が実施されており (図32・表3)，本調査地より東側で発掘調査が多く，西側での事例は少ない。本調査地の北東側で行なわれた発掘調査 (調査C) では条坊側溝が確認されている。また南東側の元洛陽工業高校敷地内では複数回の発掘調査 (調査E・F・G) では，九条大路などの条坊関連遺構のほか古墳時代の竪穴建物や平安時代の掘立柱建物が多数確認されている。当該地では事前に試掘調査を行っており，計12か所の調査をした (図33・



図32 調査位置図 (1 : 2,500)

34)。結果，敷地南東部の8区のみ，GL-1.3mで中世包含層，-1.6mで安定した地山を確認し，地山上面でピットを1基検出している。調査区西側は粘性のある灰色微砂が西へ落ち込み，この落ち込みが湿地，黄褐色微砂部分を陸部とし，これが唐橋遺跡が営まれた微高地の西端を示しているものと推察される。また8区以外の11箇所を確認された湿地状堆積からは弥生時代～古墳時代，中世の遺物が僅かに確認されたため，敷地の南東部以外については，施工時の詳細分布調査を指導した。なお8区付近は設計変更を行い，遺跡の保存が図られている。

表3 周辺の発掘・試掘調査一覧

番号	遺跡名	調査区分	調査内容	出典
A	右京九条二坊九町跡	発掘	狭代の西堀川跡、中京の堀跡や溝、平安時代の包倉跡、養生時代の包倉跡、養生時代の包倉跡からは、ほぼ完形の陶器が出土。	終了報告(令和2年12月末現在)
B	右京九条二坊八町跡	発掘	針小路北側溝と築地の内溝、平安時代後期の井戸を確認。	終了報告(令和2年12月末現在)
C	右京九条二坊二・七町跡	発掘	平安時代の西堀川跡の踏道と側溝、九条坊門小路北側溝、古墳時代の竪穴住居を確認。	「12 平安京右京九条二坊」平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要「財団法人京都市埋蔵文化財研究所」1996
D	右京九条二坊二町跡	発掘	古墳時代後期の竪穴住居、溝、土坑、平安時代前期の土坑、柱穴、平安時代後期から鎌倉時代の柱穴などを確認。	「25 平安京右京九条二坊」昭和62年度京都市埋蔵文化財調査概要「財団法人京都市埋蔵文化財研究所」1991
E	右京九条二坊四町跡	発掘	平安時代前～中期の4時期の掘立柱建物、溝、古墳時代の竪穴住居、調査区北半部で弥生～古墳時代の遺跡を確認。	「18 平安京右京九条二坊」昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要「財団法人京都市埋蔵文化財研究所」1988
F	右京九条二坊四町跡	発掘	平安時代中期の建物、堀、溝、土坑、古墳時代の竪穴住居、溝を確認。	「43 平安京右京九条二坊四町」昭和53年度京都市埋蔵文化財調査概要「財団法人京都市埋蔵文化財研究所」2011
G	右京九条二坊四町跡	発掘	古墳時代の竪穴建物・掘立柱建物・溝など、平安時代前～中期の九条大路関連遺構(南北側溝・踏道・瓦城基底部・犬走)・井戸・掘立柱建物など、平安時代後期～室町時代の遺跡や工作関連遺構などを確認。	終了報告(令和2年12月末現在)
1	右京九条二坊九町跡	試掘	GL-1.0mで湿地状堆積。	「V 試掘調査一覧表 42」京都市内遺跡試掘調査概報平成15年度「京都市文化市民局」2004
2	右京九条二坊九町跡	試掘	GL-1.5mで地山確認。湿地状堆積顕著。	「V 試掘調査一覧表 15」京都市内遺跡試掘調査概報平成19年度「京都市文化市民局」2008
3	右京九条二坊九町跡	試掘	北半ではGL-0.5m以下、湿地状堆積。南半は-0.65mで砂礫の地山。	「IV 試掘調査一覧表 66」京都市内遺跡試掘調査概報平成20年度「京都市文化市民局」2010
4	右京九条二坊九町跡	試掘	地図記載のみ。詳細不明	「図説61-25」京都市内遺跡試掘調査概報昭和55年度「京都市観光局」1981
5	右京九条二坊十町跡	試掘	TR東溝ではGL-1.10mで地山の黄褐色シルトを確認。それ以西では刃濠堆積のみ。顕著な遺構・遺物は確認できず。	「V 試掘調査一覧表 92」京都市内遺跡試掘調査報告令和元年度「京都市文化市民局」2020
6	右京九条二坊八町跡	試掘	平安時代後期の井戸、井戸状遺構、土坑を抽出。	「VI 平安京右京九条二坊八町跡 編54」京都市内遺跡試掘調査概報平成9年度「京都市文化市民局」1990
7	右京九条二坊八町跡	試掘	GL-0.85mで湿地状堆積を抽出。	「IV 試掘調査一覧表 51」京都市内遺跡試掘調査報告平成22年度「京都市文化市民局」2011
8	右京九条二坊一町跡	試掘	GL-0.75mで中京包倉跡、-1.0mで古代包倉跡、-1.15mで砂礫の刃濠堆積を確認。	「VI 試掘調査一覧表 21」京都市内遺跡試掘調査報告平成30年度「京都市文化市民局」2019
9	右京九条二坊三町跡	試掘	GL-0.5mにて室町～江戸時代の土坑、溝を確認。	「IV 調査一覧表 100」京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和63年度「京都市観光局」1989
10	右京九条二坊三町跡	試掘	GL-1.2mで平安時代の南北溝を抽出。	「表2-43」京都市内遺跡試掘調査概報平成10年度「京都市文化市民局」1991
11	右京九条二坊十一町跡	試掘	GL-1.1m以下、湿地状堆積。	「IV 試掘調査一覧表 52」京都市内遺跡試掘調査報告平成22年度「京都市文化市民局」2011
12	右京九条二坊十二町跡	試掘	GL-0.6mで黄灰色砂泥層の地山。顕著な遺構なし。	「IV 試掘調査一覧表 56」京都市内遺跡試掘調査概報平成16年度「京都市観光局」2005
13	右京九条二坊五町跡	試掘	GL-0.8m以下、時期不明の洗れ堆積。	「IV 調査一覧表 110」京都市内遺跡試掘立会調査概報昭和63年度「京都市観光局」1989
14	右京九条二坊五町跡	試掘	GL-1.6mで西堀川小路踏道を抽出。	「表2-57」京都市内遺跡試掘調査概報平成16年度「京都市文化市民局」1995
15	右京九条二坊四・五町跡 唐橋遺跡	試掘	層土以下、GL-0.82mで旧耕作土、-0.84mで灰土、-1.0mで明黄褐色硬質じり砂(地山)を確認。顕著な遺構・遺物なし。	「VI 試掘調査一覧表 112」京都市内遺跡試掘調査報告平成30年度「京都市文化市民局」2019

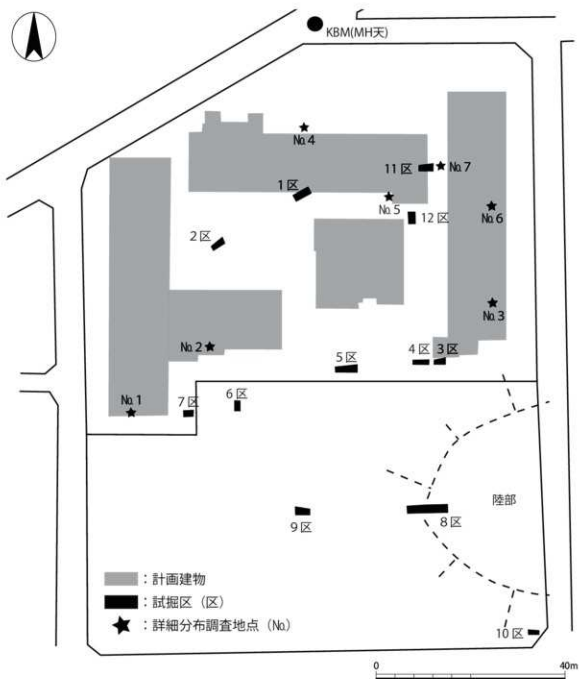


図33 試掘調査区及び詳細分布調査地点配置図（1：800）

2. 層序と遺構（図33・35）

今回の調査では、計7箇所での断面観察を行なった（図35）。結果、調査した全ての地点で盛土以下、GL-0.88～-1.77 mで黒褐色粘質土や灰色シルト、黄灰色シルトなどの湿地状堆積を挟み、-1.63～-2.11 mで河川堆積と思われる灰白色砂礫や黄灰色粗砂などを確認した。特にNo.1やNo.5～7よりもNo.2やNo.4の湿地状堆積が厚いことから、敷地の北西部を中心に湿地が展開していると想定できる。No.2～4・7の地点では、湿地状堆積層に平安時代や鎌倉時代と思われる土器片がわずかに含まれていた。特にNo.4の2層からは、平安時代初頭の土師器が数点まとまって出土した。

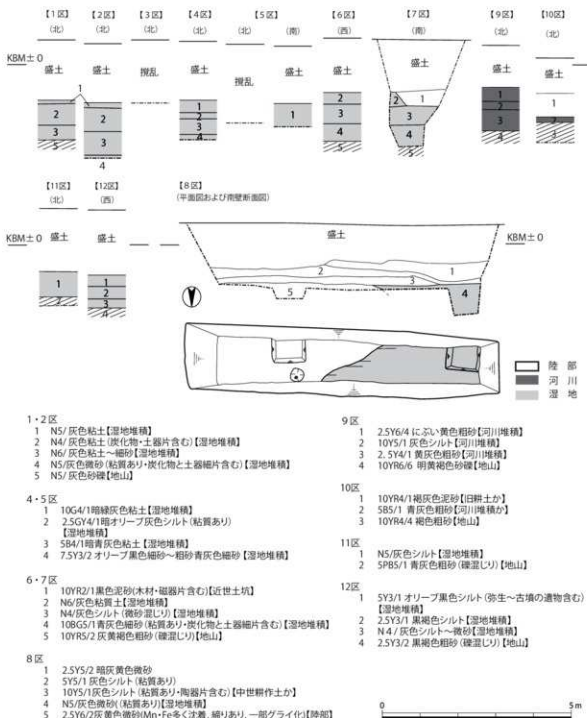


図 34 試掘調査区平・断面図 (1:100)

3. 遺物 (図36)

各地点からわずかに土器片が出土しているが、いずれも細片であったため、今回はN4の2層よりまとまって出土した土師器のみを報告する(1～9)。1～6は、土師器皿Cである。口径は9.1～9.3cm、器高は1.5～1.9cmである。口縁部にナデを施し、端部はやや外反する。6のみ口縁部に煤が認められる。7～9は土師器椀A cである。口径は12.6～12.8cm、器高は3.6～3.8cmである。口縁部にはナデを施し、外面底部から体部にかけて単位の短いヘラケズリを施す。ミガキや暗文は確認できない。1B期に相当すると思われる。

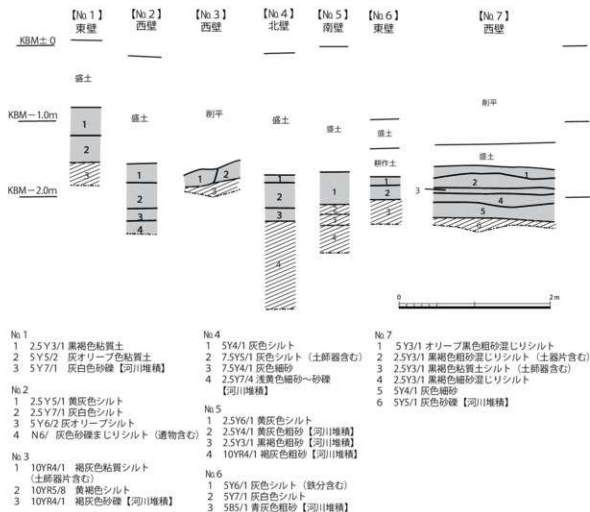


図 35 詳細分布調査地点断面図 (1:50)

4. まとめ

今回の調査では、平安時代前期から鎌倉時代の湿地を確認した。各断面観察のほか、出土遺物の表面に磨滅痕跡がほとんど認められないことから、流れは穏やかであったと考えられる。対象地東側の右京九条二・四町跡では平安時代前～中期の遺構が確認されている。対象地周辺には同時期の遺跡が広がっており、今回出土した土器は、周辺の遺跡に由来するものと推測できる。

遷都直後から造営が開始されていたとされる西寺の北西部である対象地は、平安時代後期には東寺領の荘園とされているが、明確な畑作痕跡は確認できず、鎌倉時代を通して、土地利用に適さない湿地であったと考えられ、今回の成果は、西寺周辺の土地の利用状況を知ることのできる資料となる。

(奥井 智子)

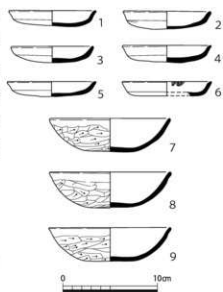


図 36 出土遺物実測図 (1:4)

V-1 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園 (20A006)

1. はじめに

特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園ではこれまでに 25 次にわたる調査が実施されている。境内の東側、黒門の北西部には一辺約 40 m の土壇が存在するが、ここでは部分的に発掘調査が実施されており、これが室町時代に構築された可能性が高く、表面が被熱している¹⁾。今回は、土壇形成もしくは被熱した年代をより詳細に知るため、第 25 次調査の I-b 区で確認した被熱面より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った²⁾。

表 4 測定資料および処理

測定番号	試料No.	試料データ	前処理
PLD-42101	試料No. 1	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・微洗浄（塩酸：1.2 mol/L、水酸化ナトリウム：1.6 mol/L、塩酸：1.2 mol/L）



図 37 測定試料採取地点



図 38 測定試料の堆積状況



図 39 測定試料の実体顕微鏡画像



図 40 測定試料 (PLD-42101)

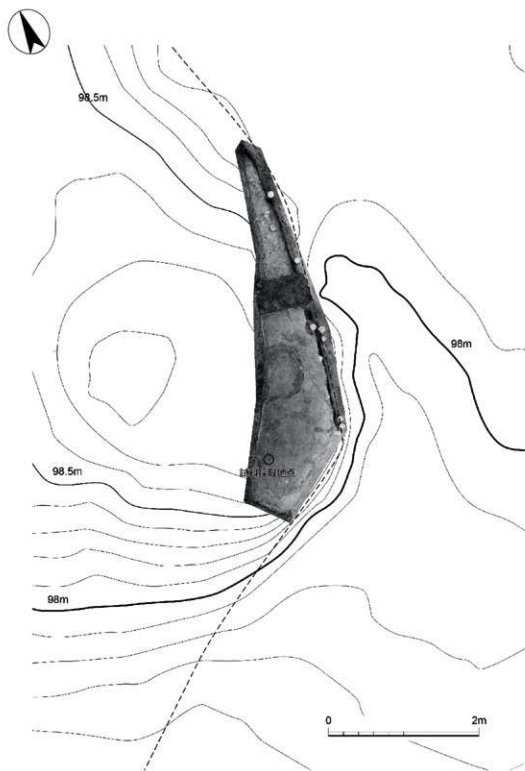


図41 測定試料の採取位置図（1：50）

2. 試料と方法 (図37～41・表4)

測定試料の情報、調製データは表4のとおりである。測定試料を図40に示す。また、試料採取地点を図41に示す。

試料は被熱したと推定される赤褐色層準の表面で採取した(図37)。現地では、赤褐色層準の表面に、試料が張り付くようにして堆積している様子が観察された。現地の肉眼観察では、試料は粉状をなす炭質物として認識された(図38)。この粉状をなす炭質物は、室内において実体顕微鏡で観察したところ、極微細な炭化材片で構成されていた(図39)。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 分析結果 (表5・図42)

表2に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、暦年較正結果を、図42に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、

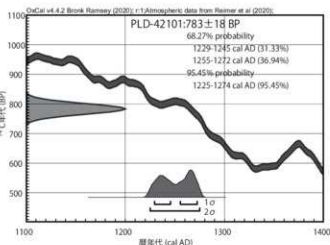


図42 暦年較正結果

表5 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-42101 試料No.1	-24.58 \pm 0.23	783 \pm 18	785 \pm 20	1229-1245 cal AD (31.33%) 1255-1272 cal AD (36.94%)	1225-1274 cal AD (95.45%)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い（¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年）を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年校正にはOxCal4.4（校正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

4. 考察

測定結果は、¹⁴C年代が 785 ± 20 BP、 2σ の校正年代が1225-1274 cal AD (95.45%)で、13世紀前半～後半の暦年代を示した。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は、最終形成年輪が確認できない部位不明の炭化材片である。したがって、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりもやや新しい年代であったと考えられる。

（伊藤 茂・佐藤 正教・廣田 正史・山形 秀樹・Zaur Lomtadize・辻 康男）

註

- 1) 布川豊治『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-13 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2017年。
- 2) 第25次調査の報告文については、『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局、2021年収録。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」：3-20。日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

V-2 市史跡貴布祢神社境内 (20A002)



図43 調査位置図 (1:5,000)



図44 調査区配置図 (1:500)

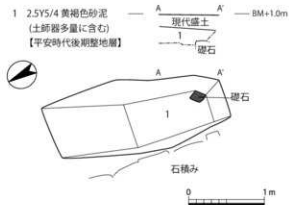


図45 調査区実測図 (1:50)

1. 調査の経緯 (図43・44)

市史跡貴布祢神社境内 (以下、貴船神社) は、芦生峠に源を発する貴船川が開削した谷に面して立地しており、上流から奥宮、中宮、本宮の3つの区画に分かれている。創祀は定かではないが、祭神は水神として古くから著名であり、平安京遷都以降、勅使が度々派遣され祈雨や止雨等の奉幣祈願が執り行われている¹⁾。弘仁9年(818)には大社に²⁾、『延喜式』神名帳では名神大社に列せられ³⁾、平安時代中期以降、二十二社の一つに含まれている。

本件は、本宮の社殿がある平坦面に階段で通ずる正面参道入口の表鳥居を入った場所に計画された、総合案内板(デジタルサイネージ)設置工事に伴う調査である。調査は4月7日に実施、掘削面積は1.4㎡である。調査の結果、平安時代後期の土師器皿を多量に含む整地層及び後期以前の礎石1基を確認した。出土した礎石は事業者の協力のもと、設計変更の上、地中保存が図られている。



図46 礎石検出状況(北から)

2. 遺構と遺物(図44~47)

調査地点は、山裾の急斜面を削り取って造成された参道平坦面の土留め石積み足の元にあたる。層序は、現代盛土直下、GL-0.2 mにて土師器皿を多量に含む黄褐色砂泥の平安時代後期の整地層となり、掘削底である-0.4 mまで続く。遺構は、掘削底の整地層直下にて礎石を1基確認した。礎石は直径0.2~0.3 mの河原石で、平坦面を上面にしており、原位置を保っていると判断できる。

遺物は、整地層(1層)に含まれていた平安時代後期の土師器皿(1~23)、白色土器(24・25)がある(図47)。

土師器は皿A(1~20)と皿N(21~23)が出土した。細片が多く、口径が復元できるものは少ない。

1~19の皿Aは、いずれも口縁部は外反し、端部は肥厚、又は上方に突起する。20は口縁部が内上方に折り曲げられた皿Acである。21~23の皿Nは、口縁端部が僅かに外反するもの(22)と上方に直立する(21・23)ものがある。

24・25は白色土器の皿又は碗底部である。ロクロ引きで、底部に糸切り痕が明瞭に残る。24は底径4.4 cm、25は5.0 cmを測る。

出土遺物は細片が多いものの、概ね11世紀後半に位置付けられる。

3. まとめ(図48)

今回の調査では、平安時代後期の遺物を含む整地層や後期以前の礎石を検出し、多量の土師器皿のほか、白色土器が出土した。白色土器は、平安宮内裏跡や鳥羽離宮跡、陽成院跡など宮内や天皇家に関わる格式高い施設での出土が顕著な土器で、宮中を中心に儀式等の特定の用途に使用されたものと考えられている。今回朝廷との繋がり深い当神社の境内で出土したこともその傍証と成り得るものである。

整地層に含まれていた土師器皿の年代は、11世紀後半の特徴を示すものであり、調査地付近が当該期に造成されたことを示している。貴船神社は現在、本社から貴船川を700m遡った場所に奥宮が存在しているが、『扶桑略記』天喜3年(1055)五月八日条に「貴布禰本宮水のため本宮

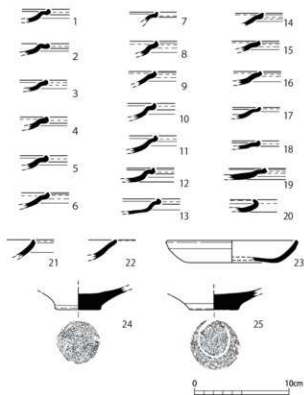


図47 出土遺物実測図(1:4)

が流れ損ず、仍て他所に移し立てらるるの由なり」と記載され、当初は奥宮の場所に鎮座していたものが、水害を機に現在地に本宮を移転したと伝わっている。

今回の調査によって本宮移転時期と合致する整地層を認めたことは、当社の歴史を知る上で重要な意味を持つ。現本宮の急斜面に細長い4段の平坦面を削り出す社頭景観は、絵図面からは江戸時代まで遡ることができる(図48)⁴⁾。今回、平坦面に向かう参道で平安時代後期の整地層が確認されたことにより、この景観の形成過程に当該時期が含まれることが『扶桑略記』等の記事以外で初めて明らかとなったといえる。

加えて、今回の調査成果を鑑みれば、社殿が立地する上部の平坦面そのものについても当該期に造成された可能性が浮上しよう。仮に平坦面の全体の造成が当該期に実施されたとすれば、公家の日記から編纂された『百鍊抄』永承元年(1046)七月二十五日条⁵⁾に記されたように、水損した社殿の再建を他所で行うべきか否かの議が朝廷で行われた記事があることを踏まえると、その造成に国家が関与したことは、十分に想定できよう。白色土器の出土も合わせ、朝廷と貴船神社の深い関係をうかがい知る上で今回の調査成果は重要である。

(西森 正晃)

註

- 1) 『日本統略』弘仁九年七月十四日条「遣使山城国貴布禰神社・大和国室生山上竜穴等処。祈雨也」等々、平安京遷都以降、度々奉幣が行われている。
- 2) 『日本紀略』弘仁九年五月八日条「山城国愛宕郡貴布禰神為大社」
- 3) 『延喜式』卷九「神名式」「貴布禰神社。名神大。月次新嘗。」
- 4) 「貴布禰社惣指図」「中井家文書」京都府立京都学・歴史館所蔵。HPから転載(部分)のうえ、加筆。
- 5) 『百鍊抄』永承元年七月二十五日条「諸卿定申貴布禰社為水流損。可被改立他所哉否事。」

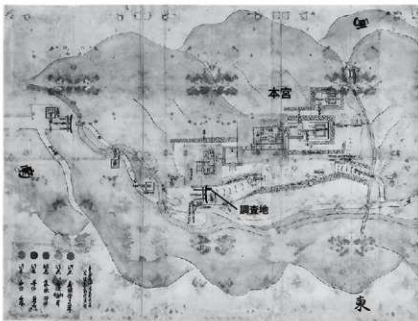


図48 「貴布禰社惣指図」(元禄年間力) (部分)

V-3 史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）

(02N017)



図49 調査位置図 (1:5,000)



図50 調査地全景(東から)

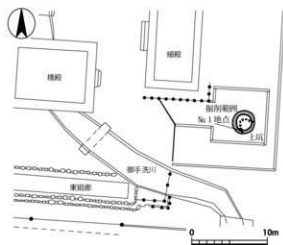


図51 調査地点位置図 (1:500)

1. 調査の経緯 (図49～51)

本件は、史跡賀茂御祖神社境内（以下、下鴨神社）における遷拝所新設工事に伴う調査である。計画地は、重要文化財細殿の南東に位置し、西に御手洗川が流れ、南東を土塀で限る空地である（図51）。当該地には平成30年の台風21号によって被災したカシノキがあり、これを移植するにあたり根巻を行うための掘削が生じることから、調査を実施することとなった（図50）。

調査は令和2年7月1・3日に実施し、室町時代の土師器皿を多量に含む土坑を確認したため（図51 No.1地点）、これを報告する。

2. 遺構 (図52・53)

層序は、表土、近世包含層と続き、GL-0.5mにて灰黄褐色粗砂混じりシルトの時期不明包含層、-0.66mにて黄褐色泥砂混じりシルトの地山となる（図52）。

地山上面を成立面として、直径2m以上、深さ0.3mの大型土坑を検出した。部分的な確認のため、形状、規模は明らかではないが、さらに調査区外に広がる。埋土は暗灰黄色泥砂で、土師器皿が多量に含まれており、縦に折り重なる出土状況から（図53）、投棄された状態を示していると判断される。

遺物は、全て土坑から出土したもので、大半が土師器皿（1～21）であり、他に焼締陶器の播鉢（22）が出土している。

3. 遺物 (図54)

土坑からは土師器皿が多量に出土したが、破片が小さいものが多く図化し得るものに限って述べる(図54)。土師器皿は1が皿N、2～19が皿Sである。1の口径は6.4cmに復元できる。1～3は底部中央が盛り上がる、いわゆる「へそ皿」である。2～19の皿Sは、口径7cm台前後(2～10)と13cm台前後(11～18)の大小2系統の法量がある。6・8には底部内面の立ち上がり部分に圈状の盛り上がりが認められる。9は灯明皿に用いられたもので、煤の付着が口縁及び底部外面に認められる。法量の大きい11～19は、体部が直線的で口縁端部は僅かに外反する。20・21は口縁部のみ出土であるが、大型で厚みのある特殊な土師器皿である。これは現在も上賀茂神社の神饌で用いられている「ヤツカサ」と称される底部を大きく凹ませて上げ底とする土師器の形状に酷似しており、口径は20cmを越える大型の「大ヤツカサ土器」と考えられる¹⁾。

出土した土師器皿は概ね15世紀末に属するものである。

22は丹波産の焼締陶器播鉢で、播り目は4条である。口縁端部は外反し、上面に端面を持つ。

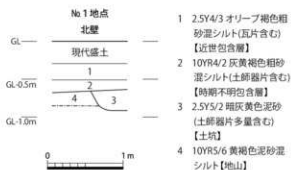


図52 No.1地点土層断面図(1:50)



図53 土師器皿出土状況(南から)

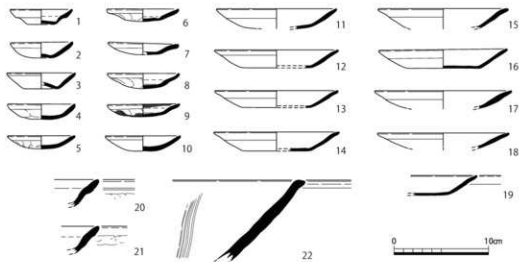


図54 出土遺物実測図(1:4)

4. まとめ

今回の調査では、掘削面積狭小ながら15世紀末に属する土師器皿を多量に含む土坑を確認した。幾重にも折り重なった出土状況から、使用後に投棄されたと考えられる。多量の土師器皿は、儀式に用いられたものと捉えられ、中でも「大ヤツカサ土器」の出土は、神饌の盛器として用いられた可能性を窺わせるものであり、神社境内ならではの特殊な出土状況を示していよう。

また、出土遺物が属する15世紀末は、下鴨神社の長い歴史の中で甚大な影響を与えた応仁・文明の乱（1467～1477）終結直後の年代に当たる。乱の最中、文明2年（1470）には西軍が神社に放火し、本殿を含む社殿と社の森が焼亡、御神宝等も略奪され、御神体は松ヶ崎村に遷御される事態となっている²⁾。その後も混乱は続いたようで、乱が終結した文明9年（1477）に至っても、東西両本殿及び河合社本殿のみの造立に留まっていたことが知られている³⁾。

出土した土師器類の存在は、乱後の混乱の中にあっても儀式が行われていたことを示している。本件は、応仁・文明の乱によって、式年遷宮を始め、賀茂祭も中絶する未曾有の事態の中にあっても、神事を執り行っていた神社の姿を窺い知ることの出来る資料であり、中世の記録の乏しい下鴨神社の歴史の空白を埋める一端となる貴重な成果といえよう。

（西森 正晃）

註

- 1) 『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和58年度』京都大学埋蔵文化財研究センター、1986年。
- 2) 『続史愚抄』文明二年六月十四日条
- 3) 『東山御文庫勅封百二十二函 鴨社文書』

V-4 植物園北遺跡 (19S511)

1. 調査の経過 (図55)

調査地は、市立上賀茂小学校の南に位置する。鴨川の左岸に立地し、植物園北遺跡の中では北西部に相当する。今回、この区画に共同住宅の建設が計画されたため、詳細分布調査を実施した。

周辺では、試掘調査、発掘調査ほか詳細分布調査が複数実施されているが、遺構の発見は散発的である。調査地より市道を隔てた西側の区画では、昭和61年度の立会調査(図55①)において、古墳時代前期の竪穴建物がGL-0.42mの深度より確認されたとの報告がある。ただし詳細は不明で、平成29年度に行われた東隣接地の試掘調査(図55②)では、明確な遺構の検出には至っていない。このため、今回の調査地においても遺構面の広がりも認識されるものの、その展開は予測できない状況にあった。

2. 調査成果 (図56～58)

今回の建築工事では、南辺の一部を深掘する計画である。調査はこの深掘範囲のうち2箇所において断面観察を行った(図56)。その結果、古墳時代前期と推測される遺構群を検出した。

No.1地点では、GL-0.22mまで現在盛土(耕作土)があり、その直下で地山に至る(図57左)。存在したであろう包含層は削平され、すでに失われたと見られる。遺構は地山上面で成立するが、遺構間において切り合いがあり、新旧関係が存在している。No.1地点では溝2条とピット2基、土坑1基を確認した。

No.2地点では、同じくGL-0.22mの深度で地山を確認し(図57右)、その上面において成立す



図55 調査位置図 (1 : 5,000)

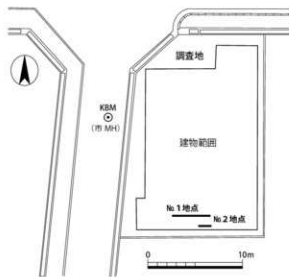


図56 調査地点位置図 (1 : 400)

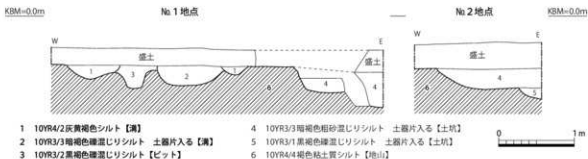


図 57 遺構断面図 (1 : 50)

る土坑を1基確認した。

遺物は溝及び土坑内より出土した。細片のため図化に耐えないが、古墳時代前期に遡る土師器甕の破片であると推測される。

3. まとめ

以上、植物園北遺跡における詳細分布調査について報告した。植物園北遺跡は総面積 140 万㎡を超え



図 58 遺構断面状況 (南西から)

る大規模集落として周知される遺跡であるが、その内部には細かい谷や流路が幾筋も存在したことが調査の累積により明らかとなっている。また、これにより居住域も分断されていたと見られること、さらに出土遺物の時期差から遺構数が希薄となる空白期間が存在することなどから、集落は連綿と存続したわけではなく、小集団の短期的な集住の連続であった可能性が示されている¹⁾。この推測は主に遺構が密集する遺跡南東部を対象としたものであるが、今回図 55 ③・④地点においても流路が複数確認されていることから、調査地周辺も同様の地形条件にあったことが予測される。すなわち、今回の調査地も流路に限られた小規模な居住域の一部である可能性が考えられる。

なお今回の対象地では、遺構面まで掘削が及ぶ範囲は限られており、大半は盛土に保護されるかたちで残存する。今後の開発に注意を払う必要がある。

(黒須 亜希子)

註

1) 柏田有香ほか、『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24, 2013年。

引用文献

調査①：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度, 1987年。

調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成29年度, 2018年。

調査③：(財)京都市埋蔵文化財研究所『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』1996年。

調査④：(財)京都市埋蔵文化財研究所『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2002-14, 2002年。

V-5 室町殿跡（花の御所），上京遺跡（19S334）

1. 調査に至る経緯と経過（図59）

調査地は、烏丸通と今出川通の交差点より北に位置する。室町幕府の三代将軍足利義満が、永徳元年（1381）に建立した邸宅で、「花の御所」とも呼ばれた。義満以後は、6代将軍義教、8代将軍義政が邸宅としたことが知られている。

令和元年10月、この区画に事務所兼店舗の建設が計画されたため、文化財保護法第93条第1項に基づく届出が提出された。これを受けて当課は試掘調査を行い、面的な調査が必要であると判断した。このため申請者は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に発掘調査を委託し、令和2年1～4月に発掘調査が実施された。その結果、巨大な景石を配する室町殿跡の庭園遺構が検出されたことから、これを保存するための設計変更が講じられた。

本調査は、この設計変更に基づく工程が実際の工事において遵守されていることに対する確認と、発掘調査時に掘削が及ばなかった範囲で行われる付帯工事の状況を記録するためのものである。

調査の結果、景石を新たに2点確認した。

2. 調査成果（図60～64）

調査当日、対象地は基礎と地中梁を設置する工程にあり、保存対象となった景石群は工事による干渉を避けた状態で存置されていた。今回新たに確認した景石は、対象地の南半部に1点（景石10）、北東角に1点（景石11）あり、発掘調査において確認された9点とあわせると計11点を数える（図61・62）。

南半部で確認した景石10は一部のみ露出した状態で、長さ0.9m以上、幅1.2m以上、厚さ0.7m以上を測る。茶褐色を呈するチャートで、岩肌はやや丸みを帯びる。これより北側には陸部が

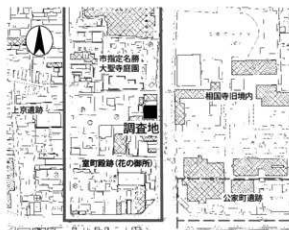


図59 調査位置図（1：5,000）

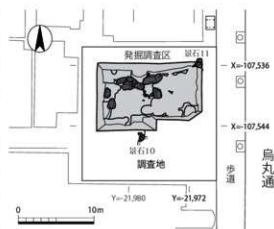


図60 調査区配置図（1：500）

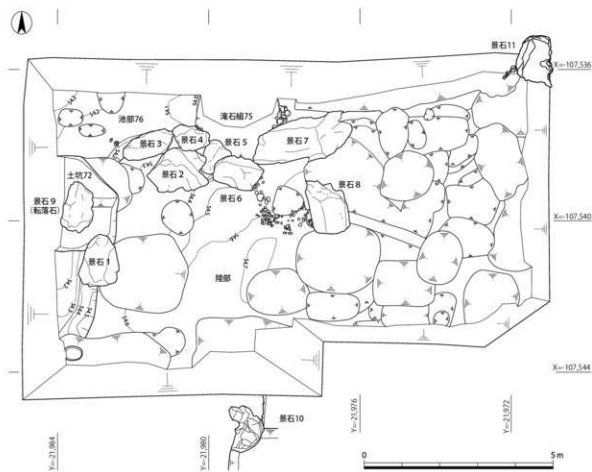


图 61 調査区全体図 (1 : 100)

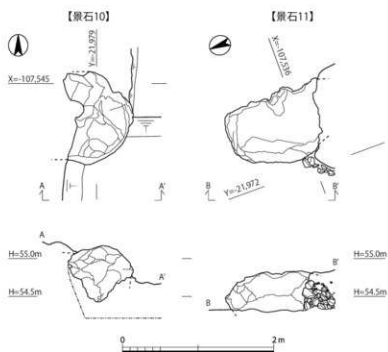


图 62 景石 10・11 平・立面图 (1 : 50)



図63 景石10（南から）



図64 景石11（西から）

であると推定されており、その南側に広がる池部との境界付近に置かれたものと推測される。

北東角で確認した景石11は、長さ1.3m以上、最大幅0.95m、厚さ0.5m以上を測る。縦に長い形状であり、その主軸を南北方向に向ける。茶褐色を呈するチャートで、岩肌の様子は景石10と近似する。景石の西面には拳大の円礫が複数添えられており、景石を据えるための詰石であると考えられる。この景石と詰石は、既存建物の基礎工事の際に流し込まれたと推測されるコンクリートにより一部が凝固した状態で出土した。

3. まとめ

以上、室町殿跡の調査について記述した。今回の調査対象である庭園遺構は、造成土から出土した遺物より、長禄3年（1459）に室町殿へ遷った足利義政により造営されたことが明らかとなっている。既往の調査から、景石を配した池の規模は、南北約45m、東西約60mに及ぶ広大なものであったと考えられており、今回の調査地はその東端にあたる。ただし、室町殿の建物を含めたその全容は未だ不明な点が多く、今後も重点的な調査が望まれる遺跡である。

室町殿跡周辺は小規模な開発が多いため、面的な調査への協力が得られないこともある。今回の調査は限られた範囲の立会ではあるが、発掘調査の成果を補完する成果を得ることができた。このため小規模な掘削であっても、その成果を注視する必要があるといえよう。

（黒須 亜希子）

引用・参考文献

（公財）京都市埋蔵文化財研究所『室町殿跡・上京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2020-1、2020年。

松永修平「発掘ニュース131 室町殿跡の発掘調査—足利将軍家の庭園—」リーフレット京都No.383、

（公財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館、2020年。

V-6 白河街区跡 (18S217)

1. 調査の経緯 (図65・66)

調査地は左京区岡崎天王町 26-5 に位置し、平安時代後期の寺院・邸宅跡である白河街区跡に該当する。当該地では平成 31 年度に発掘調査が行われており、平安時代後期以前に谷地形 (図 66-谷 240) が存在し、白河街区の整備に伴って埋められた可能性が指摘されている¹⁾。また、平安時代後期～末期には谷を埋めた範囲に池が構築されるなど白河街区跡に関する遺構が検出されている。今回、発掘調査の補足調査として令和 2 年 2 月 25 日～4 月 2 日に調査を実施し、発掘調査で検出された谷地形を追認するとともに、新たに古墳時代遺物包含層を確認した。



図 65 調査位置図 (1 : 5,000)

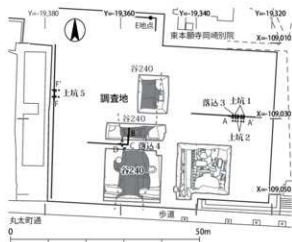


図 66 調査区配置図 (1 : 1,000)

2. 層序と遺構 (図66・67)

断面観察は、調査地東側 (A-A' 間)、中央部 (B-C-D 間)、北側 (E 地点)、西側 (F-F' 間) の計 4 箇所で行った。遺構はいずれも平面形は不明である。

A-A' 間 GL-0.46 m で暗褐色泥砂の古墳時代包含層、-0.8m で黄褐～明黄褐色粗砂の地山を確認した。包含層上面で東西幅 2.3m、深さ 0.55m の土坑 1 を、地山上面で東西幅 1.0m、深さ 0.2m の土坑 2 と東西幅 1.3m 以上、深さ 0.3m の落込 3 を検出した。

B-C-D 間 GL-0.68 m で暗褐色粘質シルトの鎌倉時代包含層、-0.94m で黄褐～褐灰色粗砂の地山を確認した。地山上面で、東西幅 0.9m 以上、深さ 0.6m の落込 4 を検出した。

E 地点 GL-1.32 m で灰白色粘質土の地山を確認した。

F-F' 間 GL-1.0 m で褐灰色粘質シルトの時期不明包含層、-1.3m でふい黄色細砂～粗砂の地山を確認した。地山上面で南北幅 1.9m、深さ 0.6m の土坑 5 を検出した。

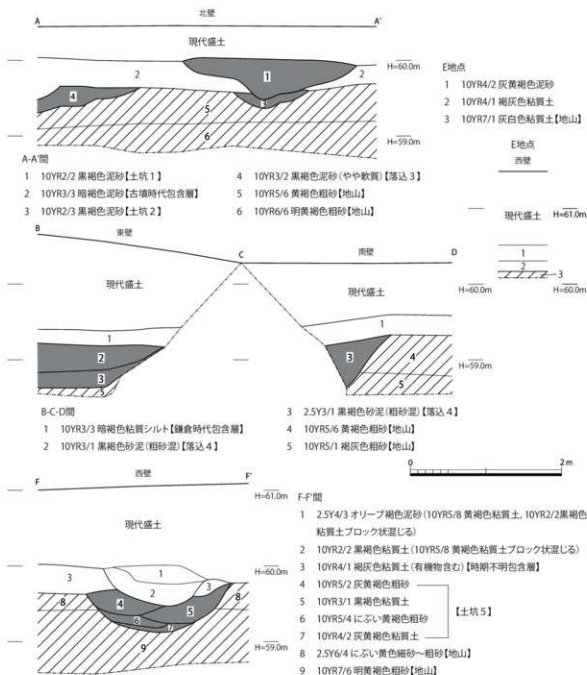


図67 各地点断面図(1:50)

3. 遺物(図68)

1～3はA-A'間で確認した古墳時代前期の土師器である²⁾。1は小型丸底鉢である。底部は丸底で、ミガキはほとんど確認できない。2・3は高杯である。2は口縁端部が丸くおさまり、体部から脚部が外れた痕跡が残る。3は脚部で透かし穴はない。1は古墳時代遺物包含層、2は土坑2から、3は土坑1から出土した。

4～15は、B-C-D間で確認した落込4の出土遺物で、多くが上層(B-C-D間2層)から出土した。4～14は土師器皿である。4～11は皿A、12～14は皿Nである。皿Aは口径8.9～10.8cm、高さ1.3～1.4cmである。皿Nは口径10cm前後、高さ2.0cm前後のもの(12)、口径14cm前後、

高さ 2.5cm 前後のもの (13・14) の 2 種類を確認した。15 は単弁蓮華文軒丸瓦である。山城産。いずれも平安時代末期～鎌倉時代初頭のものと考えられる。

16・17 は F-F' 間で確認した土坑 5 から出土した。16 は備前焼擂鉢である。15 世紀後半のものと考えられる。17 は剣頭文軒平瓦で、瓦当は折曲技法で成形される。山城産。

軒瓦については、15・17 と同文の軒丸・軒平瓦が発掘調査でも出土している。

4. まとめ

今回の調査では、発掘調査で検出された谷 240 の一部 (落込 4) を確認した。また、発掘調査区外において、古墳時代前期の遺物包含層が調査地北東を中心に広がることを確認し、土坑や落込を検出した。なお、発掘調査では古墳時代に関する遺構・遺物は確認されていない。

今回の調査地は、弥生時代～古墳時代の集落跡である岡崎遺跡の北隣接地にあたり、現況では周知範囲外である (図 65) が、今回の調査で岡崎遺跡が北に広がる可能性が高まった。岡崎遺跡内では大規模な自然流路が確認されており、弥生時代～古墳時代の土器が多量に出土している³⁾もの、集落域については不明な点も多い。今後も近隣の調査時には注意が必要である。

(熊谷 舞子)

註

- 1) 大西健吾『白河街区跡発掘調査報告書』(株)文化財サービス、2019年。
- 2) 弥生時代～古墳時代に継続的に集落が営まれた佐山遺跡の土器編年を参考にした (高野陽子編『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書第22冊、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、2003年)。
- 3) 近年の例では、京都市美術館再整備に伴う発掘調査で流路が検出されており、外形に近い土器が多量に出土している (『円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎遺跡発掘調査現地公開資料』(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2017年10月21日)。

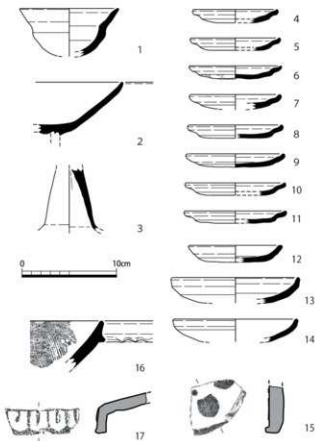


図 68 出土遺物実測図 (1 : 4)

V-7 如意寺跡，西谷遺跡（19S186）

1. 調査に至る経緯と経過（図69）

調査地は、左京区菟蒔谷町から山科区御陵安祥寺町に広がる安祥寺山国有林内に位置する。標高466mを測る如意ヶ嶽（通称：大文字山）の南西に相当し、400m前後の尾根がなだらかに続く山地にある。如意寺は、大津市の天台宗総本山圓城寺（三井寺）の別院として寺所蔵「圓城寺境内絵図」（南北朝期）に記される古刹で、平安時代中期から室町時代まで存続した。この絵図には、如意ヶ嶽南山麓の古道「如意越え」に沿う約2.5kmの範囲に、計67以上の堂塔社殿が峰々を多い尽くすように配される様子が描かれている。現在、包蔵地内では石垣や階段、懸壇状の切り盛り跡等の遺構が確認されており、その存在を示唆している。

如意寺跡において、早くから現地踏査を続けてきた梶川敏夫氏は、平成25年に京都女子大学考古学研究会とともに如意ヶ嶽南山麓斜面において詳細踏査を行った。その結果、平坦地において

礎石建物跡を発見するに及び、「大慈院・西方院跡」のほか、『安祥寺資財帳』に記された「檜尾古寺跡」の推定地として報告した¹⁾。また、小尾根を隔てた南方に新たに遺物散布地を確認した。

令和元年6月、林野庁近畿中国森林管理局（以下、森林管理局）は、森林整備事業に伴う作業道路（以下、林道）の新設を計画した。これを受けて当課は、作業道路予定地を対象として詳細分布調査を実施した。その際、包蔵地より南へ外れた尾根上（安祥寺経塚群の北西部）に平坦地を確認した。遺物は採取できなかつたものの、人為的な地形の改変が疑われたことから、林道予定地の部分的な変更を森林管理局へ申し入れた。これを受けて森林管理局は、林道が尾根上から西側斜面を通るように変更したが、その際、安全上の観点から斜面の一部を切り欠く工事を行った。

令和2年6月、この切土付近から遺物が出土しているとの情報が、京都民俗地理倶楽部の佐藤勝晴氏より当課へ寄せられた。これを受けて当課職員が現地確認を行った。その後さらに梶川氏・佐藤氏と踏査を重ね、林道付近において遺物を採取した。本文はこの調査に関する報告である。



図69 調査位置図（1：10,000）

2. 調査成果 (図69～71)

No 1 地点

No 1 地点は、如意ヶ嶽から続く小尾根の西側斜面である (図 69 ①)。現地は切土により崖面が作り出されていたが、これが雨水に洗われたため、地中の遺物が崖面より露出する状態にあった。

調査は、崖面を対象として断面観察を行った (図 70)。基本層序は表土の下にぶい黄褐色礫混じりシルト (第 1 層)、褐色礫混じりシルト (第 2 層) があり、その直下にぶい褐色岩盤 (地山) が存在する。このうち第 1 層、第 2 層が平安時代の遺物包含層である。第 2 層は崩落土に見られるような石塊の混入が少ないこと、また締まりは悪いが土質が攪拌されていることから、地山上面の凹部を人為的に埋めた土層であると理解される。一方、これを覆う第 1 層は礫を含む締まりの良い土壌であることから、地表面を補強する整地土である可能性が高い。これらはいずれも小尾根上に平坦地を形成しようとした造作の痕跡と見ることができる。

第 2 層からは平安時代前期に遡る土器片がまとめて出土した (図 71-1～6)。1 は土師器の皿もしくは椀、2 は土師器皿である。いずれも摩滅が著しく、調整等は確認できない。3 は須恵器壺の口縁部、4 は須恵器杯身の一部である。5 は灰軸陶器の小片である。6 は緑軸陶器の耳皿で、最大径 13cm 程度に復原できる。胎土は硬質で灰色を呈する。これらは 9 世紀後半～10 世紀前半の製品である。

No 2 地点

上記小尾根の東側斜面に相当する。やや傾斜は緩やかで、北側に張り出す小尾根との間に小渓谷が形成されている。付近は遺物散布地である西谷遺跡に相当する (図 69 ②)。

平成 27 年、京都女子大学研究会は西谷遺跡内における採取遺物が北側小尾根上より転落したものと推測し、同斜面の詳細踏査を行った。しかし遺物の確認には至らなかったため、その可能性は否定された。以後、遺物がどの尾根 (上に存在するであろう遺構) より流出したものが課題となっていた。

今回、No 1 地点の成果をもってその尾根上 (No 2 地点から

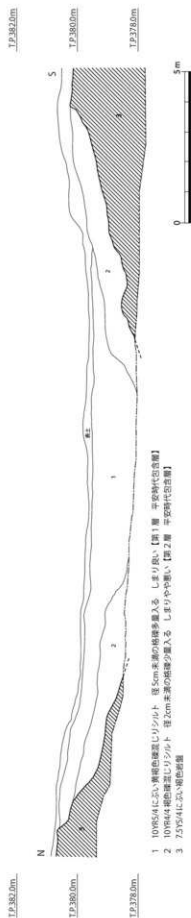


図 70 調査地崖断面図 (1 : 125)

みて東小尾根)に遺構の展開を考えるならば、西谷遺跡出土遺物の供給元である可能性は高い。

No.2地点では、小尾根から溪谷への傾斜変換点付近において、図71-7～9を採取した。7は土師器皿である。縁を折り曲げて成形するコースター形を呈する。11世紀の製品である。8は須恵器の杯身である。9は緑釉陶器の皿で、蛇の目状の高台を有する。胎土は淡黄色で、内外面ともに薄いオリーブ色の釉を塗布する。9世紀後半の製品である。

No.3地点

令和元年度の詳細分布調査において採取した遺物の出土地点である(図69③)。小片のため図化には至らなかったが、灰釉陶器碗(平安時代中期)が含まれている。この地点は、大慈院西方院跡と推定される礎石建物が確認された平坦地の谷下にあたる。同地点では、これまでの踏査においても9世紀～10世紀前半の遺物が確認されており、大慈院が建立された鎌倉時代を遡る寺院の存在が予測される。

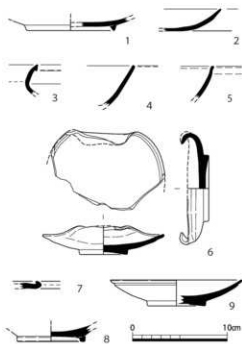


図71 出土遺物実測図(1:4)

3. まとめ

以上、如意寺跡隣接地における詳細分布調査について記述した。如意寺跡は、人家の及ばない山中に点在するため、これまで開発による破壊を受けることが少なかった反面、発掘調査の機会を得ることが稀であったと言える。今回、崖面であるとはいえ、土層の観察を行い得たことは、断面情報を知る貴重な手がかりになったと言える。今後も調査の積み重ねにより、詳細な遺跡の範囲確定が望まれるところである。なお、今回の成果により、如意寺跡の包蔵地範囲は一部拡大されることとなった。

今回の調査に関し、梶川敏夫氏(京都女子大学)、佐藤勝晴氏(京都民俗地理倶楽部)より多大なご協力を得た。記して感謝の意を申し上げます。

(黒須 亜希子)

引用文献・参考文献

京都女子大学考古学研究会編『檜尾古寺跡-京都東山如意ヶ嶽山中の平安時代前期山林寺院跡-』, 2019年。

梶川敏夫「如意寺-平安時代創建の山岳寺院-」『古代文化-特集 如意寺の諸問題-』第43巻第6号, (公財)古代学協会, 1991年。

V-8 山科本願寺跡(寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡(01N102)

1. 調査の経緯(図72・73)

本件は、史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡、山科本願寺跡の史跡公園整備に伴う詳細分布調査である(図72)。

山科本願寺は文明10年(1478)に浄土真宗中興の祖である蓮如上人により造営が開始された寺院である。その周囲には土塁や堀を巡らし、「御本寺」「内寺内」「外寺内」と呼ばれる寺内町が存在する。対象地は、主要堂舎のある「御本寺」にあたる。当該地内では平成17年度より、複数回の発掘調査が行なわれており、山科本願寺に伴う建物や堀、溝、井戸、園池、石風呂、焼土、整地土、さらに山科本願寺造営以前に遡る可能性のある堀が確認されている¹⁾。また現存する土塁の調査も行われ、構築の状況が明らかにされている(図73)。なお、これら遺構は地中保存が図られている。これらの調査で、山科本願寺を考えるうえで非常に重要であることから、遺跡を現地保存し後世に伝えていくため、平成28年に「史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡」として追加指定され、令和3年3月にむけて、史跡公園整備を行っている。調査期間は令和2年5月1日～9月30日、計18地点の断面観察を行った。



図72 調査位置図(1:5,000)

2. 調査成果(図73～76)

工事の起因上、遺跡の保護を前提に工事計画がなされている。今回の調査では18地点の断面観察を行った結果、9地点で、概ね掘削深度はGL-0.28～-0.72mで、盛土もしくは、盛土以下、オリープ褐色泥砂や明黄褐色泥砂の近世包含層内に工事掘削が収まることを確認し、遺跡が保護されていることを確認した。また敷地内南西隅(A調査区)と北側に現存する土塁(B・C調査区)の崩壊を防ぐ目的で、土塁前面及び裾に保護擁壁を設けるための掘削が行われ、土塁の一部を確認している。以下にA～C調査区の報告を行う。

A調査区 A-A' 間断面図(図73・74)

対象地内南西隅にある現存土塁の北西から南東方向の面である。この土塁は、平成23年(17次調査)に露出していた北東-南西面の断面観察調査が行われている²⁾。この時の観察では、中央やや外側に均一なシルトを固く締めた主体となる郭をつくり、土塁内側に礫を多く含む層とほとんど含まない黄褐色系のシルトを交互に斜め積みをするので、土塁を構築していることが明らか

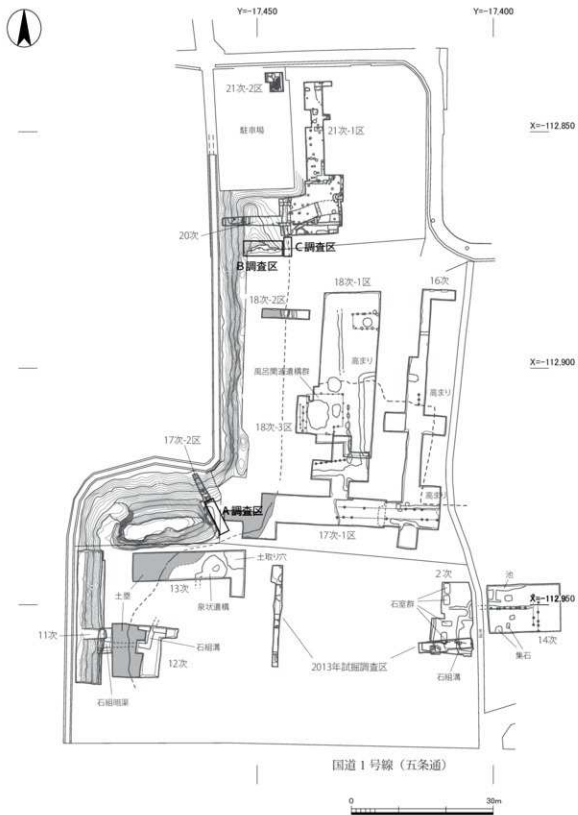


图 73 対象地内既存調査平面图及び調査区配置图（1：800）

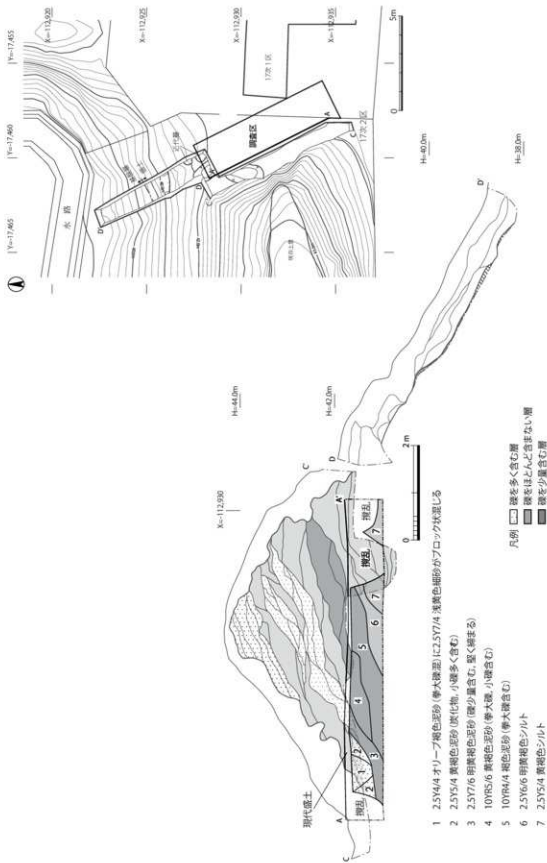
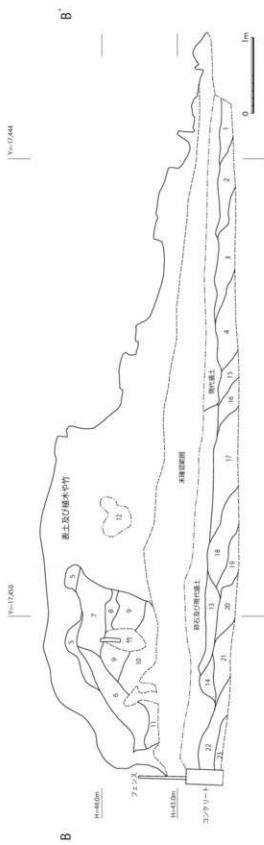


図 74 A 調査区断面位置図 (1:200) 及び A-A' 間断面図 (1:80)



- 1 10YR4/1 褐色粘質土 (壤多く含む) 【墾地土もしくは近世包含層】
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 (壤少量含む) 【墾地土もしくは近世包含層】
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色粘質土 (締まりややなし) 【墾地土もしくは近世包含層】
- 4 10YR6/4 に近い黄褐色粘質土 (締まりあり) 【墾地土もしくは近世包含層】
- 5 10YR8/4 浅黄褐色シルト (締まりあり) 【土層構築土】
- 6 10YR8/2 灰白色シルト (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 7 10YR8/3 浅黄褐色シルト (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 8 10YR8/3 浅黄褐色細砂壤 (2~3cm次の塊、締まりあり) 【土層構築土】
- 9 10YR8/3 浅黄褐色シルト (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 10 10YR8/3 浅黄褐色シルト (2~3cm次の塊少量含む) 【土層構築土】
- 11 10YR8/4 浅黄褐色シルト (締まりあり) 【土層構築土】
- 12 10YR8/4 浅黄褐色シルト (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 13 10YR6/3 に近い黄褐色粘質土 (シルトに近く) 【土層構築土】
- 14 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 15 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 16 10YR7/3 に近い黄褐色シルト (締まりあり) 【土層構築土】
- 17 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 (やや締まりあり) 【土層構築土】
- 18 10YR5/3 に近い黄褐色粘質土 (2~3cm次の塊多く含む) 【土層構築土】
- 19 10YR7/4 に近い黄褐色シルト (灰色シルトブロック点在) 【土層構築土】
- 20 10YR5/3 に近い黄褐色粘質土 (土層構築土)
- 21 10YR5/4 に近い黄褐色粘質土 (2~3cm次の塊少し含む) 【土層構築土】
- 22 10YR7/4 に近い黄褐色シルト (2~3cm次の塊わずかに含む) 【土層構築土】
- 23 10YR7/4 に近い黄褐色シルト (灰色シルトブロック点在) 【土層構築土】

図 75 B-B' 間断面図 (1:50)

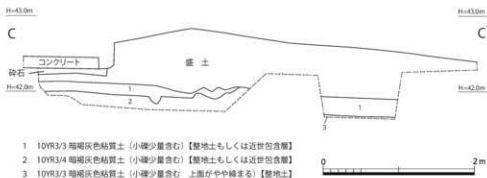


図 76 C-C' 間断面図 (1:50)

かになっている。

今回の調査では、以前調査された箇所のやや東側にあたる。同一断面とは言えないものの、近接した場所にあたり、土塁の下層部分を確認した。土層は、均一なシルト (図 74-6・7)、礫を少し含む泥砂 (図 74-3~5)、礫を多く含む泥砂 (図 74-1・2) の順で、北から南、つまり土塁の外側から内側へと土が積まれていた。今回の断面図と 17 次調査の断面図を重ね合わせると (図 74), 土の選別や積み方が類似していることが明らかとなった。このことから、図 74-6・7 は 17 次調査で郭と考えられている土層の一部であるといえる。

B 調査区 B-B' 間断面 (図 73・75)

対象地内北側の現存土塁南面である。今回の調査地点よりやや北側を平成 25・26 年 (20・21 次調査) に土塁の現存形状を把握するため、平面測量が行われている³⁾。かつて駐車場として利用されていた際に敷地境界に沿って削平されたため、南面断面が露出したものと考えられる。露出部を含め土塁には長い年月を経て、竹や笹、樹木の根が広がっており、断面観察ができたのは、上部西側と擁壁基礎設置のための掘削範囲である。

検出規模は、東西 9.8 m、高さ 2.6 m で、頂部標高は 44.8 m、掘削底部標高は 42.2 m である。土塁崩落土が東へ流れていることが断面観察により確認できたため、土塁検出規模は東西 5.6 m である。土塁の構築土は概ね粘質土やシルト、小礫が混じりシルトで構成されている。観察できた上部西側は概ね西から東へと堆積しており、上から小礫混じりシルト、小礫、小礫混じりシルト、均一なシルトを固く締め、積み上げている。また一部であるが、図 75-12 層では右下がりの堆積方向も確認している。また土塁外側にあたる部分 (図 75-6) では、締まりのある灰白色シルトを確認した。下部の堆積土も西から東へと向かう堆積を確認しているが、東側の堆積土 (図 75-1~4) は締りがややなく、様相も異なることから、土塁構築土ではなく、土塁構築後の整地土もしくは近世包含層である可能性も考えられる。ただ遺物が確認できなかったため、整地土か近世包含層の判別には至らなかった。

C調査区 C-C' 間断面 (図 73・76)

対象地内北側の現存土塁の南東裾部である。今回の調査地点北側に隣接する部分は平成26年(21次調査)に調査が行われており、建物や堀、土塁裾部の状況などを確認している⁴⁾。今回の調査地点に近い21次調査の基本層序は、厚さ0.25～0.35mの盛土、厚さ0.15mの近世盛土の下、山科本願寺期の焼土を挟み、厚さ0.1～0.45mの整地土、地山に至る。この際、焼土検出の標高は41.6m、地山検出の標高は41.5mである。

今回の調査では、盛土以下、GL-0.2～-0.8mで小礫混じりの暗褐色粘質土以下、-0.9mで暗褐色粘質土に至る。21次調査成果を踏まえると、図5-1・2層は、整地土もしくは近世包含層、図76-3層は整地土と考えられる。

3. まとめ

今回の調査では、露出していた現存土塁と既存調査土塁の一部について断面観察を主に追加調査を行なった結果、これまでの調査成果同様の堆積を確認し、土塁の構築法が共通することを確認した。なお、これらの遺構は地中および保護擁壁などにて保存が図られている。

(奥井 智子)

註

1) 図2で示した調査回数に準じる。

12次調査：柏田有香「山科本願寺跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2005年。

13・14次調査：小椋山一良・清藤玲子・柏田有香「山科本願寺跡(1)(2)(3)(4)」『京都市内遺跡発掘調査報告平成17年度』京都市文化市民局、2006年。

16・17次調査：柏田有香「山科本願寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局、2012年。

18次調査：柏田有香「山科本願寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局、2013年。

20次調査：近藤章子「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局、2015年。

21次調査：新田和央・馬瀬智光「山科本願寺跡(2)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局、2015年。

2) 柏田有香「山科本願寺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局、2012年。

3) 近藤章子「山科本願寺跡(1)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局、2015年。新田和央・馬瀬智光「山科本願寺跡(2)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局、2015年。

4) 新田和央・馬瀬智光「山科本願寺跡(2)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成26年度』京都市文化市民局、2015年。

V-9 中臣遺跡 (19N386)

1. 調査に至る経緯と経過 (図77)

調査地は、旧安祥寺川の左岸より至近の距離にある。縄文時代から中世の複合遺跡である中臣遺跡の南西部に相当し、特に弥生時代後期から古墳時代の遺構が稠密に残る範囲にあたる。令和元年度、この区画において計画された宅地造成工事に先立ち、試掘調査を実施したところ、GL-1.0 m (KBM-2.2 m) の深度において、古墳時代前期の竪穴建物跡を1棟検出した (図77①、図78)。このため、遺構面を地中保存することを前提として造成工事が進められたが、区画西辺の一部において遺構面に抵触する掘削が発生したことから、今回、現地確認を行った。

2. 調査成果 (図78~81)

基本層序

調査対象は、試掘調査において第3区として設定した調査区の北端部である (図78)。現地はすでに掘削工事が進み、近現代耕作土を除去した段階で、遺構面が露出していた。

試掘調査結果を援用すると、GL-0.8 m (KBM-2.0m) まで現代耕作土および床土、-1.0 m (KBM-2.2 m) まで遺物包含層があり、この下層に遺構面及び地山が存在する。ただし今回の調査地点は試掘調査時に確認された落込み内にあたるため、その埋土を除去した段階で地山を確認した。深度はGL-1.6 m (KBM-2.8 m) である。

遺構と遺物

地山上面では、土坑及びピットを検出した。

土坑1は調査地点の南端で検出した遺構である (図79・80)。南北長0.9 m以上、東西幅0.7 m、最大深度は0.1 mを測る。底面は不定形で、凹凸がある。埋土は、黒褐色を呈する細砂混じりシルトで、径5 cm未満の礫を少量含む。埋土からは弥生土器甕、壺の破片がまとめて出土した (図81)。

図81-1は弥生型タタキ甕で丸く張り出す胴部



図77 調査位置図 (1:5,000)

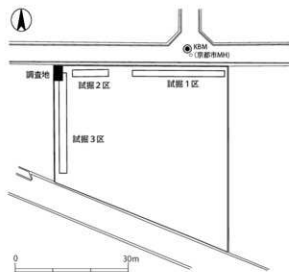


図78 調査区配置図 (1:1,000)

をもつ。口縁部は屈曲して外反し、端部を丸くおさめる。胴部外面には横方向の平行タタキを施し、内面はヘラナデで仕上げる。底部外面は欠損箇所が多いものの、ドーナツ状に復原できる。弥生時代後期後半の製品である。図 81-2 は壺の口縁部で、調整は内外面ともにヨコナデである。図 81-3 は手焙り形土器の胴部とみられる破片で、刻み目をもつ粘土帯を外面に貼り付ける。

ビット 2・3 は、土坑 1 の東側で検出した小型遺構である。切り合う関係にあり、ビット 2 が古い。ビット 2 は径 0.2 m × 深度 0.09 m、ビット 3 は径 0.4 m × 深度 0.21 m を測る。ともに遺物の出土は認められなかった。

3. まとめ

今回の調査では、弥生時代後期に遡る遺構と遺物を確認した。中臣遺跡では既往の調査成果より、弥生時代後期と古墳時代前期に集落拡大のピークがあるとされている。今回、試掘調査時に検出した古墳時代前期の遺構に引き続き、弥生時代の遺構が確認されたことにより、当該地域にも同様の集落展開があったことを追認したといえる。

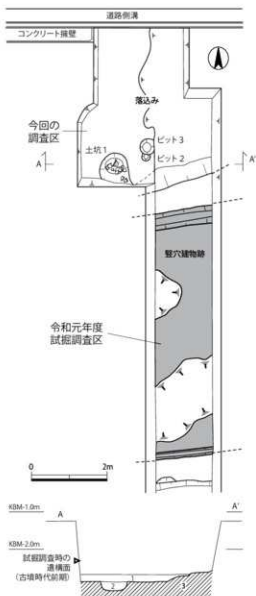
(黒須 亜希子)

引用文献

調査①：京都市文化市民局『令和元年度 京都市内遺跡試掘調査報告』、2020年。



図 80 土坑 1 遺物出土状況 (北から)



- 2.5Y4/1 黄灰色細砂質シリシルト 径3cm未満の礫少量入る ややしまり悪い やや軟質【落込み】
- 10YR3/1 黒褐色細砂質シリシルト 径5cm未満の礫少量入る 灰化物・土層片入る やや軟質【土坑 1】
- 2.5Y4/4 オリーブ褐色細砂質シリ粘土質シルト【地山】

図 79 遺構平・断面図 (1:100)

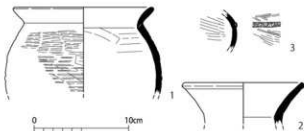


図 81 出土遺物実測図 (1:4)

V-10 史跡醍醐寺境内 (02N005)



図82 調査位置図 (1:5,000)

1. 調査の経緯 (図82)

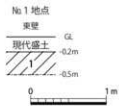
醍醐寺では、平成30年の台風21号によって大規模な倒木が発生し、境内各所の建物や工作物にも甚大な被害をもたらした。下醍醐においても金堂、五重塔が所在する伽藍中枢を囲うネットフェンスが倒木によって大きく損壊し、猪や鹿の侵入による掘り起こしや器物損壊が認められたほか、人の不法侵入も発生、参拝者の安全確保に支障があるだけでなく、文化財建造物にも被害が及ぶ恐れがあることから、フェンス改修を実施することとなった。フェンス位置は基礎の位置も含む既存を踏襲するもので、史跡の保存に配慮したものであるが、緊急車両出入口改修にあたり、一部新規の掘削が発生するため、施工時に詳細分布調査を実施することとなった(図82 No.1地点)。調査地点は、江戸時代初期に描かれた「下醍醐寺伽藍惣絵図」¹⁾では、講堂北側の北面築地に設けられた「北門」付近に該当しており、関連する遺構、遺物の確認が予想された。

調査の結果、北門に関わる遺構は認められなかったが、付近で平安時代中期の軒平瓦を採集したため、これを報告する。

2. 遺構と遺物 (図83・84)

No.1地点における層序は、現代盛土以下、GL-0.2mにて黄褐色砂泥礫混じりの地山となる。北門跡に関わる基壇盛土等の遺構は認められず、遺物も出土しなかった(図83)。

今回報告する軒平瓦は、金堂の東北東約30mにて平面形が方形を呈する一辺約10m、高さ約1m強の土壇状の高まりがあり、その上面にて表採したものである。



1 10YR7/8黄褐色砂泥礫混【地山】
図83 No.1地点柱状図 (1:50)

1は唐草文軒平瓦である(図84)。中心飾りは4弁からなる花文で、均正唐草文と考えられるが、唐草は左右で異なるものと推察される。上外区には間隔を開け小粒の珠文を配している。頸は曲線頸である。瓦当部凹面側はケズリによる面取り、凸面側ナデ、平瓦部凹面には布目が残り、凸面にはタテケズリを施す。胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好である。

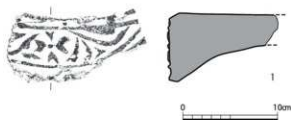


図84 出土遺物実測図(1:4)

同範瓦の出土例は無く産地も不明であるが、平安時代中期に属する池田瓦窯跡出土品の中に、中心飾りに4弁の花文を配す均正唐草文軒平瓦(NH08・NH10)が知られており²⁾、1も同時期に属するものと考えられる。

3. まとめ

軒平瓦の採集地点である金堂東北東の土壇状の高まりは方形を呈し、建物基壇跡の可能性が高い。採集した瓦が当該建物に葺かれていたかは確定できないが、永仁三年(1295)の金堂焼失以後の再建状況がわかる「座主満濟拝堂図」³⁾(応永三年(1396)頃)には、金堂東側に客殿や御影堂、(法華)三昧堂などの建物が確認できる。

下醍醐では、延長四年(926)に醍醐天皇御願堂として釈迦堂(金堂)と礼堂が完成、天曆三年(949)には朱雀上皇の発願で法華三昧堂、同五年には現存する五重塔が建立され、10世紀代には中枢伽藍が整えられている。軒平瓦は平安時代中期に属するもので、下醍醐の開創期を含むものである。開創期に用いられていた瓦が出土したことは、史料の少ない当該期の造営実態を知る手がかりの一つとして評価できよう。

(西森 正晃)

註

- 1) 『醍醐寺文書』649面17号「下醍醐寺伽藍惣絵図」。
- 2) 『大谷中・高等学校構内遺跡発掘調査報告書』大谷高校法住寺殿跡遺跡調査会、1984年。
- 3) ただし、鎌倉時代の座主である慶延が著した『醍醐雜事記』巻三には、五重塔を除き、金堂以下、礼堂、廻廊、鐘樓、経藏、中門、南大門、西大門、東大門、三昧堂は全て檢皮葺とされている。

V-11 長岡京左京一条四坊三・四町跡，東土川遺跡 (19NG682)

1. 調査の経緯 (図85)

本件は工場建設にともなう詳細分布調査である。調査地は長岡京左京一条四坊三・四町跡，東土川遺跡に該当する。近隣では調査①で東三坊大路の東側溝や区画のための柵列などのほか，古墳時代の柱穴や流路などが確認されている¹⁾。調査②では中世の遺構や弥生時代の竪穴建物・溝など²⁾，調査③で弥生時代中期～後期の竪穴建物・溝・柱穴を確認しており，東土川遺跡の居住域の様相が明らかになっている³⁾。

調査④では北側で弥生土器を多量に含む湿地堆積，南側は安定した基盤層が広がり，基盤層上面で弥生時代の柱穴や溝などが確認されている⁴⁾。

以上のように，対象地の周辺では長岡京跡及び東土川遺跡の遺構が多数確認されており，発掘調査による記録保存や設計変更による地中保存が図られている。

2. 層序と遺構 (図86～88)

今回は計3か所(A～C地点)で土層確認をおこなったところ，A地点で中世の溝やピット，落込，弥生時代のピット群や土坑などの遺構を確認した。B地点では弥生時代の土坑，C地点では土坑状の落込を確認した。以下，各地点ごとに詳細を報告する。



図85 調査位置図 (1:5,000)

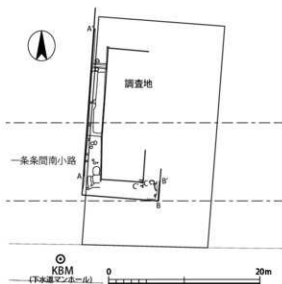
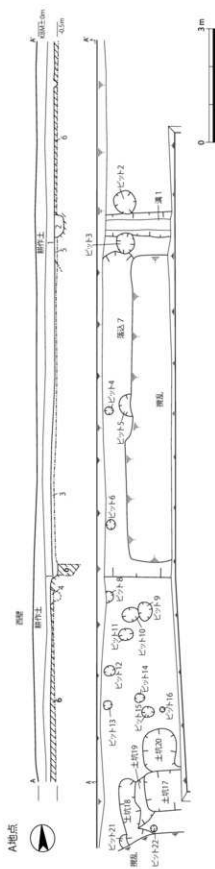


図86 遺構位置図 (1:500)



- | | | | | |
|---|---------|---------------------------------------|----------------|--------------------------------|
| 1 | 2.5Y4/2 | オリープ褐色細砂混粘土質シルト (灰、土路含む) 【中世耕作土】 | 【ピット13】10YR4/2 | 灰黄褐色細砂混シルト |
| 2 | 2.5Y3/1 | 黒褐色細砂混粘土質シルト【溝1】 | 【ピット14】10YR4/2 | 灰黄褐色細砂混シルト |
| 3 | 2.5Y4/2 | 細灰黄色微砂混粘土質シルト (灰、粘土含む、締り良い) 【溝2、7】 | 【ピット15】10YR4/2 | 灰黄褐色細砂混シルト |
| 4 | 10YR4/2 | 灰黄褐色微砂混シルト【ピット8】 | 【ピット16】10YR4/2 | 灰黄褐色細砂混シルト |
| 5 | 2.5Y5/2 | 細灰黄色微砂混粘土質シルト (6層ブロック20%、灰、粘土含む、締り良い) | 【土坑17】10YR4/1 | 黄灰色細砂混シルト |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色細砂混シルト【地山】 | 【土坑18】10YR4/1 | 黄灰色細砂混シルト |
| | | | 【土坑19】10YR4/1 | 黄褐色細砂混シルト |
| | | | 【土坑20】10YR4/1 | 黄褐色細砂混シルト |
| | | | 【ピット21】10YR4/1 | 黄褐色細砂混シルト |
| | | | 【ピット22】10YR4/1 | 黄褐色細砂混シルト |
| | | | 【ピット2】2.5Y3/1 | 黒褐色粘土質シルト (2.5Y4/1 黄灰色シルト20%混) |
| | | | 【ピット3】2.5Y3/1 | 黒褐色粘土質シルト (2.5Y4/1 黄灰色シルト20%混) |
| | | | 【ピット4】2.5Y3/1 | 黒褐色粘土質シルト (6層ブロック状10%混) |
| | | | 【ピット5】2.5Y3/1 | 黒褐色粘土質シルト (6層ブロック状10%混) |
| | | | 【ピット6】10YR3/1 | 黒褐色微砂混シルト |
| | | | 【ピット9】10YR4/2 | 灰黄褐色細砂混シルト |
| | | | 【ピット10】10YR4/2 | 灰黄褐色微砂混シルト |
| | | | 【ピット11】10YR4/2 | 灰黄褐色微砂混シルト |
| | | | 【ピット12】10YR4/2 | 灰黄褐色微砂混シルト |

図 87 A 地点平・断面図 (1 : 100)

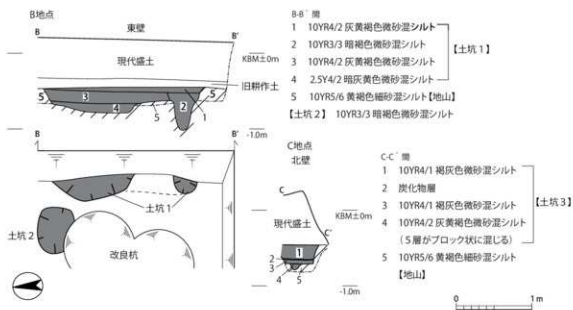


図88 B地点平面図・東壁断面図, C地点北壁断面図(1:50)

A-A' 地点 (図86・87・89)

A地点の基本層序は、耕作土以下、GL-0.3mでオリーブ褐色微砂混粘土質シルト(炭・土器混)(1層)、-0.6mで黄褐色細砂混シルトの地山(6層)である。地山上面で中世の耕作溝(溝1)やピット群(ピット2～6)、落込(落込7)、弥生時代のピット群(ピット8～16, 21, 22)や土坑4基(土坑17～20)を確認した。

落込7は南北方向に8.4mあり、深さは0.2mである。埋土から中世の羽釜片や土師器片などが出土した。ピット10からは弥生土器の器台が出土している(図89-4)。その他にも、落込より南側で確認したピットや土坑からも弥生土器が出土しているが、摩耗しており詳細な時期は不明である。

B-B' 地点 (図86・88・89)

B地点はGL-0.5mで旧耕作土、-0.6mで黄褐色細砂混シルトの地山となる。地山上面で土坑を2基確認した。土坑1は径1.7m、深さ0.3mである。埋土は4層に区分できる。4層から弥生土器が出土した(図89-1・2)。土坑2は径0.6mの土坑である。

C-C' 地点 (図86・88・89)

GL-0.7mで黄褐色細砂混シルトの地山である。地山を掘り込み、直角に落ちる落ちが確認できる土坑3を確認した。埋土は4層に区分できる。遺構は断面上でわずかに確認されるのみで遺構の性格は不明である。土坑3から弥生土器が出土した(図89-3)。

3. 遺物 (図89)

今回出土した遺物は、細片や摩耗しているものが多く、図化したものは4点である。1・2はB地点の土坑1、3はC地点の土坑3の4層、4はA地点のピット10から出土している。1は甕の口縁部である。内・外面にハケメで調整をしている。2は甕の体部である。表面に5条一単位の櫛描文を4帯以上施す。3は鉢の底部である。摩耗しており、調整は不明である。4は器台の筒部である。筒部には9条の凹線文をめぐらし、円形の透かしを3段入れている。

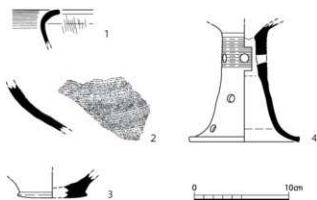


図89 出土遺物実測図(1:4)

鉢の底部である。摩耗しており、調整は不明である。4は器台の筒部である。筒部には9条の凹線文をめぐらし、円形の透かしを3段入れている。

4. まとめ

今回の調査では、長岡京跡の条坊に関する遺構は確認できなかったものの、対象地の北側で中世の溝やピット群、落込、南側で弥生時代の土坑とピット群を確認した。今回の調査成果は周辺の調査事例と同じ様相を示すことから、対象地においても遺構の広がりを確認できたと言える。

今回の調査はGL-0.6 mの地山上面で遺構を確認している。今回の工事掘削深度はGL-0.6 m以内に収まる。遺構の表面にわずかに抵触するものの、大部分は掘削を免れる形で地中保存されることとなる。このため、当該地における再開発の際には十分な考慮が必要である。また、今後対象地周辺で開発工事がある場合は注視する必要がある。

(清水 早織)

註

- 1)『長岡京左京三条四坊一町跡・東土川遺跡』国際文化財(株)、2018年。
- 2)家原圭太「V-7 長岡京左京一条三坊十三町・東土川遺跡No.84」(09NG058)『京都市内遺跡試掘調査報告』平成21年度 京都市文化市民局、2009年。
- 3)宇野隆志「V-7 長岡京左京一条四坊四・五町・東土川遺跡No.112」(06NG257)『京都市内遺跡試掘調査報告』平成18年度 京都市文化市民局、2006年。
- 4)宇野隆志「V-9 長岡京左京一条四坊五町・東土川遺跡」(12NG095)『京都市内遺跡試掘調査報告』平成24年度 京都市文化市民局、2012年。

V-12 長岡京左京二条四坊一町跡，東土川遺跡 (19NG761)

1. 調査の経緯 (図90)

本件は，工場建設に伴う詳細分布調査である。調査地は南区久世東土川町に位置する。

当該地では，工場建設に際して平成28年に試掘調査が実施され，長岡京に関わる遺構を確認した。それを受けて平成30年に発掘調査が実施されている。その後，当初の計画に変更が生じ，計画建物が若干南に移動したことから，その新規掘削部分について詳細分布調査を実施することとなった。

調査地周辺では，これまでに比較的多くの試掘・発掘調査が実施されている(図90)¹⁾。調査②・



図90 調査位置図(1:5,000)

④・⑤では，長岡京期の掘立柱建物や井戸・柵列・条坊側溝等が確認されている。また，調査①・⑤では弥生時代の竪穴建物や方形周溝墓・溝・流路等が確認されており，住居域・墓域・生産域がセットで確認されている点は特筆される。本調査地で実施された発掘調査では，弥生時代の流路のほか，東三坊大路西側溝と側溝に沿って並ぶ柱穴を確認している。この東三坊大路西側溝は，本調査地中央を南北に貫くような位置関係にあることから，この西側溝の確認を主目的とした。

なお，調査期間は令和2年6月11・22日の2日間で，調査は4箇所で行った。調査の結果，3箇所東三坊大路西側溝のほか，弥生時代の流路を確認した。

2. 層序と遺構 (図91・92)

基本層序は，現代盛土の下，GL-0.75 mで旧耕土及び床土，-0.95 mで長岡京期の遺構面を形成する安定した明黄褐色細砂～粘土となる。A地点では，明黄褐色細砂～粘土層の下には旧流路の堆積と思われる褐色シルトや褐色粗砂などがあり，最も浅いところでは-1.5 mで地山と考えられる灰白色砂礫となる。

調査の結果，溝をA・B・C地点で，弥生時代の旧流路をA地点で確認した。溝は各地点で西もしくは東の肩口のみを検出した。近接したB・C地点で溝の規模を復元すると幅1.2 m，深さ0.31 mとなる。埋土から遺物は出土していない。規模や位置，埋土の様相などから，発掘調査で確認された東三坊大路西側溝と同一の遺構と考えられる。なお，C地点では西側溝のすぐ西にピットもしくは溝と考えられる遺構が確認できる。こちらからも遺物は確認できず時期不明だが，埋

土の様相が西側溝と酷似していることから同時期の遺構である可能性もある。A地点で確認した旧流路は、全体の大きさは不明だが東西2.9m以上、深さ0.8m以上の規模となる。細片で摩耗が激しく時期の断定には至らないものの、旧流路の最上層（A地点3層）より弥生土器片が出土していることから、少なくともこの時期までに埋没したものと考えられる。

3. まとめ

本調査では、東三坊大路西側溝のほか弥生時代の流路を確認した。この成果は、当該地で実施された発掘調査の成果を追認する形となる。長岡京そして東土川遺跡の実態把握のため、周辺での今後の調査の蓄積に期待したい。

(熊井 亮介)

註

1) 以下、図90の調査Noに対応。

調査①：『V-7 長岡京左京一条四坊四・五町跡・東土川遺跡 No.112』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局、2007年。

調査②：『VI 試掘調査一覧表』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成16年度』京都市文化市民局、2005年。

調査③：『VI 試掘調査一覧表』『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局、2013年。

調査④：『21 長岡京左京二条三坊』『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1999年。

調査⑤：『京都府遺跡調査報告書 第28冊』（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター、2000年。

本調査地：『長岡京左京二条四坊一町跡・東土川遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』国際文化財株式会社 2018年。

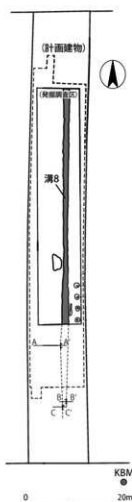


図91 調査地点位置図 (1:800)

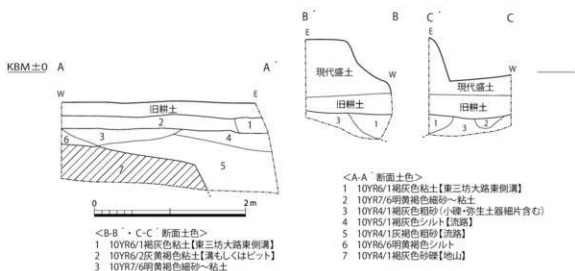


図92 各調査地点断面図 (1:50)

V-13 長岡京左京九条三坊十二町跡，淀城跡 (17NG294)

1. 調査の経緯と調査事例 (図93・94)

調査地は、伏見区淀本町内で府道13号(旧京阪国道)と府道淀停車場線の交差点より南側にあたるケイコン株式会社敷地内である(図93)。当該地は淀城とその城下を描いた『山州淀御城府内之圖』などによれば二ノ丸にあたり¹⁾、平成29・30年に本社ビル建替えに伴う発掘・詳細分布調査によって、二ノ丸の東端石垣と堀跡を確認している²⁾。本件は本社ビル建替えに関連して新たに計画されたエントランス棟と歩廊の建設工事に伴う詳細分布調査である。なお、エントランス棟は二ノ丸北端から旧宇治川南岸、歩廊は二ノ丸東端石垣の延長部分に当たり、二ノ丸北端石垣と造成土を検出した2箇所(No.1・2)について報告する。



図93 調査位置図(1:5,000)

2. 層序と遺構 (図95・96)

層序 (図95) No.1はGL-1.95mの灰オリブ色細砂の直下で二ノ丸北端石垣となる。石垣の北側には灰色砂泥が堆積しており、流速の弱い河川の堆積土と推測する。

No.2はGL-1.1mで褐色粘質土細砂混シルト(2-②層)、-1.7mで黄褐色細砂混シルト(2-③層)、-2.1mでふい黄褐色粘土質シルト(2-④層)となる。これらを掘り込むようにオリブ褐色細砂混シルト(径10~50cm大礫混)が堆積する。

二ノ丸北端石垣 (図95・96) No.1地点の地表下2mで石垣を検出した。近・現代盛土が粗



図94 調査地点位置図(1:1,000)

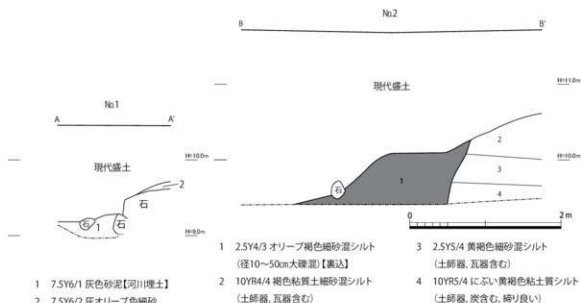


図95 No. 1・2断面図 (1:50)

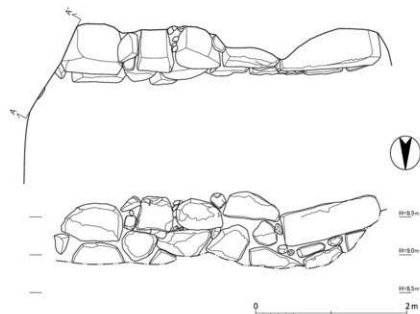


図96 No. 1石垣平・立面図 (1:50)

砂であったことから掘削時の土壁の崩落が著しく、一度に調査範囲内の全ての石垣を検出することができなかった。そこで調査は、図版31の通り石垣の西側と東側に分けて進めた。

石垣の検出位置が推定二ノ丸の北端であり、石垣が北面していることから、二ノ丸北端の石垣と推測する。検出長は約4.4

mで、検出最大高は約1mの2段分である。石の規模は約0.4～1.35mで、切石ではなく自然石を利用している。石垣の積み方は野面積みである。また、石垣の天端の検出標高値が後述するNo. 2地点の造成土検出標高値より低いことから、石垣の上部は抜き取られていると判断できる。一方、工事掘削深度が限られていたことから基底部については判然としない。No. 2-①層 (図95) は石垣を確認したNo. 1地点 (図94) の西側延長線上にあたること、後述する造成土を掘り込み、径10～50cmの礫が多量に混在していることから、二ノ丸北面石垣の裏込め土と推定した。

造成土 (図95) No. 2-②～④層は中世の遺物を含んでいるが、二ノ丸北端石垣の裏込め土に掘り込まれていることに加え、発掘調査で確認した淀城期の造成土と類似していることから、淀城期の造成土と判断した。

3. まとめ

二ノ丸北端石垣は当該敷地の東・西道路部分の下水道工事に伴う立会調査で確認しており³⁾ (図94)、本調査で確認した二ノ丸北端石垣と連続する可能性が高い。したがって、部分的な確認ではあるが西側道路から当該敷地、そして東側道路まで石垣が遺存している可能性が高くなったと言える。また、大小さまざまな石が石材として利用されていること、横目地がそろっていないなど、当該地の発掘調査で確認した二ノ丸東面石垣と類似する点が多く見られる。さらに、北端石垣の検出位置が冒頭で述べた古地図等を利用して製作された淀城復元案の二ノ丸北端の位置とほぼ同じであることから、復元案の正確性が高まった。

造成土は平成29・30年度の発掘調査・詳細分布調査でも確認していることから、当該敷地全域に遺存していると考えられる。また、僅かではあるが造成土から中世の土師器細片が出土した。これまでの発掘調査でも、淀城期の造成土に古代～中世にかけての遺物が混在していることは確認されている。淀城築城にあたって造成土がどのようにして確保され運ばれてきたのかは判然としていないが、淀が京都と西国を繋ぐ水陸交通の要衝の地として栄えていたとされている古代から中世にかけての遺物が造成土内に混在していることは、当該地を含めた広範囲で土地改変が行われたことを示唆する。

なお、今回確認した石垣は直上まで土壌改良がなされたが、施工範囲の変更により地中に保存されることになった。将来再度工事が計画される際は十分に注意して指導しなければならない。

(鈴木久史)

註

- 1) 馬瀬智光『京の城一洛中洛外の城郭一』『京都市文化財ブックス第20集』、2006年。
- 2) 松永修平「長岡京跡・淀城跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-14』、2018年、黒須垂希子「V-5 長岡京跡左京九条三坊五・十二町跡、淀城跡(17NG294)」『令和元年度京都市内遺跡詳細分布調査報告』、2020年。なお、本文中で特にことわりのない限り発掘調査は、上記した松永報告を指すこととする。
- 3) (財)京都市埋蔵文化財研究所「13 長岡京左京九条四坊、淀城跡」『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』、1987年。

V-14 周山城跡 (19A009)

1. 調査の経緯 (図97)

周山城跡は右京区京北周山町に所在する山城で、天正9年(1581)以前に明智光秀が築いたとされる。当城跡については、平成29年度に航空レーザー測量で「赤色立体地図」を作成し、継続的に調査・報告をおこなっている。遺跡の詳細については過年度報告も参照されたい¹⁾。

本年は、赤色立体地図上で道状遺構として視認できるものの、これまで未踏査だった部分について現地確認をおこなったため、その結果を報告する。合わせて、昨年度に引き続き、城域において安土桃山時代の瓦を採集したことから、その報告をおこなうものである。調査は令和2年2月17・21日に実施した。

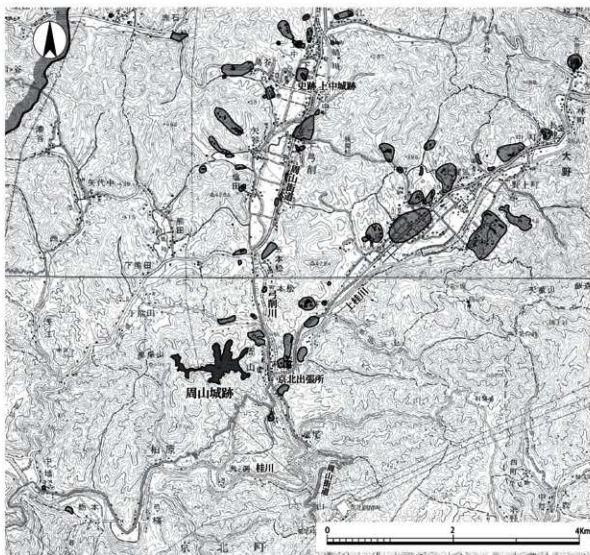


図97 周山城跡と周辺遺跡位置図 (1:60,000)

2. 遺構 (図99)

城北側と城南側でそれぞれ踏査をおこなった。赤色立体地図では、傾斜の緩やかな箇所が相対的に薄い色で表示される。地図上のラインAとラインB1～B3について、線状に薄い色が続いており、道の可能性があると判断したため、これらをたどった。結果、道として通行することは可能であるが、林業に伴って開かれた道との区別は困難であり、城に伴う遺構として確定することはできなかった。

ラインAは主尾根上の堀切まで遮蔽施設・郭等の遺構がなく、周山城に伴うものと考えられることに躊躇する。ラインB1は南側の尾根(尾根a)へと続き、馬ヶ背峠へといたる。尾根道であり、道そのものに手を加えた痕跡はない。また、尾根上に堀切等の遺構もなく、この方向への備えは厚いとは言えない。ラインB2は尾根伝いにたどることができるものの、途中で傾斜が強くなり、行き詰まることから、道としての利用は難しい。ラインB3は等高線に沿う導線で西側尾根(尾根b)へとつながる。尾根bは下半から中央部が凹んだ道となる。上半は傾斜がきつく、平時に道として用いることは厳しい。以上より、いずれのラインも周山城と直接的な関連があると判断することはできなかった。

3. 遺物 (図98)

郭1において軒丸瓦2点を採集した。この内、2は瓦当部が欠落しているが、丸瓦部広端面に「カキメ」があること、凹面に補足粘土が足されていることから、軒丸瓦の丸瓦部であることが分かる。

1は左巻き巴文で外区に12個の珠文が巡る。瓦当裏面は丸瓦部凹面に沿ってナデ、下端のみ周縁に沿ってナデ調整を施す。瓦当側面及び周縁にもナデ調整を施している。2は丸瓦部凸面に縦方向のケズリを施す。凹面は円弧状の糸切痕と布目があり、側面よりのみケズリを施す。上述した通り、凹面側にわずかな補足粘土が足されている。広端面は側面よりに「カキメ」が認められる。

1・2ともに安土桃山時代の所産であり、周山城の何らかの施設に用いられた可能性が高い。

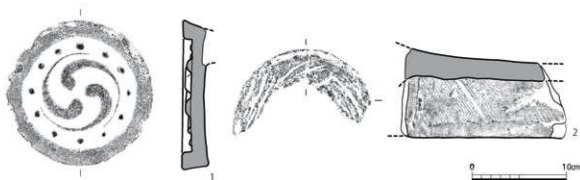


図98 採取軒丸瓦実測図(1:4)

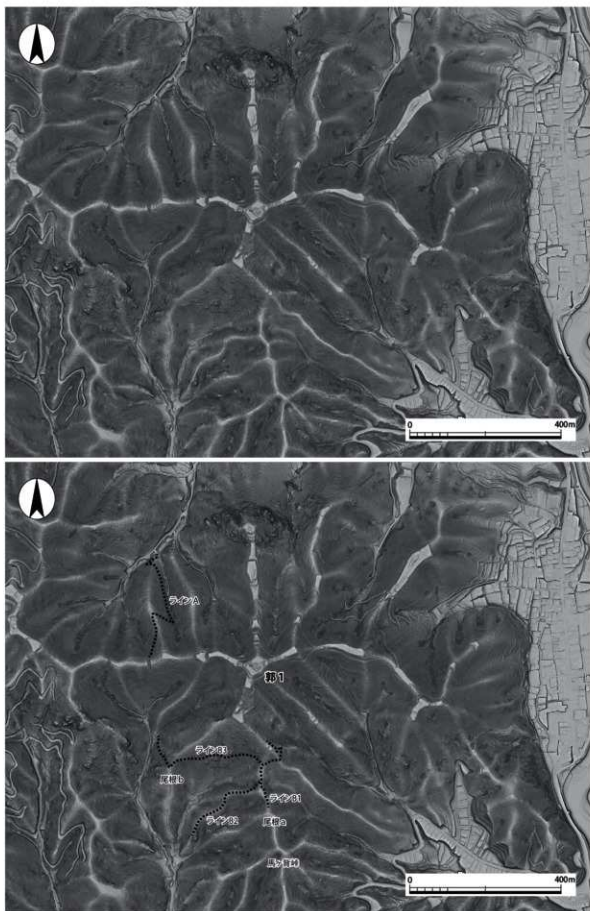


图99 周山城跡赤色立体图(上)と踏查地点(下)(1:10,000)

4. まとめ

道状遺構 今回現地確認をおこなったものについては、いずれも周山城に直接的に関連すると結論付けることはできなかった。

軒瓦の製作方法 今回採集した2点の資料によって、軒丸瓦が以下のように製作されたことが分かる。①丸瓦が完全に乾燥する前に、丸瓦広端面側面より「カキメ」を入れ、乾燥させる。②瓦当范に粘土を詰める。③乾燥した丸瓦を挿入する。④瓦当裏面の凹凸側から少量の補足粘土を足す。⑤丸瓦部凹面に沿ってナデ調整を施す。⑥瓦当部から丸瓦部凸面にかけてケズリ調整を施す。(⑤・⑥の順序は入れ替わる可能性がある。)⑦瓦当裏面下端から丸瓦部側面にかけてナデ調整を施す。⑧瓦当范から外した後に凸型もしくは凹型の調整台に据えて瓦当側面及び周縁部を調整する。

瓦の様相 昨年度、郭1に瓦葺の門があったと想定したが、郭1近辺で採取された軒瓦の出土量が少ないことから、軒先が軒瓦によって飾られていたのかは不明と判断した²⁾。しかし、本資料を含めこれまでに採集されている軒丸瓦を見る限り文様構成及び調整技法が一致しており、同範瓦である可能性が高い³⁾。未だに軒瓦の量が少ないものの、本格的な発掘調査が実施されていない中であってまとまって同範瓦が確認できることから、門が総瓦葺であった可能性が高まった。今後は郭1における詳細な瓦の分布状況を把握する必要がある。

(鈴木 久史・新田 和央)

註

- 1) ①馬瀬智光「IV-8 周山城跡(16A011)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』京都市文化市民局、2018年。
②馬瀬智光・鈴木久史「V-8 周山城跡(19A006)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局、2020年。
- 2) 註1)②
- 3) 織豊期城郭研究会編「周山城跡」『織豊期城郭資料集成1 織豊期城郭の瓦』、1994年、(1) 亀岡市文化資料館『第35回特別展「丹波決戦と本能寺の変」』、2020年。なお、前者は郭1の斜面で採取されている。

Ⅵ 調査一覧表

I 2020年 1～3月期(令和元年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鎌 室 跡	上・御前通一条下る東聖町132-1	3/9	GL-0.62mで黒褐色シルト、-0.68～-0.84mで褐色粘土質シルトの地山。	19K723	HQ608	1
大 藏 宮 跡	上・千本通中立売下る亀屋町53	2/26	GL-0.2mまで盛上。	19K762	HQ591	1
茶園跡、聚楽道跡	上・新白水丸町462-68	2/10	GL-0.45mまで盛上。	19K607	HQ555	1
右近衛府跡、鳳 瑞 道 跡	上・仁和寺街道下る下ノ森通西入仲之町地先	1/30、3/6	GL-0.16mで褐色粘質土、-0.5～-1.0mで明黄褐色粘質土の地山。	19K649	HQ540	1
國 書 寮 跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町245-3	1/20	GL-0.33mで灰黄褐色粘質土の近世包含層、-0.6～-0.68mで深い黄褐色粘質土の時期不明包含層。	19K382	HQ522	1
寢 松 原 跡	上・下長者町通六軒町西入何生町294-19、六軒町通下長者町下る七番町336-4	2/10	GL-0.19mまで盛上。	19K706	HQ556	1
寢 松 原 跡	上・六軒町通出水上る七番町地先	3/24～4/1	GL-0.54～-0.6mで黄褐色砂礫。	19K714	HQ635	1
内裏跡、史跡平安宮跡(内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡)、聚楽道跡	上・下立売通千本東入田中町435-1、435-2、437、439、439-2	2/19	GL-0.65mまで盛上。	O1C127	HQ579	1
内裏跡、聚楽道跡	上・小山町908-15	1/7	GL-0.19mまで盛上。発掘調査(『京都市内遺跡発掘調査報告 令和元年』に報告)後の検出遺構の保存確認のため。	19K011	HQ506	1
内 膳 司 跡	上・上加町通出水上る舟入町305-11	1/22	巡回時掘削終了。	19K618	HQ529	1
内 膳 司 跡	上・弁天町317地先	2/25	巡回時掘削終了。	19K499	HQ586	1
西 雅 院 跡、聚 楽 道 跡	上・淨福寺通中立売下る中務町487地内	19/7/1～20/4/23	GL-1.08～-1.5mで明黄褐色シルトの地山。	19K121	HQ155	1
内 舎 人 跡、聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入中務町400-36	1/31	GL-0.35mまで盛上。	19K639	HQ541	1
内 舎 人 跡、聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入下る中務町486-24、486-25、486-59	3/16～6/12	GL-0.36mで暗灰黄色泥砂、-0.60mで深い黄褐色粘質土の近世包含層、-0.76～-0.98mで明黄褐色シルト(礫混)の地山。	19K240	HQ626	1
判 事 跡	中・西ノ宮内堀町16-33	3/12	GL-0.5mまで盛上。	19K718	HQ616	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上・殿屋町通中立売下る北儀町317(元京都市立聚楽小学校)	2/3	GL-0.65mまで盛上。	19H663	HL 546	2
北辺三坊四町跡、内 膳 町 道 跡	上・一条通寺町西入東日野町395、396合地(京都市立上京中学校)	2/10・12・13・28	GL-0.7～-0.9mで灰黄褐色泥砂の近世包含層。	19H664	HL 557	3
二 条 三 坊 十 四 町 跡、烏丸九太町道跡	中・東洞院通夷川上る三本木五町目489	3/11	GL-0.36mまで盛上。	19H713	HL 613	3
二 条 三 坊 十 五 町 跡、烏丸九太町道跡	中・東洞院通丸太町下る三本木町439他	19/11/19・21・25、20/1/28	№1：GL-0.78mで黒褐色シルトの近世包含層(土師器面)、-1.43mで深い黄褐色細砂の時期不明整地層(土師器高坪)。№2：GL-1.73mで深い黄色砂礫の地山。	19H456	HL 416	3
二条四坊四町跡、烏丸九太町道跡	中・間之町通二条上る夷町564-2他	19/12/11、20/2/6・28	GL-1.34mで黄灰色砂礫、-1.45mで黄褐色砂礫、-1.58mで暗灰黄色泥砂、-1.67mで灰オリープ色泥土(一部下層)の地山を切って落込の鎌倉包含層(土師器、白磁)、-1.81～-2.28mで明黄褐色シルトの地山。	19H560	HL 466	3
三条一坊一町跡	中・西ノ宮北堀町51(京都市立上京中学校)	2/3	GL-0.55mまで盛上。	19H653	HL 545	2

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
三条一坊十町跡	中・西ノ京職司町67-14	3/16	CL-0.65mでふい・黄褐色泥砂(礫混、-0.96~-1.17mで黄灰色粘質土(礫多量混)。	19H757	HL 627	2
四条二坊一町跡	中・猪熊通三条下る三条猪熊町643	2/6	CL-0.55mまで盛上。	19H648	HL 553	4
四条四坊二町跡、 烏丸御池道跡	中・東御院通六角下る御射山町262	2/5	CL-0.45mまで盛上。	19H661	HL 550	5
四条四坊十町跡	中・六角通越屋町西入大黒町87地 (生祥公園)	2/13	CL-0.69mまで盛上。	19H629	HL 562	5
五 条 一 坊 十二・十三町跡	中・壬生相合町1(京都市立松原中 学校)	2/20~3/6	CL-0.53m~0.65mで暗褐色泥砂(灰・炭多量含) の近世包含層。	19H687	HL 581	4
六条一坊十町跡	下・中堂寺總坊町7.10、7.18	3/23	CL-0.4mまで盛上。	19H503	HL 632	4
六条三坊一町跡、 烏丸綾小路道跡	下・若宮通松原下る亀屋町41-2、 41-3	19/10/24・ 28、12/10、 20/2/12	CL-0.81~1.11mで明黄褐色シルトの地山を切っ て黒褐色泥砂の鎌倉土坑。暗灰色泥砂の時期不 明ピット、灰オリープ色細砂~シルトの時期不 明ピット。	19H313	HL 374	5
六条三坊一町跡、 烏丸綾小路道跡	下・富永町106	1/27	CL-1.36mでオリープ褐色砂礫混粘質土の中世包 含層、-1.74~-1.89mで灰オリープ色粘質土の 時期不明包含層。	19H497	HL 534	5
六条四坊十五町跡	下・寺町通五条上る西橋詰町742	19/12/16、 20/1/22	CL-0.98~1.55mで黄褐色砂礫。	19H563	HL 476	5
七条一坊四町跡、 御土屋跡	下・朱雀正会町1-20	3/17	CL-0.66mまで盛上。	19H766	HL 628	6
七条二坊十三町跡	下・東中通正通下る紅葉町365-1他	3/3	CL-0.45mまで盛上。	19H610	HL 601	6
八条一坊一町跡	下・観音寺町15-5、15-6、25-7の 一部	3/11・13	CL-1.2~1.24mで黒褐色粘質シルトの時期不明 包含層。	19H273	HL 615	6
八条一坊十二町跡	南・八条町471-5他	19/11/28・ 29、12/5~ 25、20/1/6~ 21、3/24	№4：CL-0.56mで灰黄色シルト(固く締まる)、 -0.78~-1.10mで灰黄色細砂の地山。№8： CL-0.25mで黒褐色シルト(オリープ褐色シルト ブロック状の窪み)包含層、-0.57~-0.62mで黒褐 色粘質シルト。	18H537	HL 435	6
八条二坊八町跡	下・七条通東堀川西入八百屋町1	1/14	CL-1.63mで黒褐粘質土(礫混、粘性強)の近世以 降包含層(土師器皿・室町)、-2.4~-2.93mで明黄 褐色砂礫の地山。	19H885	HL 515	6
八条三坊一町跡	下・東御院通七条下る東堀小路町 600-40	2/3	CL-0.85mまで盛上。	19H368	HL 544	7
八条四坊一町跡	下・東御院通七条下る堀小路町 506-10、516、518、七条通間 の町東入材木町503-36、503-37、 503-38	19/12/13・ 16、20/1/6	№2：CL-0.75mで灰オリープ色粗砂混シルト、 -0.95mで灰色粗砂混シルト、-1.15mで灰オリ ープ色シルト混砂礫を切って黄灰色礫混シルトの ピット3基、-1.47~-1.80mで灰オリープ色粗 砂~砂礫。№3：CL-0.35mで暗灰黄色粗砂混シ ルト、-0.60mで暗灰黄色粗砂混シルトを切って 黒褐色粗砂混シルトの上坑、-1.15mで灰オリ ープ色シルト混砂礫の地山。	19H608	HL 473	7
九条一坊二町跡	南・八条通町81-3、81-4	3/2	CL-0.48mまで盛上。	19H704	HL 598	6
九条一坊十町跡、 史 跡 教 王 護 国 寺 境 内	南・九条町399	2/28	CL-0.26mでふい・黄褐色砂礫、0.5mで灰黄褐色 砂礫、-0.64~-1.5mで黒褐色粘質土を粘質土。	01N092	HL 597	6
九条二坊十町、 三坊三町跡、 烏丸町道跡	南・西九条春日町13(京都市立九条 弘道小学校)	2/3・4	CL-0.7mまで盛上。	19H694	HL 547	6・7
九 条 三 坊 十二町跡、 烏丸町道跡	南・東九条烏丸町5	2/17、3/26・ 27・30・31	№1：CL-0.29mで黄灰色泥砂、-0.33mで暗灰黄 色砂泥の時期不明包含層(土師器)、-0.53mで黄褐 色シルトの地山を切って黒褐色泥砂(粘質)の時期 不明南北溝、その溝に切られて暗灰黄色泥砂の 時期不明土坑、-0.79mで黄灰色細砂~シルトの 地山、0.9~-1.36mで黄灰色細砂の地山。№2： CL-0.3mで暗灰黄色細砂混シルトの時期不明包含 層(土師器、I)Qを切って灰黄褐色粗砂混シルトの 時期不明落込(土師器)、0.42mで黒褐色細砂混 シルト、-0.52mで黒褐色細砂混シルト、-0.63~ -1.41mでオリープ褐色砂礫の河川堆積。	19H311	HL 570	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条四坊七町跡、 烏丸町遺跡	南・東九条西岩本町40-7、40-8、 40-9	2/25、3/2	GL-0.9mで黒褐色粗砂、-1.15mでオリブ褐色粗砂の河川堆積、-1.36mで暗灰色砂礫の河川堆積、-1.57mで黄褐色細砂の河川堆積、-1.75mで黄褐色粗砂～砂礫の河川堆積、-1.88mでぶい黄色細砂の河川堆積、-1.98mでぶい黄褐色砂礫の河川堆積、-2.08mで暗灰色細砂の河川堆積。	19H414	HL 587	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊五町跡、 御土居跡	北・大將軍川端町33-5	1/24	GL-0.25mまで盛上。	19H654	HR 531	9
一条四坊一・ 二・七町跡	右・花園木辻北町1-1、1-6、36の 各一部、花園砂心寺町1-5、1-6、 1-7の一部、59-2、62-2、62-4、 68の一部	3/13～30、 4/1～9、 10/28	鎌倉前期の東西溝を検出。本報告18ページ。	19H470	HR 620	8
一条四坊十二町跡	右・太秦安井小町9-23の一部、 10-3、10-5、10-6、10-7、23	3/2	GL-0.2～-0.34mでぶい黄褐色粘質土の近世以 降包含層。	19H658	HR 599	8
二条二坊五町跡	中・西ノ京笠原町164(京都市立朱 波第四小学校)	1/21	GL-0.45mまで盛上。	19H651	HR 526	9
二条二坊十五 町跡、西ノ京遺跡	中・西ノ京中瀬門東町81、82、83	3/5	GL-0.95mまで盛上。	19H750	HR 602	9
三条一坊九町跡	中・西ノ京永本町7-1(京都市立西ノ 京中学校)	2/12	GL-0.7mまで盛上。	19H652	HR 560	9
三条二坊六町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京南原町31、32	2/28、3/3	GL-0.2mで黄褐色粗砂、-0.46mで暗褐色砂礫、 -0.8mでぶい黄褐色粗砂。	19H585	HR 595	9
四条二坊九町跡	右・西院上今田町18-3	2/17	GL-0.76mまで盛上。	19H724	HR 572	11
四条三坊三町跡	右・西院春日町3-1(京都市立西院小 学校)	1/21	GL-0.7mまで盛上。	19H671	HR 528	10
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町44-3	2/5・6	GL-0.44mで明黄褐色シルト、-0.61mで灰色泥砂 の近世耕作土(陶磁器)、-0.75～-1.03mでぶい 黄褐色砂泥の地山。	19H558	HR 551	11
五条三坊三町跡、 西院遺跡	右・西院北掛町～西院矢掛町地先	2/21～28、 3/3～26	GL-1.5mまで盛上。	19H744	HR 583	10・ 11
五条三坊四町跡、 西院遺跡	右・西院寺町～西院矢掛町地先	1/31、2/3～ 20	GL-1.15mで黄褐色粗砂(礫混入)、-1.4～-1.5mで 黄褐色微砂の地山。	19H622	HR 543	10・ 11
五条三坊 十五・十六町跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院日照町1(京都市立四条中 学校)	2/12	GL-0.6mまで盛上。	19H670	HR 559	10
五条四坊十一町 跡、西京極遺跡	右・西院安塚町60、61、62	2/3・4～ 4/21	GL-0.73mまで盛上。	19H621	HR 548	10
六条一坊三町跡、 御土居跡	下・中堂寺南町130-1の一部	2/17・18・ 19・20・ 25・26・27	№1：GL-1.19mでぶい黄褐色細砂、-1.27m で黒褐色粘質土の湿状堆積の御土居層土。 -1.84mでオリブ褐色泥砂(礫混入)、-1.99～-2.1m で暗灰色粗砂の地山。№4：GL-1.2mで黒褐色 泥砂の近世陶磁器包含層、-1.41～-1.86mでぶい 黄褐色砂礫の地山。	19H620	HR 571	11
六条一坊十六町跡	下・中堂寺住ノ内町28-44	2/28	GL-0.1mまで盛上。	19H591	HR 596	11
六条二坊三町跡	下・西七条東御前田町24-1他6筆、 赤社町20-1他8筆(1号地)	19/12/25～ 20/1/8	GL-0.95mまで盛上。	19H545	HR 498	11
六条二坊三町跡	下・西七条東御前田町24-1他6筆、 赤社町20-1他8筆(3号地)	1/6	GL-0.7mまで盛上。	19H546	HR 504	11
六条二坊三町跡	下・西七条東御前田町24-1他6筆、 赤社町20-1他(9号地)	1/23	GL-0.8mまで盛上。	19H544	HR 530	11

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊二町跡、 西院道跡	右・西院西寿町28	1/31、2/3	CL-0.85mで黄褐色粘質土の時期不明包層(土師器)・-1.0mで暗灰色泥砂の平安時代前期包層(土師器皿、須恵器、黒色土器)・-1.11mで黄褐色粘質土・-1.19mで褐色シルト(砂質)・-1.4mで褐色シルト、-1.6mで黄褐色砂礫の地山。	19H097	HR542	10
六条四坊十六町跡	右・西京極野町2(京都市立葛野小学校)	3/9・10・17	CL-0.68mで黄褐色粘質シルトの地山を切ってオリーブ褐色粗砂質シルトの時期不明東西溝。	19H672	HR609	10
七条二坊十二町跡、西市跡、 衣田町道跡	下・西七条北衣田町41-1	2/26	CL-0.34mまで盛土。	19H705	HR592	13
七条四坊三町跡	右・西京極宮ノ東町13-1、13-5の一部、15-2	1/14・20	CL-0.8mまで盛土。	19H592	HR516	12
九条一坊十三町跡、史跡 西寺跡、唐橋道跡	南・唐橋西寺町65(京都市立唐橋小学校)	3/13・16	CL-0.7mまで盛土。	01N094	HR610	13
九条一坊十三町跡、史跡 西寺跡、唐橋道跡	南・唐橋西寺町	19/10/23、 20/3/11、 4/23	CL-0.22mまで盛土のみ。調査は事前試掘調査検出遺構の保存確認のためのもの。	01N036	HR612	13
九条二坊六町跡、 唐橋道跡	南・唐橋平町24	19/7/29～ 20/12/15	平安前期から鎌倉の湿地を検出。本報告27ページ。	16H183	HR212	13
九条二坊十一町跡	南・唐橋高畑町1-2他	2/25、6/15	CL-0.51mでオリーブ褐色粗砂、-0.64mで黄褐色細砂、-0.78mで黄褐色粗砂、-1.0～-1.12mでオリーブ褐色細砂。	19H535	HR588	13
九条三坊八町跡	南・吉祥院ノ庄西中町24-2	1/15・17	CL-0.52mで暗灰色粘質土(炭化物、小礫混)・-0.67mで浅黄色シルトの地山、-1.22～-2.04mで黄褐色細砂～砂礫の地山。	19H412	HR519	12

太秦地区(UZ)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
愛宕山道跡	右・嵯峨愛宕町1	19/4/7～ 20/11/6	桃山の陶器、多量に採集。	19A001	UZ177	27.2
嵯峨道跡	右・嵯峨天龍寺北道路町48-3	3/17・19・ 30	CL-0.29mで明黄褐色粗砂、-0.56mで黄褐色粘質土(粗砂混)の地山、-0.78mで明黄褐色粗砂の地山、-1.03～-1.08mで明黄褐色粘質土の地山。	19S417	UZ629	24.1
嵯峨道跡	右・嵯峨天龍寺北道路町48-3の一部、48-4、48-8、48-11	3/17・30、 4/1・6	№1；CL-0.27mで褐色泥砂の地山を切って暗褐色泥砂の時期不明ピット(土師器、須恵器)・-0.75～-1.52mで明黄褐色粘質土の地山。№3；CL-0.22mで明褐色シルトの時期不明包層、-0.48mで黄色シルトの地山、-1.0～-1.24mで明褐色砂砂礫の地山。	19S418	UZ630	24.1
仁和寺院家跡	右・宇多野御池町15-1の一部、15-7	1/24	CL-0.32～-0.49mで明黄褐色粘質土の時期不明包層。	19S584	UZ532	21
草木町道跡	右・鴨園中道町18-5、18-9、18-10、18-15、18-18	3/13	CL-1.5mまで盛土。	19S424	UZ621	21
太秦馬塚町道跡	右・太秦中筋町11、12-21	19/12/20・ 23・25・ 27、20/1/16	№1；CL-0.13mで黒褐色シルト、-0.20mで暗褐色シルトを切って黒色シルト(にぶい)黄色シルトブロック混のピット、-0.42～-1.10mでにぶい黄色シルトの地山。№3；CL-0.21mで黒褐色泥砂の時期不明包層、-0.24mで明黄褐色シルトの地山、-0.3mでにぶい黄褐色粗砂(礫混)の地山、-0.52～-1.39mで明黄褐色シルトの地山。	18S363	UZ495	21
上ノ段町道跡	右・嵯峨野御町1-1(京都市立錦ヶ岡中学校)	3/5、4/21	CL-0.6～-0.8mで黒褐色砂質土。	19S665	UZ603	21
西野町道跡	右・嵯峨野千代ノ道町53(京都市立嵯峨野小学校)	3/30	CL-0.6mまで盛土。	19S662	UZ644	21

洛北地区(RH)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
栗栖野瓦葺跡	左・岩倉橋枝町(9号地)	2/25	GL-0.35mまで盛上。	19S692	RH 589	17-1
栗栖野瓦葺跡	左・岩倉橋枝町653-4	1/28・29	GL-0.51～-0.6mで浅黄色粘質土の地山。	19S549	RH 538	17-1
栗栖野瓦葺跡	左・岩倉橋枝町641-1 地内	1/7	巡回時観測終了。	19S571	RH 508	17-1
栗栖野瓦葺跡	左・岩倉橋枝町628, 1481, 2523	2/13	GL0.0～-0.65mで明黄褐色岩盤の地山。	17S423	RH 563	17-1
木野葛葺跡	左・岩倉橋枝町	19/4/6・13, 20/4/7	奈良時代の須恵器, 瓦を多量に採集。	19A002	RH 178	17-1
植物園北道跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1(京都市立上賀茂小学校)	3/24・25	GL-0.18～-0.38mで黒褐色泥砂(炭泥)。	19S668	RH 636	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1(京都市立上賀茂幼稚園)	3/27・30, 6/25	GL-0.6mまで盛上。	19S669	RH 643	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂敷田町25-1の一部	19/12/23・24, 20/1/6	古墳の上坑, ビットを検出。本報告42ページ。	19S511	RH 496	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂高橋手町37-1	1/7～19, 2/10～14	GL-0.91～-1.12mで灰黄褐色粘質土と黄灰色粘質土の混雑作上。	19S431	RH 507	25-1
植物園北道跡	左・下鴨水129-4, 5の一部	2/3	GL-0.16mで灰黄褐色泥砂, 0.28mで暗灰色泥砂の混雑作上, -0.36～-0.4mで黄褐色泥砂確認。	19S699	RH 549	25-1
植物園北道跡	左・松ヶ崎芝本町 地内	1/27・29	GL-1.7mまで盛上。	19S656	RH 535	25-1
植物園北道跡	左・松ヶ崎今海道町1.5, 1-11	3/30	GL-0.69mで黒褐色泥砂, 0.8～-1.25mで暗褐色泥砂の地山。	19S689	RH 645	25-1
御上居跡	北・紫竹上長目町5(京都市立加茂川中学校)	2/10	GL-0.65mで明黄褐色粗砂, -0.73～-0.78mで黄褐色泥砂。	19S673	RH 558	16-2
御上居跡	北・紫野南花ノ坊町12-2	3/6	GL-0.17mでにぶい黄褐色泥砂, -0.29～-0.33mで黄褐色泥砂確認。	19S755	RH 607	16-3
雲林院跡	北・紫竹西高橋町～紫野西御所町他 地内	19/4/15, 5/21～29, 6/3～27, 7/4～30, 8/6, 10/10-30, 11/8～29, 12/3～19, 20/2/4～20, 3/3	№11: GL-0.22mで黒褐色粘質土, -0.46～-0.52mで明黄褐色泥砂(炭泥)の地山, №14: GL-0.16mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層, -0.31mで黒色粗砂混シルトの中世包含層を切って暗灰黄色粗砂混シルトと黒色粗砂混シルトの中世層, -0.55～-1.15mで黄褐色粗砂混シルトの地山, №15: GL-0.6mで黒褐色粘土質シルト(炭質)の時期不明包含層, -0.9～-1.5mで暗褐色砂礫の地山, №16: GL-0.57mで暗褐色シルト, -0.7mで黒褐色シルト, -0.77～-1.1mで明黄褐色砂礫の地山を切ってにぶい黄褐色泥砂の土坑。	18S715	RH 023	163-173
北野鹿寺, 北野道跡	北・北野白梅町15-2の一部, 15-4の一部	19/11/12, 20/4/21	GL-0.61mまで盛上。	19S357	RH 403	16-3
尊重寺跡	上・北玄蕃町～北小路中之町 地内	19/10/23～20/12/16	№8: GL-0.68mで灰黄褐色粘質土, -1.38～-1.5mで褐色粘質土, №9: GL-0.68mで暗褐色粘質土の地山, -0.9～-1.02mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	19S243	RH 369	16-3
上京道跡, 寺ノ内旧城	上・新町上御霊前北入	1/21・24	GL-0.6mまで盛上。	19S494	RH 527	17-3
上京道跡, 寺ノ内旧城	上・新町通寺之内上二丁目道正町443, 444, 446-3, 446-8	3/12	GL-0.55mまで盛上。	19S752	RH 617	17-3
上京道跡, 寺ノ内旧城	上・立上亮通新町西入御三軒町55	3/25・26	GL-1.15mまで盛上。	19S570	RH 640	17-3

北白川地区(KS)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北白川通分町跡	左・北白川通分町144-3	3/31	GL-0.42mで暗褐色シルト混粗砂を切って暗褐色シルト混粗砂の時期不明層, -0.53mで褐色シルト混粗砂の鎌倉包含層(土師器), -0.66～-0.91mで暗灰黄色シルト混粗砂。	19S748	KS 646	22

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
小倉町別当町道路	左・北白川上別当町37	19/11/22・ 25・27・28、 12/5・12、 20/17・8・ 10・14・25・ 28、3/3、 4/1・6・7	№2；GL-0.35mでにぶい黄褐色粘質土を切って黒褐色粘質シルトの時期不明溝(須置器) 0.4～0.67mで明黄褐色細砂～粗砂の地山。№3；GL-0.25mでにぶい褐色粗砂の地山を切って灰黄褐色粗砂の感込。0.41～0.61mで浅黄色粗砂の地山。№6；GL-0.2mで暗オリーブ褐色粗砂シルトの時期不明包層。-0.49mで黒褐色砂質シルト、-0.58mで暗褐色砂質シルト、-0.67～-0.73mで褐色粗砂の地山を切って暗褐色砂質シルトの時期不明ピットと灰黄褐色砂質シルトの感込。№7；GL-0.17mでにぶい黄褐色粗砂シルトを切って黒褐色粗砂シルト(にぶい黄褐色粗砂混シルト、灰黄褐色砂質シルト、褐色粗砂ブロック混)の時期不明上坑。-0.46mで灰黄褐色砂質シルト、-0.7～-0.85mで褐色粗砂の地山。試掘調査遺構検出後の調査。	18S707	KS 421	22
吉田上大路町道路、白河街区跡	左・吉田近衛町26.53 他	3/16	GL-0.62mで黒褐色泥砂(成津諏敷く)の近世包層。-0.98～-1.32mで浅黄色細砂～粗砂の地山。	18S777	KS 623	22
白河北殿跡、白河街区跡、聖護院川原町道路	左・聖護院川原町地先	2/17・18・ 28、3/6	GL-1.14～-1.4mでにぶい黄色粗砂。	19R719	KS 573	22
尊勝寺跡、得長寺院跡、白河北殿跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・丸太町通～琵琶湖疏水、川端通～桜馬場通 地内	1/28～12/25	№6；GL-1.1～-1.3mで黄褐色シルトの地山を切って褐色シルト(粘質)の時期不明上坑。№9；GL-0.64mで灰黄褐色泥砂、0.76mで黄褐色泥砂(濃混、堅く締まる)。	19R427	KS 536	22
延勝寺跡、得長寺院跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・二条通北側、川端通～東大路通 他 地内	19/12/16～ 20/7/17	GL-0.46～-0.66mで灰黄褐色粗砂。	19R428	KS 478	22
白河街区跡	左・岡崎天王町26.5	2/25～4/2	古墳の上坑群、平安後期の落込を検出。本報告47ページ。	18S217	KS 590	22
白河街区跡	左・南禅寺草川町～粟田口島町町地先	19/12/16～ 20/3/16	GL-0.6mで灰白色粗砂の地山、-0.7～-1.15mで灰色泥砂(ラミナ状)の地山。	19S593	KS 479	22・ 23
名勝無鄰庵庭園、白河街区跡	左・南禅寺草川町31	1/21	GL-0.2mで灰色粗砂(やや締まる)の近代造成土。0.65mで褐色粗砂(シルト)、確認の時期不明造成土。	01N053	KS 521	22
岡崎道跡	左・岡崎東天王町19	19/10/3～ 20/5/18	№1；GL-0.25～-0.55mでにぶい黄褐色砂礫の地山。№2；GL-1.5～-1.9mで灰白色粗砂(濃混)の地山。	19S323	KS 331	22
史跡南禅寺境内	左・南禅寺福地町86.17	2/14	GL-0.4mまで盛土。	01N075	KS 567	22
御土居跡	上・北之辺町395.8	3/17・18	GL-0.24～-0.66mで暗褐色砂礫。	19S660	KS 631	28・3

洛東地区(RT)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
知恩院境内	東・粟田口三条坊町73	3/5	GL-0.05～-0.4mで褐色砂質土(土壌化)。	19S759	RT 604	23
知恩院境内	東・新橋通大和路東入林下町400	2/3・12・ 14・18・20・ 26、3/2・ 5・10	GL-0.67～-2.37mで明黄褐色砂礫(黄褐色シルトブロック状)を切って明黄褐色粗砂の時期不明落込。この層を切って黄褐色粘質土の時期不明上坑。	19S600	RT 537	23
祇園道跡	東・祇園町北側 地内	19/6/13～ 20/7/30	GL-1.35mで褐色粗砂。	18S802	RT 114	23
音羽・五条坂空跡	東・慈法院庵町594.9	19/10/21・ 30、11/19、 12/6・25・ 28、20/2/28	№1；GL-0.44mで黄褐色泥砂(明黄褐色粗砂ブロック混)、-0.76mで黄褐色粗砂(小礫、炭屑)の時期不明包層。-0.88～-1.48mで褐色泥砂の近世包層。№2；GL-0.42～-1.96mで明黄褐色粘質土の時期不明包層。	19S353	RT 368	23
音羽・五条坂空跡、六波羅政庁跡	東・渋谷通本町東入鐘跡町415.4	2/27	GL-0.6mまで盛土。	19S725	RT 594	23

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
法住寺殿跡、 六波羅政庁跡、 方広寺跡	東・妙法院前側町429-1、429-46 地内	3/11	GL-0.43mまで盛上。	195697	RT 614	23
法住寺殿跡、 六波羅政庁跡、 方広寺跡、 史跡方広寺大仏殿 跡及び石塔・石塔	東・茶屋町534-1	2/20	GL-0.83mまで盛上。	01C092	RT 582	23
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り657 蓮華王院 三十三間堂地内	2/21	GL-0.73mまで盛上。	195743	RT 585	23
法性寺跡、 正覺寺跡	東・本町十九丁目～伏・深草開土町 地内	19/7/18～ 20/4/22	№1：GL-0.7～-0.95mで灰色粘土。№5： GL-0.2～-0.4mでふい褐色シルトの地山。	185771	RT 186	25-2
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)	山・西野今屋敷町9-6、2-11(京都 市立安祥寺中学校西校舎)	19/12/26、 20/4/21	GL-0.55mまで盛上。	195516	RT 501	25-3
大宅道跡	山・大宅山田町3、7-1、7-3	2/13	GL-1.1mまで盛上。	195734	RT 566	29-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-16	1/9	GL-0.3mまで盛上。	19N590	RT 511	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-19	2/18	GL-0.2mまで盛上。	19N666	RT 578	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-5	3/13	GL-0.24mまで盛上。	19N790	RT 622	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-20	3/31	GL-0.3mまで盛上。	19N808	RT 647	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-21	1/20	GL-0.15mまで盛上。	19N543	RT 523	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町57-7	3/26	GL-0.35mまで盛上。	19N717	RT 641	26-1
中 臣 道 跡	山・西野山中臣町20-1	19/10/23、 20/4/21	GL-0.7mまで盛上。	19N463	RT 370	26-1
中 臣 道 跡	山・西野山中臣町 地内	1/28、4/21	巡回時掘削終了。	19N615	RT 539	26-1
中 臣 道 跡	山・勤修寺西栗納野町245、246の 一部	1/10	GL-0.05～-0.3mで田耕作土。	19N422	RT 514	26-1
中 臣 道 跡	山・勤修寺西栗納野町225	19/12/19～ 20/1/27	GL-0.9mまで盛上。	19N568	RT 493	26-1
中 臣 道 跡	山・柳辻番所々口町31-1、32-2、 勤修寺東栗納野町77-5、77-6	19/10/7～ 20/4/8	GL-0.54mでふい黄褐色シルトの地山。試掘調 査及び発掘調査に伴う調査。	18N438	RT 339	26-1

伏見・醍醐地区(FD)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
深草坊町遺跡	伏・深草真宗院山町1-12(8号地)	1/10	GL-0.5mまで盛上。	195637	FD 513	29-2
深草坊町遺跡	伏・深草真宗院山町1-8(4号地)	1/10・14	GL-0.5mまで盛上。	195636	FD 512	29-2
伏見城跡	伏・深草大亀谷金森出雲町12、13 合併の一部	2/19	GL-0.15mまで盛上。	19F617	FD 580	14
伏見城跡	伏・西廻り町～京町北八丁目 地内	19/10/2～ 20/6/24	№1：GL-0.78mで明黄褐色粗砂。-0.95～-1.25m で黄灰色粘土の湿地状堆積。№4：GL-0.44mで 明黄褐色粗砂。-0.56mで明黄褐色粗砂。-0.8mで 黄灰色粘質土。0.94mでふい黄色粗砂。-1.06～ -1.5mで黄灰色粘質土(粗砂)。№6：GL-1.36m でふい黄褐色粗砂の伏見城期造成土。-1.86～ -2.03mまで灰黄褐色粗砂の伏見城期造成土。	19F231	FD 326	14
伏見城跡	伏・桃山町西尾～深草大亀谷山町	19/10/24・ 29・31、 11/1・6・12、 20/2/27、 3/11・12・ 23、9/30、 10/5	№3：GL-0.56mで褐色砂質土の時期不明造成土。 -0.98mで褐色粗砂の時期不明造成土。-1.46mで 黄褐色砂礫の時期不明造成土。№5：GL-1.38m で褐色泥土の伏見城期の造成土。-2.85mで明黄 褐色シルトの伏見城期の造成土。-3.12mで褐色 シルトの伏見城期の造成土。-3.28mで明黄褐色 粘土の伏見城期の造成土。№7：GL-0.61～-1.87m で明赤褐色砂礫の地山。	16F293	FD 371	14・ 15
伏見城跡	伏・桃山町島津47-24	19/10/17・ 25・31、 11/6・12、 20/1/27	GL-0.25mで浅黄色粗砂の地山。-0.6～-0.85mで 灰白色砂礫の地山。この地点から南北方向に地 山が下がり東西方向の尾根を形成。地山が下がる 部分には褐色系のシルトや粗砂の時期不明造 成土・整地土が堆積。	19F246	FD 362	14

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡、 福島太夫道跡	伏・桃山福島太夫北町28-44、28-51、 28-57	3/9・11	GL-0.65mまで盛上。	19F630	FD 611	14
伏見城跡	伏・御堂筋町92-1、92-2、157	3/5	GL-0.41～-0.54mで明黄褐色砂質土(酪まり有)。	19F642	FD 605	14
伏見城跡	伏・鷹匠町2-2、2-5、4、4-1、4-2	3/23・27・ 30	GL-0.41mで黒褐色泥砂、-0.86mで暗褐色泥砂(黄褐色シルトブロック状含)、-1.08～-1.28mで にふい・黄褐色粘質土の地山。	19F474	FD 634	14
伏見城跡	伏・南部町85-1	1/8、4/21	№1: GL-1.33mで黄褐色泥砂(粗砂混)、-1.83～ -2.51mで黒褐色泥砂の江戸後期包含層。№2: GL-1.44mで黒褐色泥砂、-1.77～-2.23mで灰色 粘質土の江戸後期包含層。	19F182	FD 510	14
伏見城跡	伏・京町三丁目173、178-1	2/7	GL-7.9mまで旧建物の基礎。	19F430	FD 554	14
伏見城跡	伏・廻向寺院町、御香宮門前町地内	19/12/2～ 20/3/3	GL-0.65mでにふい・黄褐色泥砂、-0.9mで暗褐色 砂泥(礫混)、-1.2～-1.75mで灰白色砂質の地山。	19F044	FD 441	14
伏見城跡、 指月城跡	伏・桃山町泰長老4他	19/12/18、 20/1/7・8	GL-0.3mまで盛上。	19F519	FD 488	14
伏見城跡	伏・桃山町古城山	3/2・3・4	№1: GL-0.28mで灰黄褐色泥砂、-0.5mで明黄 褐色泥砂の時期不明造成土。№2: GL-0.27～ -0.58mで明黄褐色泥砂の地山。	19F647	FD 600	14・ 15
伏見城跡	伏・桃山町板倉四防	3/12	GL-0.5mまで盛上。	19F708	FD 618	15
伏見城跡、 木幡ノ四跡	伏・桃山紅雪町91-3	2/17	GL-0.38mまで盛上。	19F712	FD 575	15
中山道跡	伏・小栗橋中山田町43	2/17	GL-0.65～-1.32mで黄褐色粘質土の地山。	19S165	FD 574	15

鳥羽地区(TB)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
深草道跡	伏・深草西浦町四丁目65の一部	1/24～30	GL-0.45mまで盛上。	19S504	TB 533	29-6
深草道跡	伏・深草西浦町五丁目17、18	2/5・12	GL-0.53～-1.93mで淡黄色細砂混シルトの地山。	19S219	TB 552	29-6
上鳥羽道跡	南・上鳥羽南花名町28、29、30	3/23・26	GL-1.15mまで盛上。	19S701	TB 633	29-7
上鳥羽道跡	南・上鳥羽第105Aブロック雑田田2、 2-2、3-2、5-2、6-2、7-2、8-2、 9-2、10-1、14-2、16-2、20-2、 21-2、28及び40	19/8/8、 11/22、 20/1/10、 6/10	GL-0.94mで旧耕作土、-1.05mで黒褐色泥砂、 -1.25～-1.57mで明黄褐色シルトの地山。	19S149	TB 233	29-7
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町124	1/6	GL-0.4mまで盛上。	19T508	TB 505	26-2
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町133	2/17	GL-0.32mまで盛上。	19T693	TB 576	26-2
久我殿道跡	伏・久我本町3-23・24・25	3/25	GL-0.27～-0.52mで黄褐色微砂。	19S747	TB 639	19
淀城跡	伏・淀池上町地内	2/21、3/3・ 9・11	GL-1.01mで明黄褐色泥砂、-1.13mで黄褐色細 砂、-1.22mでにふい・黄色細砂、-1.33～-1.39m で暗灰黄色細砂(炭屑)の近世整地層。	19S078	TB 584	20
淀城跡	伏・淀下津町209、213、214、 245	19/12/16、 20/1/15、 3/25	GL-1.01mで明黄褐色粘質土(小礫混)の近世以降 包含層、-1.53～-1.77mで明黄褐色シルト(ラミ ナ有)の河川堆積。	19S561	TB 480	20
淀城跡	伏・淀新町124-58(4号地)	1/14	GL-0.4mまで盛上。	19S627	TB 518	20
淀城跡	伏・淀新町124-36(29号地)	3/16	GL-0.25mまで盛上。	19S695	TB 624	20
淀城跡	伏・淀新町124-30(35号地)	3/16	GL-0.5mまで盛上。	19S598	TB 625	20
淀城跡	伏・淀新町124-52(45号地)	2/13	GL-0.28mまで盛上。	19S533	TB 564	20
淀城跡	伏・淀新町124-37(50号地)	3/25・27	GL-0.25mまで盛上。	19S528	TB 637	20
淀城跡	伏・淀新町124-39(52号地)	2/13・14	GL-0.4mまで盛上。	19S564	TB 565	20
淀城跡	伏・淀新町124-40(53号地)	1/14・15	GL-0.5mまで盛上。	19S599	TB 517	20
淀城跡	伏・淀新町124-41(54号地)	3/25～4/17	GL-0.35mまで盛上。	19S623	TB 638	20

長岡京地区(NG)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
左京一条 四坊十六町跡	伏・久我石原町7-142, 7-10の一部	2/12	GL-0.92mで灰黄色粘質土の旧耕作土。-1.11～-1.35mで明黄褐色粘質土の地山。	19NG675	NG 561	18-3
左京二条四坊三・ 四・五・六町、 三条三坊十五町、 四坊二町跡、 東上川道跡	伏・久我西出町～南・久世東上川町 地内	1/16～12/15	№1: GL-0.60mで旧耕作土。0.75mで灰色シルト、-0.95mで灰オリーブ色泥砂。-1.15mで褐色微砂～シルト。-1.35～-1.50mでオリーブ灰色微砂。№3: GL-0.60mで旧耕作土。0.75mで灰黄色シルト。-1.10～-1.40mで暗灰黄色細砂。	19NG458	NG 520	19
左京三条 三坊十・十五町、 四坊二・七町跡、 鸕鷀井清水道跡	伏・久我西出町 地内	19/11/13・ 14・20、 12/5・24、 20/4/2, 6/1	巡回時観測終了。	19NG316	NG 406	19
左京四条 三坊十三町跡、 羽東師菱川城跡	伏・羽東師菱川町12-2, 13-1	19/12/18、 20/4/21	巡回時観測終了。	18NG573	NG 489	19
左京四条 四坊三町跡	伏・羽東師菱川町地内	19/7/24～ 20/4/21	巡回時観測終了。	19NG079	NG 205	19
左京五条 四坊十四町跡	伏・羽東師古町地内	19/12/13、 20/1/6・24	GL-1.41mでふい黄褐色シルト。-1.64mでふい黄褐色粘土質シルト。-1.88～-2.18mで暗オリーブ灰色細砂混シルト。	19NG462	NG 475	19
左京九条三坊 三町跡、淀水垂 大下津町遺跡	伏・淀水垂町他地先	2/14, 12/15	GL-2.18mで褐色細砂の近世包含層(近世陶器)。 -2.28mでふい黄褐色粘土質シルトと黄褐色粘質土の互層。 -2.44mでオリーブ褐色細砂礫混。-2.53mで黄褐色微砂。-2.71～-2.99mでオリーブ褐色砂礫。	19NG505	NG 568	20
左京九条三坊四・ 五・十二町跡、 淀城跡	伏・納所町～淀水津町他 地内	19/11/14～ 20/10/27	№5: GL-0.5～-0.7mで明黄褐色泥砂の時期不明 造成土。№8: GL-0.6～-0.75mで褐色粗砂。 №10: GL-0.75～-0.95mで黄色シルト。	19S384	TB 410	20

南桂川地区(MK)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山 革船館跡、 革船道跡	西・嵐山東一川町 西・川島玉頭町38-7, 38-10	2/26 1/7・15	GL-0.12mまで盛土。 GL-0.52mで灰白色シルトの旧耕作土。-0.56m で明黄褐色粘質シルト。	01N070 19S583	MK593 MK509	26-3 18-2
下津林道跡	西・下津林町5-169	3/26	GL-0.5mまで盛土。	19S814	MK642	18-2
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(6号地)	1/20	GL-1.0mまで盛土。	19S635	MK525	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(5号地)	1/20	GL-1.1mまで盛土。	19S634	MK524	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(2号地)	3/5	GL-1.1mまで盛土。	19S730	MK606	26-4
中久世道跡	南・久世中久世町二丁目～久世中久 世町三丁目地内	19/10/2～ 20/3/3	GL-0.35mで黄褐色礫混シルトの地山。-1.3～ -1.5mでふい黄褐色砂礫の地山。	19S274	MK327	18-3
中久世道跡	南・久世殿城町61-9, 61-10	2/17	GL-0.42～-0.52mで旧耕作土。	19S541	MK577	18-3
中久世道跡、 下久世橋跡	南・久世殿城町174, 175	3/12・16	№1: GL-0.42mで灰黄色砂礫の潰れ堆積。-0.92～ -1.51mで灰白色砂礫の地山。№3: GL-0.4mで 明黄褐色シルトの地山。-0.86～-1.39mで黄灰 色砂礫の地山。	19S729	MK619	18-3

京北地区(UK)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
嵐山城跡	右・京北嵐山町	2/17・21	嵐山城の軒丸瓦、丸瓦を採集。本報告27ページ。	19A009	UK 569	24-2
嵐山鹿寺	右・京北嵐山町中39-4(京都市立 嵐山中学校敷地)他	19/8/1～ 20/11/5	№5: GL-0.69～-2.58mで褐色岩盤の地山。 №7: GL-0.16m～-0.68mで褐色シルトの地山。	16S633	UK 206	24-2

Ⅱ 2020年 4～12月期(令和2年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
漆室跡	上・東宮町126の一部	10/26	GL-0.25mまで盛上。	20K425	HQ346	1
漆室跡	上・東宮町126の一部	10/26	GL-0.25mまで盛上。	20K424	HQ345	1
大蔵省跡	上・西宮町683-10～470-27地先	6/1～26	GL-0.56mまで盛上。	18K581	HQ101	1
大蔵省跡	上・中立先通千本西入二丁目九田丸369-2の一部、369-3地先	6/22～7/10	巡回時掘削終了。	20K132	HQ136	1
大蔵省跡、 聚楽第跡	上・中立先通浄福寺西入加賀屋町401	9/7	GL-0.4mまで盛上。	20K248	HQ270	1
主殿寮跡、 聚楽第跡	上・新白水丸町462-98、462-105	8/31、9/1	GL-0.15mまで盛上。	20K202	HQ256	1
茶園跡、聚楽第跡	上・松崎町通中立先上る下籠石211-2	7/9	GL-0.42mまで盛上。	20K186	HQ159	1
内教坊跡、 聚楽第跡	上・須賀沼町地先	6/3	巡回時掘削終了。	20K053	HQ109	1
大蔵庁跡	上・二番町194-30	11/5	GL-0.2mまで盛上。	20K372	HQ373	1
正則司跡、右京 北辺二坊二町跡	上・仁和寺街道天神通西入下横町～仁和寺街道御前東入風塚町地先	10/1～28、 11/4～10、 12/1	GL-0.2mでにぶい、黄褐色泥砂。-0.35mで黒褐色泥砂の時期不明包層。-0.7～-0.8mで明黄褐色シルトの地山。	20K397	HQ310	1・9
右近衛府跡、 風端遺跡	上・御前通下立先上る二丁目神の町299-1	10/13	GL-0.18mで黒褐色泥砂の近世包層。-0.33～-0.5mでにぶい、黄褐色泥砂の近世包層。	20K320	HQ327	1
圖書寮跡	上・下長者町通七本松西入風塚町地先	4/28	GL-0.5mまで盛上。	20K035	HQ045	1
圖書寮跡	上・下長者町通七本松西入風塚町245-27	7/15	GL-0.5mまで盛上。	20K181	HQ158	1
寛松原跡	上・利生町地先	6/3	GL-0.98mまで盛上。	20K124	HQ105	1
寛松原跡	上・四番町151-112	8/4	GL-0.72mまで盛上。	20K167	HQ150	1
寛松原跡、 風端遺跡	上・下立先通七本松西入西東町377-2	11/10	GL-0.5mまで盛上。	20K467	HQ388	1
寛松原跡	中・聚楽廻西町163-32	12/25	GL-0.35mまで盛上。	20K473	HQ464	1
掃部寮跡	上・下長者町通六軒町西入利生町294-169地	5/29	GL-0.45mまで盛上。	19K343	HQ097	1
掃部寮跡	上・下長者町通六軒町西入利生町294-129	11/4	GL-0.3mまで盛上。	20K423	HQ369	1
内蔵寮跡	上・下長者町通千本西入六番町地先	12/21・23	GL-1.2～-1.4mで黒褐色泥砂。	20K573	HQ456	1
織殿寮跡	上・山王町503-11～503-14地先	6/8・10	GL-0.65mまで盛上。	19K786	HQ118	1
梨本跡、聚楽第跡	上・高台院町地先	7/2	GL-0.3～-0.7mで幅0.9m以上の石。	20K067	HQ153	1
梨本跡、聚楽第跡	上・上長者町通浄福寺西入高台院町556-2	7/9～15	GL-0.64mまで盛上。	20K116	HQ167	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・西天祥町地先	12/11	GL-0.95～-1.45mで明黄褐色泥砂の地山。	20K436	HQ441	1
内膳司跡	上・出水通千本西入七番町地先	4/8・20	GL-0.75mまで盛上。	19K715	HQ009	1
真言院跡、 聚楽第跡	上・丸太町通千本西入稲葉町地先	6/10～24	GL-0.75mまで盛上。	20K134	HQ123	1
真言院跡	上・下立先通千本西入稲葉町436-5	11/24	GL-0.3mまで盛上。	20K504	HQ402	1
真言院跡	上・下立先通六軒町西入長門町419-2	12/18	GL-0.3mまで盛上。	20K491	HQ453	1
中和院跡、 聚楽第跡	上・千本通下立先下る西入小山町地先	6/23	GL-1.02mまで盛上。	20K162	HQ143	1
東雅院跡、 二条城北遺跡	上・榎木町通大宮西入中書町681	6/3	GL-0.28～-0.39mで褐色泥砂。	20K064	HQ108	1
西雅院跡、 聚楽第跡	上・智恵光院通榎木町上る中務町486-84	6/4	GL-0.62mまで盛上。	19K773	HQ111	1
右兵衛府跡	上・御前通下立先下る下之町396-1	11/27	GL-0.2mまで盛上。	20K361	HQ412	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町188-76	9/3	GL-0.27～-0.41mで灰黄褐色泥砂の近世包層。	20K291	HQ264	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町地先	10/14	GL-1.45mまで盛上。	20K274	HQ330	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町102-14	11/2～12/4	GL-0.8mまで盛上。	20K382	HQ362	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町102-13	11/2～12/4	GL-0.7mまで盛上。	20K381	HQ361	1
豊楽院跡、史跡平安宮跡(内裏跡、 朝堂院跡・豊楽院跡)、 風端遺跡	中・聚楽廻西町86-1	11/6	平安の瓦を多数採集。本報告6ページ。	02N071	HQ377	1
朝堂院跡、 聚楽第跡	上・聚楽町863-20	8/3	GL-0.3mまで盛上。	20K091	HQ203	1

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町14-1、聚楽廻中町 49-1.49-10	7/30	GL-0.25mまで盛上。	20K205	HQ194	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町24-13、24-14、 24-15	11/10	GL-0.32～-0.37mで褐色硬泥粘質土(やや緩い)。	20K172	HQ389	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町16	5/27	GL-0.25mまで盛上。	19K751	HQ090	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	中・聚楽廻東町11	11/12	GL-0.3mまで盛上。	20K375	HQ395	1
内舎人跡、 聚楽道跡	上・下立売通千本東入下人中務町 490-122の一部	8/7	GL-0.7mまで盛上。	20K092	HQ223	1
大膳職跡、 二条城北道跡	上・一丁目848-4～848-1地先	6/1・2・5	GL-0.48～-0.6mでにぶい黄褐色粘質土(粗砂混)。	20K135	HQ100	1
大膳職跡、 二条城北道跡	上・日暮通根木町下る北伊勢屋町 731	12/8	GL-1.44～-1.64mで黄色砂礫の地山。	20K376	HQ427	1
宮内省跡	上・竹屋町通千本東入上税町1242-1	7/13	GL-0.4mまで盛上。	20K215	HQ172	1
太政官跡、 聚楽道跡	上・千本通二条下る東入主税町1030	7/31、8/3	GL-0.64mで暗褐色泥砂(堅く締まる)・-0.76～ -0.91mで褐色粘質シルトの平安前期包含層(土師 器、緑釉陶器、瓦)。「京都市内遺跡試掘調査報 告令和2年度」に報告。	20K118	HQ197	1
御井跡	中・西ノ京車坂町14-27の一部	4/24	GL-0.2mまで盛上。	19K794	HQ039	1
御井跡	中・西ノ京車坂町14-22	6/5	GL-0.24mまで盛上。	20K136	HQ115	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町地内	5/29	GL-0.4mまで盛上。	20K045	HQ096	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町34	11/9	GL-0.6mまで盛上。	20K399	HQ384	1
判事跡	中・西ノ京内畑町13-19	10/13	GL-0.5mまで盛上。	20K344	HQ328	1

平安京左京(HL)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊十 三町跡、 烏丸丸太町道跡、 公家町道跡	上・京都御苑3	9/25	№1：GL-0.27mで灰黄褐色泥砂、-0.63mで褐 色泥砂の近世包含層(土師器)・-0.82～-0.88mで にぶい黄褐色泥砂(堅く締まる)の近世包含層(備前 陶器)。№2：GL-0.41mで黒褐色泥砂、-0.56m でにぶい黄褐色泥砂(堅く締まる)・-0.61mで褐 色泥砂(焼土含)の近世包含層(瓦)・-0.6～-0.93m で暗灰色泥砂の近世包含層(備前陶器)。	20H077	HL300	3
二条二坊十五 町跡、高閣院跡	中・小川通丸太町下る中元町74	4/13・14	GL-1.93mまで盛上。	20H020	HL019	2
二条三坊三町跡	中・釜座通竹屋町下る亀屋町337	12/8・25	№1：GL-0.66～-0.79mでにぶい黄褐色シルト の時期不明整地層。№2：GL-0.42mで黄灰色粗 砂、-0.51mでにぶい黄褐色泥砂、-0.72～-0.92m で灰黄褐色砂礫。	20H488	HL425	3
二条三坊九町跡、 烏丸丸太町道跡	中・丸太町通室町東入常貴横町 188-1	8/31、9/1	№1：GL-1.66mで暗褐色泥砂の時期不明包含層 を切って景石(高さ0.25m、幅0.6m)・-1.73mで 灰黄褐色シルト(堅く締まる)の功町包含層。№2： GL-1.85～-2.01mでにぶい黄褐色シルトの地山。	20H066	HL257	3
二条四坊四町跡、 烏丸丸太町道跡	中・二条通高倉西入松屋町60-1	5/7・11	GL-1.21mで暗オリーブ色泥砂(固く締まる)の近 世整地層、-1.32～-1.44mでオリーブ色砂礫 の近世混雑状堆積。	19H770	HL056	3
三条一坊一町跡	中・西ノ京式部町55、56の一部	11/4	GL-0.8mまで盛上。	20H260	HL363	2
三条一坊二町跡	中・西ノ京北堀町68-5	10/12	GL-0.5mまで盛上。	20H373	HL323	2
三条一坊 八・十町跡	中・押小路通西ノ京北堀町～押小路 通下る西ノ京職町地先	6/9～30、 7/1～17	GL-1.16～-1.42mで黄褐色泥砂(粗砂混)の近世 包含層。	20H153	HL122	2
三条二坊九・十六 町跡、妙顕寺城 跡、堀川御池道跡	中・押小路通堀川東入押小路町～押小 路通小川東入押小路町地先	10/15～28、 11/27、12/3	GL-1.4mまで盛上。	20H431	HL332	2
三条三坊九町跡、 二条御池城跡	中・室町通二条下る蛸薬師町287	8/6・11	GL-1.3mで淡黄色砂礫、-1.4～-1.7mで浅黄色泥 砂。	20H085	HL221	3

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
三条四坊二町跡、 烏丸御池道跡	中・東部交通御小路下る船場町420、 御池通高倉西入高宮町194、間之町 通御小路下る高田町510-2	5/27、6/26	№1：GL-1.24mでオリブ褐色粘質土(粗砂泥) の時期不明包含層、-1.46mで黄褐色粘質土の時 期不明包含層、-1.62～-1.91mで黄灰色粘質土。 №2：GL-2.35mで灰黄褐色砂礫の地山、-3.08～ -3.85mで明黄褐色砂礫の地山。	19H774	HL 091	3
三条四坊五町跡、 烏丸御池道跡	中・高倉通御小路下る東片町618	6/16・17・ 18・19・23	中世の上坊などを検出。本報告12ページ。	19H831	HL 128	3
三条四坊五町跡、 烏丸御池道跡	中・笹屋町他	10/12・13	GL-0.8mまで盛上。	19H557	HL 321	3
三条四坊十四町跡	中・御池通御幸町下る大文字町 351-1、2	5/1	GL-1.38mまで盛上。	19H732	HL 049	3
三条四坊十五町跡	中・狸小路通御幸町西入橋町612	9/28・30、 10/2・6	№1：GL-1.52mで黒色泥砂の時期不明包含層 (土師器、白磁)、-1.62mでオリブ褐色泥砂(鉄 分の窒灰包含層(土師器)、-2.09mで暗灰黄色 泥砂の平安末期包含層(土師器)、-2.43～-2.53m で灰オリブ色泥砂。№2：GL-0.95mで黄褐色 粗砂、-1.18mで褐灰色粗砂、-1.38mで灰黄褐色 泥砂の平安中期～近世包含層(土師器皿、染付皿、 平瓦)、-1.57mで灰黄褐色泥砂(確認)、この層は 南へ下る)の平安包含層(土師器、須恵器瓶子)、 -1.78mでふい黄褐色シルト、-1.94～-2.14m で黄褐色粗砂の地山。	20H173	HL 303	3
四条二坊七町跡	中・遊屋町 地内	11/19	GL-1.4mまで盛上。	20H404	HL 398	4
四条二坊十五町 跡、本能寺城跡	中・油小路通六角下る六角油小路町 343-1、343-2	5/18・22	GL-1.29～-1.49mで黄褐色粘土質シルトの地山 を切って黒褐色礫混シルトの平安後期土坑2基 (土師器皿)。試掘後の補充調査。	19H517	HL 076	4
四条三坊五町跡、 烏丸綾小路道跡	中・菊水許町 地内	7/7、12/4	GL-1.0mまで盛上。	20H150	HL 162	5
四条三坊五町跡、 烏丸綾小路道跡	中・観音堂町 地内	10/12	GL-0.6mまで盛上。	20H403	HL 324	5
四条三坊六町跡	中・室町通船場跡下る山伏山町553	10/12	GL-0.7mまで盛上。	19H806	HL 322	5
四条四坊十四町 跡、寺町旧城	中・新京極通船場跡下る東御町 地 内	9/28・30	巡回時掘削終了。	19H605	HL 302	5
四条四坊十四町跡	中・船屋町151	10/20	GL-0.9mで暗褐色粘土質シルト、-1.2～-2.4mで 暗褐色粘土質シルト。	20H210	HL 341	5
五条一坊四町跡	中・壬生辻町49-1・2、50他	12/10	GL-0.7mまで盛上。	20H192	HL 432	4
五 条 二 坊 十 二 町 跡、 烏丸綾小路道跡	下・松原通油小路西入橋町26-1他、 東堀川通高辻下る五軒町385他	12/9	GL-2.44～-2.89mで明黄褐色砂礫。	20H364	HL 430	4
五条四坊二町跡、 烏丸綾小路道跡	下・東洞院通純小路下る扇酒屋町 276-1	7/13	GL-0.6mまで盛上。	20H219	HL 173	5
五条四坊五町跡	下・明町通高辻下る夕陽町493-1、 493-2	9/7	GL-0.77mまで盛上。	19H523	HL 271	5
五条四坊六町跡	下・柳馬場通仏光寺下る万里小路町 177	7/27・29	GL-0.73mで暗灰黄色砂質土(礫噴含)、-1.06mで にふい黄色砂質土(礫多量含)、-1.45mで黄褐色 砂質土(砂礫多量含)。	20H194	HL 185	5
五条四坊八町跡、 烏丸綾小路道跡	下・高材木町214-1の一部、214-2	7/16	GL-0.28mまで盛上。	20H182	HL 179	5
六条一坊六町跡	下・中堂寺壬生町7-8、7-9、7-18、 7-26	8/11	GL-1.7mまで盛上。	20H141	HL 228	4
六条一坊十五町跡	下・大宮通松原下る西側下五架町431	10/2	GL-0.54mまで盛上。	20H409	HL 312	4
六条二坊三町跡	下・大宮通五架下る東側南門前町 486	4/10	GL-2.1mまで盛上。	19H624	HL 016	4
六 条 二 坊 十 三 町 跡、 烏丸綾小路道跡	下・東中筋通六条上る天使交辻四丁 目461-3、461-4、461-5	6/5	GL-0.56mまで盛上。	19H817	HL 112	4
六条三坊一町跡、 烏丸綾小路道跡	下・松原通西洞院東入蔵下町6	7/2・10・ 16、8/7	№1：GL-1.05～-2.04mで明黄褐色砂礫の地山。 №4：GL-0.96mで明黄褐色泥砂、-1.02mで灰 黄褐色泥砂、-1.15～-1.23mで褐灰色砂泥の室 町包含層(土師器皿)。	20H133	HL 154	5

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六 条 三 坊 十 六 町 跡、 烏丸綾小路遺跡	下・烏丸通松原下五条烏丸町 404-2,不明門通松原下吉水町 456他	6/29	試掘調査後、発掘調査のための地下横造物の範囲確認の調査。	19H525	HL 144	5
六条四坊八町跡	下・忠実町301	4/1, 5/15・ 18	GL-0.4～-0.5mでぶい黄褐色礫混シルトの近世～近代成土層。	19H823	HL 001	5
六条四坊八町跡	下・明洞通松原下る観音池町248-1	11/25・26	GL-0.85mまで盛上。	20H487	HL 408	5
六条四坊十五町跡	下・御幸町通五条上る安土町646-5, 646-6, 聖田町604	4/10～27, 5/14～26	GL-0.78mで黒褐色粘質土の近世包含層。-1.69mで明黄褐色砂礫の地山を切って灰黄褐色砂礫の中世土坑(土師器、焼締陶器)。	19H691	HL 017	5
七 条 一 坊 一・八 町 跡	下・西新屋敷中之町111	8/5・11	GL-0.66mで黒褐色砂礫と灰黄褐色砂礫の旧耕作土。-0.99mで灰黄褐色砂礫の中世包含層。-1.12～-1.22mでぶい黄褐色砂礫の地山。	20H212	HL 217	6
七条二坊十四町跡	下・正面通西院院西入植松町344-1他	10/27	GL-1.12mで暗灰黄色砂礫(礫含)の時期不明包含層。-1.40mで灰黄色粗砂。-1.60mで浅黄色微砂。-1.75mで黄灰色砂礫。-2.09～-2.26mで明黄褐色砂礫。	20H353	HL 352	6
七条二坊十五町跡	下・西洞院通花屋町下る西洞院町466他	8/5	GL-0.4mまで盛上。	20H147	HL 218	6
七条二坊十六町跡	下・油小路通六条下る西若松町249の一部, 東中筋通六条下る字林町290-1	10/15	GL-0.68mでぶい黄褐色砂礫(小礫混)。-0.94mで灰黄褐色砂礫の江戸包含層(土師器面)。-1.12～-1.27mで黒褐色シルトの室町後期包含層(土師器)。	19H696	HL 337	6
七条三坊五町跡, 東本願寺前古基群	下・七条通新町東入西境町154, 156-2	11/24	GL-1.0mまで盛上。	20H362	HL 403	7
七条四坊四町跡	下・東洞院通七条東入材木町499	10/19・22	GL-2.2mまで盛上。	20H030	HL 339	7
七条四坊八町跡	下・六条通高倉東入骨屋町54-3	7/27・29	GL-2.04～-2.85mで浅黄色砂礫の地山。	20H170	HL 184	7
七条四坊十町跡, 御上屋跡	下・上手町通正面上る源田町364-1, 364-2, 364-3	4/6	GL-0.45mまで盛上。	19H716	HL 006	7
七条四坊十二町跡	下・納屋町415	8/5	掘削時掘削終了。	20H102	HL 219	7
七条四坊十四町跡	下・上二之宮町396, 418-20	11/24	GL-0.75mまで盛上。	20H455	HL 404	7
七条四坊十六町跡	下・加茂川筋六軒下る波止上濃町362-2, 362-3, 加茂川筋六軒下る八ツ柳町353-1, 353-2, 353-3, 356-8	10/23	GL-0.84mで褐色粘質土。-1.31～-1.66mで黄褐色砂礫の近世氾濫堆積。	20H319	HL 347	7
八条二坊三町跡	下・大宮通八条上る三丁目東側堀内町248(下京中学校桜広グラウンド)	5/14, 6/5	№1: GL-0.41～-0.5mで暗オリーブ褐色砂礫の近世包含層。	19H686	HL 069	6
八条二坊六町跡	下・梅小路通猪熊東入南夷町180-1他	9/1	GL-0.43mで暗灰黄色砂礫の時期不明包含層。-0.75～-0.8mで黄灰色砂礫の時期不明包含層。	20H130	HL 261	6
八条二坊十町跡	下・油小路通木津屋橋下る北不動堂町490-2	11/9	GL-2.4mまで盛上。	20H371	HL 383	6
八条二坊十三町跡	南・西九条北ノ内町42他	10/1・8	GL-1.37mまで盛上。	20H272	HL 311	6
八条二坊十五町跡	下・油小路通木津屋橋下る北不動堂町522, 522-14, 522-7	8/28・31, 9/1・2・3・ 4・8・9・ 11・14	№2: GL-1.1mで黒褐色砂礫。-1.38mでオリーブ褐色粗砂。-1.5～-1.74mで暗灰黄色砂礫の地山を切って暗褐色砂礫の鎌倉ピット(土師器)。 №3: GL-0.95mで黒褐色粘土。-1.15mで黄灰色砂礫(小礫混)の鎌倉包含層(土師器, 須恵器)。 -1.27mで浅黄色粗砂の地山。-1.35mで黄灰色砂礫の地山。-1.72～-2.66mで灰白色粗砂の地山。 №4: GL-0.7mで暗灰黄色砂礫の鎌倉包含層(土師器, 焼締陶器)。-1.11～-1.59mで浅黄色砂礫の地山を切って黄灰色砂礫の鎌倉土坑(土師器, 焼締陶器)。 №5: GL-0.72mでぶい褐色砂礫。-0.93mで褐色砂礫の近世包含層(青磁)。 -1.07mで灰褐色砂礫の鎌倉包含層(土師器, 青磁, 焼締陶器)。 -1.27mで灰黄褐色砂礫の地山。-1.5～-2.4mで浅黄色砂礫の地山。 №6: GL-0.7mで黒褐色礫混シルト(灰混)の室町包含層(土師器)。 0.92mで暗褐色礫混シルトの時期不明包含層(土師器)を切って黒褐色礫混シルトの鎌倉溝状遺構(土師器, 須恵器, 白磁, 青磁)。 -1.18～-1.98mで褐色砂礫の地山。	19H275	HL 255	6

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
八 条 四 坊 六・七 町 跡 九条一坊九町跡、 教王護国寺旧境内 (東 寺 旧 境 内)	下・高倉通堀小路下之上之町～河原 町通堀小路下下之町 地先 南・壬生通八条下東寺町547-1・ 2・3	4/27、5/1・ 7・13 5/1、6/22・ 23	GL-1.0～-1.3mで浅黄色砂礫。 No 1 : GL-0.64mで褐色色粗砂の地山を切って褐 灰色シルト(灰黄褐色細砂ブロック跡)の空町土坑。 -0.79mで黒褐色粘土の地山、-0.94mで灰黄褐色 細砂の地山。No 2 : GL-0.6mで暗灰色粗砂の浪 路堆積を切って黒褐色泥砂、-0.84mで暗オリ ブ褐色粘質土の地山を切ってオリブ褐色泥砂と 炭屑と黒褐色泥砂の互層の空町落込(土師器面)。 -0.97～-1.02mで赤い黄褐色細砂～粗砂の地山。	20H049	HL 040	7
九条一坊九町跡、 教王護国寺旧境内 (東 寺 旧 境 内)	南・八条通大宮西八条町429-3	6/22	GL-0.13mで暗褐色粘質土、-0.29mで黒褐色泥砂 の時期不明包含層、-0.39～-0.5mで褐色色砂礫。	20H063	HL 137	6
九条一坊十町跡、 教王護国寺旧境内 (東 寺 旧 境 内)	南・東寺町 地先	12/14	GL-0.12mまで盛上。	20H438	HL 442	6
九条一坊十町跡、 史 跡 教 王 護 国 寺 境 内	南・大宮通八条下九条町399	8/3・25	GL-0.19～-0.42mで褐色泥砂(黄土跡)の近世包含 層。	02N018	HL 210	6
九条二坊十四町 跡、烏丸町道跡	南・西九条春日町49	8/11	GL-0.5～-0.76mで黒褐色シルト。	20H068	HL 227	6
九条三坊五町跡、 烏丸町道跡	南・東九条下殿田町37	7/15	GL-0.44～-0.56mで灰色シルトの旧耕作上。	20H216	HL 176	7
九条三坊十三町 跡、烏丸町道跡	南・東九条烏丸町39-1、39-3	12/1・2・ 7・8	GL-0.37mで黄色泥砂の時期不明包含層、-0.75m で灰黄色微砂の泥濘状堆積、-1.14～-1.73mで灰 白色粗砂の泥濘状堆積。	20H457	HL 416	7
九条三坊十四町 跡、烏丸町道跡	南・東九条北烏丸町38-3	6/17・18・ 19	鎌倉～室町の遺構群を検出。本報告15ページ。	20H061	HL 131	7

平安京右京(HR)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡	北・大将軍西町2-2	7/7	GL-0.89～-1.15mで赤い黄褐色泥砂。	20H090	HR 165	9
一条二坊九町跡、 御 土 居 跡	北・大将軍東邊の町190-1、190-2 の各一部	7/22	GL-0.4mまで盛上。	20H076	HR 183	9
一条二坊十四町 跡、御土居跡	中・西ノ京中保町 地先	10/5	GL-0.68mまで盛上。	20H290	HR 313	9
一条二坊十六町跡	北・大杉軍東邊の町109-1、110の一部	10/21・22	GL-1.3mまで盛上。令和元年発掘調査調査地点。	20H328	HR 344	9
一条三坊六町跡	中・西ノ京伯耆町4-3	11/25・26	GL-0.4mまで盛上。	20H453	HR 409	8
一条四坊十一町・ 十三・十四町跡、 法金剛院境内	右・花園(伊)～花園寺ノ前 地内	5/15～10/1	GL-0.85～-0.9mで黒褐色泥砂。	19H822	HR 073	8
二条二坊十六町 跡、西ノ京道跡、 御 土 居 跡	中・西ノ京南門町21	5/8	GL-0.73mで灰黄褐色粘質土の時期不明包含層(土 師器、須恵器、不明土製品)、-1.0mで暗灰色 泥礫シルトの地山を切って灰白色砂礫混シルト (土層構築上か)、-1.2mで灰オリブ色シルトの 地山、-1.0mで暗灰黄色泥礫シルトの地山、 -1.87～-2.1mで灰白色細砂礫の地山。	19H441	HR 057	9
二条三坊二町跡、 西ノ京道跡	中・西ノ京中御門西町～西ノ京中御 門東町 地先	5/18～21、 6/1～24、 7/1～28、 8/12・19	No 2 : GL-0.7mで灰黄褐色粘質土、-1.05mで灰 黄褐色粗砂、-1.18mで黄褐色細砂、-1.38mで黄 灰色粘質土、-1.68～-1.84mで黄褐色細砂の地 山。No 4 : GL-0.4mで赤い黄褐色粘質土の近 世包含層、-0.75～-0.9mで灰褐色粘質土の時期 不明包含層。	20H057	HR 078	8
二条三坊二町跡、 西ノ京道跡	中・西ノ京中御門西町102、103	7/2	GL-0.59mで黒褐色粘質土の地山、-1.01～-1.69m で明黄褐色砂礫の地山。	20H074	HR 155	8

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊二町跡	中・西ノ京副野町43-1, 43-2, 44	9/18・23	GL-0.31mでにぶい黄褐色シルト、-0.39mでにぶい黄褐色シルトの窒灰包層(土師器)、-0.56mで明黄褐色シルトの地山、-0.85mで暗黄褐色粗砂の地山、-1.26~-1.53mで黄褐色砂礫の地山。	20H279	HR292	9
三条二坊三町跡	中・西ノ京樋白町39-1, 39-2	6/3	GL-0.58mで灰黄褐色粘質土、-0.71mで灰黄褐色粘質土の時期不明包層、-0.92mで褐色粘質土の地山、-1.12mで灰色粘質土の地山、-1.46mで灰色微砂の地山、-1.67mで明黄褐色粘質土の地山、-1.81mで灰白色粘質土の地山。	19H797	HR106	9
三条二坊八町跡、 西ノ京道跡、 御土居跡	中・西ノ京原町13	10/5	GL-0.79mで灰色粘土、-1.15mで灰白色粘土。	20H332	HR314	9
三条二坊十四町跡、 西ノ京道跡	中・西ノ京下合町2の一部	10/29	GL-0.29mまで盛上。	20H368	HR356	9
四条二坊十四町跡	右・西院西今田町20-4, 20-5	6/29・30、 7/1・2・3	平安前期～後期の溝、柱穴、土坑群を抽出。 本報告21ページ。	20H113	HR145	11
四条三坊三町跡	右・西院春日町3-1他	8/7, 9/28・ 30, 10/1	GL-0.6~-0.73mで灰黄褐色シルトの時期不明包層(白磁)。	19H777	HR224	10
五条二坊九町跡	右・西院三蔵町20の一部, 21-4	4/8・9・17	№1: GL-0.71mで灰黄褐色泥砂の近世包層、-1.05mで黒褐色シルトにぶい黄色シルトブロック状の時期不明包層(土師器、瓦)、-1.18mで黒褐色泥砂の時期不明包層(土師器、瓦)、-1.21~-1.99mでにぶい黄色シルトの地山。№2: GL-0.36mで黒褐色粘質土の時期不明包層(土師器)、-0.51mで黄褐色粘土質シルトの土壌化層、-0.61~-2.49mでにぶい黄色微砂混シルトの地山。№3: GL-0.56mで灰褐色泥砂、-0.61mでにぶい褐色泥砂、-0.65mでにぶい褐色泥砂、-0.7mで褐色シルトの時期不明包層、-0.85mで浅黄褐色シルトの地山、-1.47mで灰白色シルトの地山、-1.67~-2.82mで黄褐色シルトの地山。	19H581	HR010	11
五条二坊九町跡	右・西院高山寺町6の一部	10/8・12・ 29	№1: GL-0.33mで褐色粘質土の地山を切ってにぶい黄褐色粘質土の鎌倉ピット(土師器)、-0.5~-0.6mで黄褐色粘質土の地山。№2: GL-0.36mで暗黄褐色粘質土を切って黒褐色シルトの鎌倉ピット(土師器)、-0.49~-0.78mで浅黄褐色粘土。№3: GL-0.41mで黒褐色砂泥、-0.47mでオリープ褐色シルトの地山を切って黒褐色砂泥の時期不明ピット、-0.61~-0.97mでにぶい黄色シルトの地山。	20H233	HR318	11
五条二坊十八町跡	右・西院貫町2-2, 3-3	9/7・11・ 15・23	GL-0.91mで黒褐色泥砂の時期不明包層(土師器、丸瓦)、-1.02mで暗褐色泥砂、-1.15~-1.4mで灰黄色細砂シルトの地山。	20H201	HR272	11
五条三坊二町跡	右・西院北矢掛町9-1	4/27	GL-0.93~-1.09mで明褐色砂礫。	19H809	HR041	10
五条三坊三町跡、 西院道跡	右・西院矢掛町～西院北矢掛町地先	5/18～29、 6/2～24	№2: GL-1.32~-1.67mで明褐色粘質土。№3: GL-0.6mで黒色シルト。	20H099	HR079	10・ 11
五条三坊十町跡	右・西院久田町19	12/17・21	GL-1.12~-1.57mで明黄褐色シルトの地山。	19H826	HR452	10
六条一坊六町跡	下・中堂寺南町106	10/19・21・ 22・26	№1: GL-1.05~-1.37mで暗褐色シルトの近世包層。№2: GL-1.24mで灰黄褐色粘質土、-1.41~-2.06mで黄褐色泥砂(礫多量混)の地山。	20H254	HR340	11
六条一坊十一・十四町跡	下・中堂寺架田町地先	7/27	GL-1.3mまで盛上。	20H240	HR186	11
六条一坊十五町跡	下・中堂寺庄ノ内町46-1	4/1・6	GL-0.54mで褐色粘土の旧耕作土、-0.7mで灰色砂礫、-0.88mで灰オリープ色砂泥の地山、-1.07mで灰白色粗砂の地山、-1.34~-1.76mでオリープ黄色細砂の地山。	19H681	HR002	11
六条二坊三町跡	下・西七条東御前田町24-1他6筆、 西七条赤土町20-1他8筆(7号地)	4/14	GL-0.5mまで盛上。	19H796	HR025	11
六条二坊九町跡、 西院道跡	右・西院高田町10-2	4/28	GL-0.45mまで盛上。	20H028	HR046	11

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条三坊一・二町跡, 西院道跡	右・西院寺町 地先	4/14~28, 5/8・18	GL-1.17~-1.3mで明黄褐色粗砂の地山。	20H024	HR023	10・11
六条三坊十二町跡	右・西院西崎崎町27, 31	5/11・12	GL-0.46mで黒褐色泥砂, -0.9mで暗灰色シルト, -1.0~-1.1mで黒褐色粘土。	20H075	HR059	10
六条四坊十一町跡	右・西京橋東大丸町8	5/27	GL-0.34mまで盛上。	19H486	HR092	10
七条二坊七町跡, 西市跡, 衣田町道跡	下・西七条西石ヶ坪町71, 72, 73・2	8/24・26・27	中世の七条坊門小路北側溝と七条坊門小路北側内溝, 発生後期のビットと土坑群を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度』に報告。	19H531	HR243	13
七条四坊五町跡	右・西京橋東町12.2	11/2	GL-0.55mまで盛上。	20H366	HR364	12
七条四坊十三町跡	右・西京橋西川町14.8	9/16・18・23	GL-0.78mで黄褐色泥砂の粗耕作土, -0.89~-0.99mでふい・黄褐色砂泥。	20H296	HR290	12
七条四坊十四町跡	右・西京橋西川町63-1	12/4	GL-0.4mまで盛上。	20H499	HR420	12
七条四坊十六町跡	右・西京橋堤町18	5/13	GL-0.95mまで盛上。	20H032	HR065	12
七条四坊十六町跡	右・西京橋堤町19-1, 19-2	11/9	GL-2.1mまで盛上。	20H211	HR380	12
八条一坊九町跡	下・西七条南東野町22-1	5/13~21	平安の七条大路南側溝を検出。本報告25ページ。	19H771	HR068	13
八条二坊十六町跡, 衣田町道跡	下・西七条南月談町104, 107-2の下部, 107-3の一部	8/7	GL-0.13mでふい・黄褐色泥砂, 0.27mで暗褐色泥砂, -0.39mで灰褐色シルトの地山, -0.55~-0.76mで灰黄褐色泥砂の地山。	20H174	HR225	13
八条三坊十町跡	右・西京橋下沢町~下・七条御所ノ内西町 地先	6/2・5・12・24・26	№2: GL-0.76mで明黄褐色粗砂, -1.02mで暗灰色砂泥, -1.10~-1.22mで黄褐色細砂。 №4: GL-0.6mで黒褐色粘質土, -0.64~-0.84mで褐色粘質土。	20H114	HR104	12
九条一坊四町跡	南・唐橋高田町36-2, 36-3	4/21, 5/18・27, 6/2・11	GL-0.27mで黄褐色シルトの地山を切って暗褐色シルトの時期不明南北溝(朱雀大路西築地内溝の可能性)。-0.53mでふい・黄褐色砂泥の地山, -1.14~-2.64mで灰黄褐色砂泥の地山。	19H154	HR035	13
九条二坊三・四町跡, 唐橋道跡	南・御前通, 東寺西門通~九条通 地内	7/13~11/30	GL-0.4mで黄灰色砂泥の平安倉倉(土師器), -0.9~-1.35mで黄灰色砂泥。	20H103	HR174	13
九条二坊三・四町跡, 史跡西寺跡, 唐橋道跡	南・唐橋西寺町 地先	7/16~27, 8/12~19, 9/8~29	GL-0.36mで粗耕作土, 0.6mで暗灰色泥砂, -0.86mで黄褐色粗砂~砂泥, -1.2~-1.5mでオリブ褐色粗砂。	02C014	HR196	13
九条二坊四町跡, 唐橋道跡	南・唐橋大宮尻町22	12/21	GL-0.3mで褐色泥砂(深淵)の地山を切って褐色泥砂(種多量)の時期不明ビット4基, -0.63~-0.7mで黒褐色泥砂(深淵)の地山。	17H809	HR457	13
九条二坊六町跡, 唐橋道跡	南・唐橋平短町 地先	5/11・12・15・20・21・22・25	№5: GL-1.3mで灰色細砂, -1.4mで黄褐色粗砂, -1.48mで黄褐色細砂(固く締まり路面の可能性, 推定九条坊門小路, -1.68~-1.85mで灰色粗砂~砂泥, №6: GL-0.85mで灰黄褐色粗砂泥シルト, -1.05mで褐色細砂混シルト, -1.18~-1.25mで灰黄褐色砂泥の地山。	19H756	HR058	13
九条二坊十町跡	下・唐橋高領町1-2	9/30, 10/2	GL-0.79mで灰黄褐色粘質土の室町段地状堆積土師器, -1.1mで褐色細砂の地山, -1.28mで明黄褐色細砂の地山, -1.58~-2.46mでふい・黄褐色砂泥の地山。	18H850	HR308	13
九条三坊七町跡	南・吉祥院西ノ庄瀬ノ西町30の一部(地番)	8/19・21	GL-0.31mでオリブ褐色粗砂混シルト, -0.43mで黄灰色砂泥, -0.58mで黄褐色シルトの地山, -0.79~-1.66mでオリブ褐色砂泥の地山。	20H177	HR239	12

太秦地区(UZ)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
経 横 道 跡	右・経横釈堂塚ノ木町1, 1-10	7/29	GL-0.25~-0.37mで明黄褐色粘質土。	20S193	UZ191	24-1
経 横 道 跡	右・経横中通町6-7	9/14・15	GL-0.25~-0.39mで褐色粗砂混シルトの地山。	20S213	UZ282	24-1
仁和寺院家跡内	右・宇多野北ノ院町~御室内地内	5/7~25, 6/3~26	GL-0.2mで黄褐色粗砂~シルトの地山, -0.4~-1.0mで明黄褐色砂泥の地山。	19S728	UZ054	21
仁和寺院家跡	右・宇多野福王子町 地先	8/4	巡回時掘削終了。	20S288	UZ214	21

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
仁和寺院家跡	右・花園土堂町～谷口圓成寺町地先	7/2・3・8・17・20・28, 8/4	№1: GL-0.2mで黒色シルトを切って暗灰黄色細砂の時期不明土坑、-0.36mで明黄褐色シルト～細砂の地山、-0.7～-1.5mで灰黄色粗砂～砂礫の地山。№3: GL-0.33mで明褐色泥砂、-0.45mで灰黄褐色泥砂の鎌倉包含層(土師器、須恵器跡、瓦)、-0.57mで黒褐色シルト、-0.66～-0.74mで明黄褐色シルトの地山。	20S203	UZ 156	21
壱滝藤ノ木町古墳	右・壱滝藤ノ木町6-50	11/24	GL-0.7mまで盛上。	20S270	UZ 407	21
壱滝藤ノ木町古墳	右・壱滝藤ノ木町6-13	8/25	GL-0.25mまで盛上。	20S269	UZ 247	21
壱滝藤ノ木町古墳	右・壱滝藤ノ木町6-12, 6-22	8/11	GL-0.22mでにぶい黄褐色泥砂、-0.38～-0.58mで暗褐色シルト。	20S268	UZ 230	21
壱滝藤ノ木町古墳	右・壱滝藤ノ木町6-3	8/11	GL-0.5mまで盛上。	20S267	UZ 229	21
村ノ内町道跡	右・常盤村ノ内町8-20	11/17・18	GL-0.6mまで盛上。	20S384	UZ 397	21
太秦馬塚町道跡	右・太秦乾町13-3, 13-4, 13-14, 13-15, 13-16	11/10	GL-0.91mで明黄褐色粘質土の地山、-1.23mで褐灰色砂礫の地山、-1.67mで橙色砂礫の地山、-2.6mでにぶい黄褐色粘質土の地山、-2.23～-2.93mで灰白色粘土の地山。	20S420	UZ 387	21
森ヶ東瓦窯跡	右・太秦和泉式部町6	10/15	GL-0.7mまで盛上。	20S395	UZ 333	21
森ヶ東瓦窯跡	右・太秦森ヶ東町18	10/26	巡回時報を終了。	19S616	UZ 349	21
森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町道跡、和泉式部塚跡	右・太秦和泉式部町7-2,7	6/18	GL-1.6mまで盛上。	20S122	UZ 132	21
一ノ井道跡	右・太秦森ヶ西町10, 12-2	11/12	GL-0.2mまで盛上。	20S198	UZ 391	21
上ノ段町道跡	右・嵯峨野神ノ木町5-4他	8/26	GL-0.25mまで盛上。	20S138	UZ 252	21
西野町道跡	右・嵯峨野秋街道町地先	8/7～26, 9/11～18, 10/1	№1: GL-0.58mで暗灰黄色粘質土、-0.7～-0.78mでオリブ褐色シルト。№3: GL-0.95～-1.45mで灰色シルト。	20S185	UZ 226	21
多敷町道跡	右・太秦多敷町47-30, 47-31	5/28	GL-0.37mで明黄褐色微砂、-0.52mで黄褐色砂礫(面砂礫)、-0.72mで褐色砂礫、-0.98mで暗褐色砂礫灰色の地山。	20S117	UZ 094	21
門田町道跡	右・太秦門田町7-4	11/9・10	GL-0.36～-0.52mで明黄褐色粘質土の地山を切って黒褐色粘質土、にぶい黄褐色粘質土、黄褐色粘質土の中世土坑(土師器)。	20S444	UZ 381	21
梅津坂本町道跡	右・嵯峨野芝野岡24-1の一部、25-1の一部、30-5, 43, 44-1の一部、62	4/20・21	GL-0.4mまで盛上。	19S772	UZ 033	21
梅津坂本町道跡	右・太秦袴田町11-1の一部他	7/21	GL-0.4mまで盛上。	20S098	UZ 182	21
南野古墳群	右・嵯峨広沢南下馬野町21-19	5/13	GL-0.5mまで盛上。	20S012	UZ 060	27-3
南野古墳群隣接地	右・嵯峨広沢南下馬野町23-7	6/8	GL-0.16mまで盛上。	20S023	UZ 120	27-3
梅津原町道跡	右・梅津原町地先	9/15～10/7	GL-0.4～-0.6mで褐色泥砂。	20S356	UZ 285	27-4
東衣手町道跡、郡風跡	右・西京極東衣手町56-1, 56-3, 14, 16	9/7・10・14・16	№3: GL-0.24mで黄褐色砂礫、-0.74mでにぶい黄褐色微砂の地山、-0.93～-1.15mでオリブ褐色微砂(径5cm大礫)の地山。№4: GL-0.28mで褐色泥砂(径5～10cm大礫)、-0.68～-1.18mでにぶい黄褐色泥砂(径5cm大礫少量混入)の近世包含層(土師器-近世、須恵器-古代)。	20S221	UZ 273	27-5

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
市史跡 貴布祿神社境内	左・鞍馬貴船町180	4/7	平安後期の整地層及び礎石を抽出。本報告36ページ。	20A002	RH 008	27-6
岩倉忠在地道跡	左・岩倉忠在地町323, 323-10, 323-11, 323-13他	4/14	GL-0.3mまで盛上。	20S002	RH 024	27-7
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉橋枝町628-20	11/11・17	GL-0.45mまで盛上。	20S463	RH 390	17-1
橋枝古墳群	左・岩倉橋枝町410	12/14	GL-0.4～-2.82mで淡黄色砂質土の地山。	20S536	RH 443	17-1
史跡 賀茂別當神社境内	北・上賀茂本山340	8/6	巡回時報を終了。	02C020	RH 222	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂北大路町4-1の一部	8/3	GL-0.3mまで盛上。	20S119	RH 204	25-1

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
植物園北道跡	北・上賀茂石計町73, 74-1	10/14	CL-0.46mで暗灰黄色シルト、-0.67~-0.81mで浅黄色シルトの地山。	205280	RH 331	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂乾田町2-2, 2-3	5/22	CL-0.5mまで盛上。	195735	RH 085	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂高橋手町67, 66-3	11/24	CL-0.5~0.9mで田耕作上。	205470	RH 406	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂桜井町109の一部	7/6・7・8	CL-0.91mで黄褐色シルトの時期不明包含層(土師器)。-0.99mでオレンジ褐色シルト、-1.14~-1.71mで黄褐色シルトの地山。	205036	RH 160	25-1
植物園北道跡	左・下鴨南茶ノ木町21-1, 21-7	4/16・24	CL-0.12mで黄褐色シルト、-0.21mで灰白色シルト、-0.43mで灰褐色砂泥、-0.64~-0.74mで黄褐色砂泥の地山。	195779	RH 028	25-1
植物園北道跡	左・下鴨北野々神町19-4, 19-5	6/8	GL-0.45mまで盛上。	195800	RH 117	25-1
覆懸ノ森瓦葺跡	北・西賀茂中川上町51-2	11/30	巡回時間終了。	205273	RH 413	28-1
御土居跡	北・紫竹上竹原町19-5	11/12	GL-0.3mまで盛上。	205421	RH 394	16-2
御土居跡	北・紫竹上竹原町地先	4/27~5/7	CL-0.45~-0.55mで黄色砂礫。	205048	RH 042	16-2
御土居跡	北・鷹家上ノ町1-1~衣笠鏡石町地先	11/9~25, 12/3~24	GL-0.4mで褐色粘質土の近世包含層。-0.6mで褐色粘質土の地山、-0.8~-1.0mで明褐色粘質土の地山。	205472	RH 378	16-1
御土居跡	北・鷹家上ノ町地先	12/4	CL-1.45mまで盛上。	205440	RH 421	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町地先	4/17	CL-0.7~-1.2mで暗褐色粘質土。	195804	RH 032	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町地先	10/16	CL-0.9mまで盛上。	205427	RH 338	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町97-1	4/6	CL-1.1mまで盛上。	195731	RH 007	16-3
特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金園寺)庭園	北・金園寺町1	10/01	放射性炭素年代測定の実験採集と分析。本報告32ページ。	20A006	RH 440	16-3
鹿苑寺旧境内(北殿)	北・衣笠馬場町12-1地先	9/2・3	CL-0.4~0.5mで褐色シルト。	205339	RH 262	16-3
北野廃寺	北・北野上白梅町地先	6/4	巡回時間終了。	205088	RH 110	16-3
北野道跡	北・北野上白梅町22, 23	6/16	GL-0.76mで黒色砂泥の時期不明包含層(土師器)。	205052	RH 129	16-3
北野廃寺	北・北野上白梅町75~北野下白梅町26地先	9/14・15	CL-0.6mまで盛上。	205354	RH 283	16-3
北野廃寺	北・北野上白梅町15-2の一部, 15-4の一部	11/26・27・30	№2: GL-0.50mで黄褐色砂礫の地山を切って黒色砂礫の時期不明上層。№3: GL-0.42mで黒褐色砂泥シルトの時期不明包含層。-0.81mで灰黄褐色砂泥シルトの地山。	205370	RH 411	16-3
北野廃寺, 北野道跡, 御土居跡	北・北野上白梅町79~上・今小路通御前西入坂屋川町1049地先	11/9・10	CL-1.3mまで盛上。	205432	RH 382	16-3
史跡船岡山	北・紫野北角町	11/5	CL-0.3mまで盛上。	02N014	RH 374	16-3
紫野斎院跡	上・大宮通寺之内上二丁目仲之町500-2	12/22	巡回時間終了。	205189	RH 461	16-3・17-3
世尊寺跡	上・鞍馬町303~西北小路町241-1地先	8/17~26, 9/1~17	CL-1.2~1.55mで黄褐色シルト(砂泥)の地山。	205246	RH 232	16-3
上京道跡	上・寺之内通大宮東人妙蓮寺前町337, 340-2	9/17	CL-0.5mまで盛上。	205263	RH 291	16-3・17-3
上京道跡	上・小川通上立売下る東人近衛院北口町208	12/21・22・23	CL-0.56mで黄褐色砂泥の室町包含層(土師器)。-0.77mで黒褐色シルトの時期不明包含層。-0.92~-1.18mで褐色シルトの地山。	205510	RH 399	17-3
上京道跡	上・室町通今出川上る築山北半町~新町通今出川上る元新在家町地先	7/27, 8/11・12・17・19・26, 9/1・2・4	№2: GL-0.48mで黒褐色砂泥の近世包含層。-0.84~-0.94mで黒褐色粘質土。№3: GL-0.4mで黒褐色砂泥(炭泥)の時期不明包含層。-0.5~-0.6mで暗褐色砂泥。	205257	RH 190	17-3
上京道跡	上・堀出町304, 304-4	11/5	GL-1.58mで暗褐色砂泥の中世包含層(土師器)。-1.8~-1.95mで黒褐色砂泥の中世包含層(土師器)。	205218	RH 371	17-3
上京道跡	上・東堀川通元智願寺上る村雲町408-1, 410	12/21	CL-1.6mまで盛上。	205496	RH 458	17-3
上京道跡	上・区梅屋町459	6/22	GL-0.4~0.5mで赤色粘質土(焼土, 炭多量含)の江戸末期焼土層。	205095	RH 138	17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・堀川通寺之内上る寺之内暨町708他	10/29、11/16・30	GL-1.45mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.78mでふい黄褐色泥砂の時期不明包含層、-1.95～-2.03mで明黄褐色シルト(礫跡)の地山、GL-1.01m～-2.44mまで明黄褐色砂礫の地山。	20S308	RH 357	17-3
上京遺跡、寺ノ内旧域	上・上立売通小川東入上る機木町532	12/10	GL-1.01m～-2.44mまで明黄褐色砂礫の地山。	20 S334	RH 433	17-3
上京遺跡、常盤井殿町遺跡	上・今出川通寺町西入三丁目常盤井殿町543	7/17・21・22・29、8/21・26、11/10	No 2 : GL-0.69mで暗褐色粗砂混シルト(礫、炭屑)、-0.87mで暗褐色粗砂混シルト(炭屑、炭屑)、-1.02～-1.1mで黒褐色粗砂混シルト。No 6 : GL-0.37～-0.52mでふい黄褐色泥砂の近世包含層(伏見人形)。No 8 : GL-0.23～-0.41mで時期不明南北方向石列。	20S227	RH 180	17-3
室町殿跡(花の御所)、上京遺跡	上・烏丸通上立売下る御所八幡町110-8、室町通今出川上る築山北半町215-4	6/15	GL-0.45mまで盛上。	20S115	RH 127	17-3
室町殿跡(花の御所)、上京遺跡	上・御所八幡町110-13、110-14、110-15	7/1・7・13・8/14	室町の庭園遺構の一部である景石を検出。発掘調査後の詳細分布調査。本報告44ページ。	19S334	RH 151	17-3
寺町旧域	上・寺町通今出川上る五丁目鶴山町5-6	8/27	GL-0.43mで褐色砂質シルト、-0.59mで暗褐色粘土質シルト(炭屑の江口以前包含層(土師器)、0.73～-0.79mで黄褐色粘土質シルトの地山。	20S050	RH 254	17-3
公家町遺跡	上・烏丸通今出川東入新北小路町地先	12/10・11	GL-0.2mでふい黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.4mでふい黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.48m明赤褐色砂泥の時期不明整上、-0.54m黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.64m明黄褐色粗砂の氾濫状堆積、-0.7～-0.82mで浅黄色砂礫の氾濫状堆積。	20S530	RH 434	17-3
公家町遺跡、相国寺旧境内	上・今出川通烏丸東入玄武町601	6/1・8	No 1 : GL-0.74～-0.99mで褐色泥砂(炭屑)の時期不明包含層。No 2 : GL-0.58mで黄褐色泥砂を切って灰オリーブ色泥砂(拳大礫、炭屑)とオリーブ褐色泥砂の近世土坑2基、0.84mで黒褐色泥砂(拳大礫少量含)、-1.08～-1.23mで灰オリーブ色砂礫の地山。	20S056	RH 099	17-3
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	8/19	GL-0.1mで明黄褐色砂泥(礫跡)を切って西参道路面整地層とその縁石、-0.22～-0.3mで明黄褐色砂泥の時期不明整地層。	01N110	RH 251	17-2
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59	7/1・3	室町の上坑を検出。本報告39ページ。	02N017	RH 152	17-2
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	左・下鴨泉川町59・61	4/27	GL-0.2mまで盛上。	01C156	RH 044	17-2

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺松田町遺跡	左・北泉通、大原通～白川通 地内	5/1～9/16	No 3 : GL-0.3mで青灰色泥砂と灰オリーブ色泥砂の旧耕作土、-0.45～-0.75mで浅黄色砂質上の地山。No 4 : GL-0.7～-1.1mでオリーブ褐色粗砂。	19S727	KS 053	28-2
北白川廃寺、上終町遺跡	左・北白川東瀬ノ内町25-1	7/10	GL-0.31mで黒褐色砂質上、-0.49～-0.58mで浅黄色粗砂の地山。発掘調査『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』に報告後の詳細分布調査。	19S476	KS 170	22
北白川通分町端遺跡、北白川通分町遺跡、追分町古墳群、吉田上大路町遺跡	左・北白川西町地先	11/20・25・26	GL-0.35～-0.9mで明黄褐色粗砂を切って黒褐色粗砂の時期不明土坑。	20S512	KS 400	22

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
吉田上大路町道 跡、吉田二本松町 道跡、吉田神社境 内、吉田山道跡、 神楽岡城跡	左・吉田上大路町～浄土寺下馬場町 地内	5/14～12/24	№2：GL-0.26mで暗褐色泥砂、-0.36～-0.44m でふい黄褐色シルト(炭屑)。№8：GL-0.2～ -0.8mで暗褐色砂の地山。№10：GL-0.6～-0.95m で黄色粗砂。	195678	KS 070	22
吉田上大路町 道跡、白河街区跡 聖護院川原町道跡	左・吉田近衛町26-53他	5/25	GL-0.34mで黒褐色泥砂の近世包含層、-1.44～ -1.64mで暗褐色泥砂の時期不明包含層。	18S777	KS 087	22
白河北殿跡、 白河街区跡	左・川端通、今出川通～丸太町道 地内	5/13～12/16	GL-1.8mまで盛上。	195768	KS 066	22
白河北殿跡、 白河街区跡	左・丸太町通川端東入丸太町41-8	11/9	GL-0.5mまで盛上。	20R374	KS 379	22
白河北殿跡、 白河街区跡	左・丸太町通川端東入丸太町27-7、 27	11/4	巡回時掘削終了。	20R013	KS 370	22
白河北殿跡、 白河街区跡	左・川端通丸太町下る東竹福町54-3	8/24	GL-0.25mまで盛上。	20R286	KS 244	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町44-3	4/15	石材の測植、写真などの記録作業。	19R760	KS 026	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町8-1の一部、 8-31の一部、27-7、26-2の一部	6/4	GL-0.56mまで盛上。	18R754	KS 113	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・川端より五筋東二条上る難波町 200-2	8/31	GL-0.38mまで盛上。	20R079	KS 258	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・川端より五筋東二条上る難波町 200-4	8/21	GL-0.35mまで盛上。	20R259	KS 241	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・聖護院蓮華蔵町31～8地先	11/10・18	GL-0.89mでふい黄褐色粗砂の地山。	20R478	KS 386	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・杉本町263-3	4/17	GL-0.3mまで盛上。	19R700	KS 030	22
白河南殿跡、 白河街区跡	左・二条通川端東入二丁目杉本町 269-2、269-6及び270-5	6/9	GL-0.46～-0.66mでふい黄褐色砂礫の近世包 含層。	19R818	KS 121	22
尊勝寺跡、 白河街区跡、 同崎道跡	左・冷泉通、川端通～疏水浜通地 内	7/20～12/2	GL-1.1～-1.6mで灰白色細砂～粗砂。	20R029	KS 181	22
尊勝寺跡、 白河街区跡、 同崎道跡	左・聖護院内順美町46-2(武道セ ンター敷地内)	10/15～ 12/15	GL-0.7mまで盛上。	19R807	KS 334	22
得長右院跡、 白河街区跡、 同崎道跡	左・同崎地成町15-3	4/3・6	GL-0.52～-0.76mでオリブ黒色泥砂の近世包 含層。	19R736	KS 005	22
尊勝寺跡、 白河街区跡	左・同崎最勝寺町95(京都会館東側 に隣接する同崎公園の芝生地)	6/3・17・ 29	GL-0.36mまで盛上。	20R058	KS 107	22
法勝寺跡、 白河街区跡、 同崎道跡	左・同崎南御所町～南禅寺下河原町 地先	5/7～7/28	№4：GL-1.08～-1.9mで黄褐色砂礫。№5： GL-1.04～-1.2mで暗灰黄色泥砂(粗砂礫)。	20R051	KS 055	22
白河街区跡	左・川端より六筋東夷川上る秋葉町 236-1	5/15	GL-1.79～-2.19mで明黄褐色細砂(礫混)の地山。	195769	KS 074	22
白河街区跡	左・川端より五筋東二条上る難波町 200-3の一部	5/27	GL-0.4mまで盛上。	20R055	KS 093	22
白河街区跡、 同崎道跡	左・聖護院山王町28-10	11/30	GL-0.5mまで盛上。盛上内から平安の土師器、 緑釉陶器。	20S451	KS 414	22
白河街区跡、 同崎道跡、 東光寺跡	左・同崎天王町地内	4/13	巡回時掘削終了。	19S451	KS 021	22
名勝無鄰庵庭園、 白河街区跡	左・南禅寺草月町31	7/15	ボーリング工事の掘削で上層断面未確認。	02N015	KS 177	22
法成寺跡	上・九軒町地内	11/12～12/2	GL-1.45mまで盛上。	20S312	KS 393	28-3
法成寺跡	上・河原町通広小路下る東桜町25-2	6/15	GL-0.74mまで盛上。	19S166	KS 125	28-3
法成寺跡、 御土屋跡	上・河原町通今出川下る北之辺町 395～河原町通広小路上る中御堂町 421地先	9/3・9・ 16・18・23	GL-0.25mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-0.58～ -1.3mでふい黄褐色砂礫。	20S323	KS 265	28-3

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No	図版
史跡青蓮院 旧飯所跡	東・粟田口三条坊町	6/29, 7/3	GL-0.3～-0.6mで褐色泥砂(礫)の地山。	02N019	RT 149	23
知恩院境内	東・新橋通大和大道東入林下町400, 400-11, 400-12, 401, 439-1	12/18・22	GL-0.32mで明黄褐色粘質土の近世以降整地層。 -0.35mで深い黄褐色粘質土の近世以降整地層。 -0.44mで褐色粘質土(細砂多量混)の近世以降整地層。 -0.52mで深い黄褐色粘質土の近世整地層(土師器、平瓦)。 -0.63～-1.2mで褐色粘質土の時期不明整地層。	20S377	RT 455	23
祇園遺跡	東・祇園町北瀬347-25～323地先	7/7～22	GL-0.25～-0.9mで暗灰黄色泥砂の中世包含層。	19S802	RT 163	23
名勝円山公園	東・祇園町北瀬, 円山町	8/3	巡回時掘削終了。	02N030	RT 209	23
名勝円山公園	東・祇園町北町	12/10	GL-0.32～-0.46mで褐色泥砂の近世包含層。	02N084	RT 435	23
御上居跡	下・河原町通松原上る二丁目富永町349-6, 349-7, 351-3	7/27	GL-3.23mまで盛上。	20S222	RT 189	23
法観寺境内	東・高台寺南門通東大路東入下弁天町～高台寺南門通下河原東入栴檀町地先	7/31, 8/6・7・11・18, 9/2	GL-0.84～-1.02mでオリブ褐色泥砂。	20S226	RT 198	23
六波羅政庁跡	東・大和大道通五条上る山崎町373, 373-5, 373-6	4/8・10	GL-1.9mまで盛上。	19S684	RT 012	23
六波羅政庁跡, 法住寺殿跡	東・本町五丁目762-2・7・8	4/23	GL-0.5mまで盛上。	19S810	RT 038	23
今村城跡, 法性寺跡	東・本町十一丁目～泉涌寺五葉ノ辻町地先	10/13～12/3	GL-0.2～-0.67mまで灰黄色砂泥の地山。	20S418	RT 329	25-2
法性寺跡	東・本町十七丁目335, 335-2	7/29	GL-1.78～-1.81mで浅黄色砂礫の地山。	20S197	RT 193	25-2
法性寺跡	東・本町十五丁目762-12	6/8	GL-0.23～-0.5mでオリブ褐色シルトの地山。	19S776	RT 119	25-2
法性寺跡	東・本町十九丁目425	9/15	GL-0.3mまで盛上。	20S293	RT 286	25-2
法性寺跡	東・今熊野南谷町地先	9/7・9・14・16	№3: GL-0.2mで黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層(土師器)。 -0.45～-0.8mに深い黄褐色粗砂混シルト。 №4: GL-0.53～-0.65mで深い黄褐色砂泥の地山。	20S331	RT 277	28-5
鳥部(辺)野	東・今熊野泉山町	10/12	GL-0.06mで明黄褐色粘質土の地山。 -0.8～-1.49mで灰白色粘土の地山。	20S379	RT 326	28-5
鳥部(辺)野, 本多山古墳群	東・今熊野南谷町地先	11/20・25, 12/2・3	GL-0.15～-0.85mで黄褐色岩盤の地山。	20S449	RT 401	28-5
如意寺跡, 西谷遺跡	山・御除安祥寺町安祥寺山固有林	6/12・17, 9/20	遺跡範囲外で平安前期の遺物を採集。本報告50ページ。	19S186	RT 130	28-4
日ノ岡堤谷 須惠器窯跡	山・日ノ岡堤谷74-21	4/13・14	GL-0.25～-1.14mで褐色粗砂～粘土の岩盤。	19S740	RT 022	28-6
安楽遺跡	山・安楽桃枝町9-2	10/30, 11/5	GL-0.75～-0.81mで灰オリブ色泥砂。	20S309	RT 359	28-7
四手井城跡	山・扇子奥矢倉町6-8, 6-14	7/13	№1: GL-0.25mで黒褐色粗砂混シルトの近世耕作土。 -0.39～-0.52mで暗灰黄色粗砂混シルト。 №2: GL-0.37～-0.55mでオリブ褐色砂礫の河川堆積。	20S168	RT 175	25-3
山科本願寺跡(寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡	山・西野山崎町30-1, 33-1, 34, 34-1, 35	12/2	GL-0.9mまで盛上。	02N063	RT 417	25-3
山科本願寺跡(寺内町遺跡), 史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南殿跡	山・西野山崎町30-1, 33-1, 34, 34-1, 35	5/1～29, 6/2～29, 7/17, 8/3・11, 9/8・30	史跡上界の断面を観察。本報告53ページ。	01N102	RT 052	25-3
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野山崎町18-12, 18-13	9/7	GL-0.38mで黄褐色砂泥。 -0.48～-0.6mで明黄褐色砂泥(炭合)の時期不明包含層。	20S229	RT 274	25-3
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野山崎町18-12	9/7	GL-0.6mまで盛上。	20S230	RT 275	25-3
山科本願寺南殿跡	山・音羽乙出町9-47	4/8・9・14	GL-0.4mまで盛上。	19S677	RT 011	28-8
山科本願寺南殿跡	山・音羽西林35地	8/3, 12/15	巡回時掘削終了。	20S041	RT 205	28-8
大宅廃寺, 大宅遺跡	山・大宅中小路町地先	10/26・27・29	GL-0.4mで深い黄褐色シルト。 -0.75～-0.9mで黒褐色シルト。	20S410	RT 350	29-1

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	国 庫
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-17	5/11	GL-0.15mまで盛上。	20N070	RT 061	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-25	5/20	GL-0.17mまで盛上。	20N106	RT 083	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-23	9/28	GL-0.2mまで盛上。	20N365	RT 304	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-24	6/18	GL-0.15mまで盛上。	20N139	RT 133	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-22	4/16	GL-0.15mまで盛上。	20N007	RT 029	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町 地先	11/25-27	GL-0.9mまで盛上。	20N338	RT 410	26-1
中 臣 道 跡	山・東野舞台町89-1-88-1 地先	12/15・16	GL-0.75～1.25mで黄褐色色砂礫混粘質土。	20N545	RT 449	26-1
中 臣 道 跡	山・榎辻番所ヶ口町31-2(10号地)	9/14	GL-0.2mまで盛上。	20N326	RT 284	26-1
中 臣 道 跡	山・榎辻番所ヶ口町31-7(9号地)	10/15	GL-0.2mまで盛上。	20N359	RT 335	26-1
中 臣 道 跡	山・榎辻番所ヶ口町31-6(8号地)	6/29	GL-0.22mまで盛上。	20N158	RT 146	26-1
中 臣 道 跡	山・榎辻番所ヶ口町31-5(7号地)	8/3	GL-0.2mまで盛上。	20N235	RT 188	26-1
中 臣 道 跡	山・榎辻番所ヶ口町31-3(6号地)	8/3	GL-0.2mまで盛上。	20N234	RT 187	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-20(5号地)	12/8	GL-0.4mまで盛上。	20N524	RT 426	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町 地内	4/13	GL-0.6mで黒褐色細砂混シルト(黄褐色微砂シルトブロック状、締りやや悪、0.94～1.09mで黄褐色微砂混シルトの地山)。	19N789	RT 020	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-19(4号地)	6/22・23	GL-0.24mまで盛上。	20N157	RT 141	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-18(3号地)	9/7	GL-0.3mまで盛上。	20N329	RT 276	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-17(2号地)	6/22	GL-0.25mまで盛上。	20N156	RT 140	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-10(1号地)	6/22	GL-0.25mまで盛上。	20N155	RT 139	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町～榎辻番所ヶ口町 地先	4/15	GL-0.8mまで盛上。	20N003	RT 027	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-16(12号地)	9/24	GL-0.28～0.41mで暗褐色シルト。	20N357	RT 298	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東栗原町77-15(11号地)	6/22	GL-0.15mまで盛上。	20N159	RT 142	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺西金ヶ崎 地先	5/1	GL-1.2mまで盛上。	19N825	RT 051	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺西金ヶ崎309、324-1の一部(2号地)	5/20	GL-0.21～0.4mで旧耕作土。	20N017	RT 082	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺西金ヶ崎309、324-1の一部(4号地)	5/14	GL-0.3mまで盛上。	20N018	RT 071	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺西金ヶ崎309、324-1の一部(5号地)	5/14	GL-0.35mまで盛上。	20N019	RT 072	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺西金ヶ崎309、324-1の一部(1号地)	5/20	GL-0.5mまで盛上。	20N016	RT 081	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58、59、60、61、62、81、82	4/9・10・14	養生後期の土坑、ビットを検出。本報告59ページ。	19N386	RT 015	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-1(1号地)	10/5	GL-0.1mまで盛上。	20N387	RT 315	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(2号地)	8/25	GL-0.27mまで盛上。	20N284	RT 248	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(3号地)	7/31	GL-0.38mまで盛上。	20N265	RT 200	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(4号地)	8/25	GL-0.2mまで盛上。	20N285	RT 249	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(5号地)	8/25	GL-0.2mまで盛上。	20N306	RT 250	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-6(6号地)	10/9～15	GL-0.6mまで盛上。	20N400	RT 319	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-7(7号地)	9/3	GL-0.34mまで盛上。	20N314	RT 266	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-8(8号地)	9/3	GL-0.36mまで盛上。	20N315	RT 267	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-9(9号地)	9/15	GL-0.5mまで盛上。	20N358	RT 288	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-17(17号地)	10/9	GL-0.12mまで盛上。	20N414	RT 320	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-16(16号地)	9/3	GL-0.22mまで盛上。	20N316	RT 268	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(15号地)	7/31	GL-0.22mまで盛上。	20N264	RT 199	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(14号地)	8/18	GL-0.1mまで盛上。	20N283	RT 238	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-12(12号地)	10/5	GL-0.2mまで盛上。	20N388	RT 316	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58-11(11号地)	12/16	GL-0.15mまで盛上。	20N509	RT 451	26-1
中 臣 道 跡	山・勧修寺東金ヶ崎町58他の一部(10号地)	9/15	GL-0.35mまで盛上。	20N335	RT 287	26-1

伏見・醍醐地区(FD)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
深草坊町道跡	伏・深草真宗院山町1-13(9号地)	5/11	GL-0.36mまで盛上。	20S033	FD 062	29-2
深草坊町道跡	伏・深草真宗院山町1-7, 深草坊町11-9(3号地)	11/6	GL-0.6mまで盛上。	20S475	FD 375	29-2
深草坊町道跡	伏・深草真宗院山町1-10(6号地)	4/22	GL-0.08～-0.38mで明黄褐色記砂。	20S034	FD 037	29-2
深草坊町道跡	伏・深草真宗院山町1-9(5号地)	9/2	GL-0.5mまで盛上。	20S341	FD 263	29-2
伏見城跡	伏・桃山殿上町～桃山水野左近町地先	7/8～20	GL-0.2mでぶい黄褐色砂記、-0.4mで褐色砂記、-0.65～-0.75mで褐色粘質土の地山。	20F200	FD 166	14
伏見城跡	伏・新町十二丁目314-1他	8/3・5	GL-1.03～-1.39mで灰色シルトの時期不明包含層。	20F188	FD 207	14
伏見城跡	伏・桃山長岡越中北町42-1	8/31	GL-0.48mまで盛上。	20F297	FD 260	14
伏見城跡	伏・桃山井伊賀東町46	8/5・7・12	GL-0.33mで褐色記砂の時期不明造成土、-0.55～-0.75mで灰黄褐色記砂。	20F196	FD 220	14
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町8-1	12/7・11	GL-0.4mでぶい黄褐色記砂、-0.68mで灰白色記砂の中世包含層、-0.85～-1.92mで黄褐色シルトの地山。	20F419	FD 424	14
伏見城跡	伏・桃山町三河57-6, 57-26の一部	9/23	GL-0.34mまで盛上。	20F307	FD 295	14
伏見城跡	伏・桃山町三河55-14, 56-13	4/20・24	GL-0.08～-0.21mで明褐色砂礫を切って灰黄褐色シルト(石、炭、明褐色砂礫ブロック状記)の近世土坑。	19F795	FD 034	14
伏見城跡	伏・桃山町三河55-14, 56-13	6/29	GL-0.26mまで盛上。	20F069	FD 147	14
伏見城跡	伏・肥後町362, 362-1	12/22	GL-0.59～-0.78mでぶい黄褐色記砂。	20F560	FD 459	14
伏見城跡	伏・片原町293-4, 西大手町333	8/4・7・12	№1: GL-1.66～-2.47mでオリーブ灰色シルトの混地状堆積。№2: GL-1.03～-1.63mで浅黄褐色細砂。	19F247	FD 213	14
伏見城跡	伏・風呂屋町264-2, 279-20	4/27, 5/1	GL-0.35mで明黄褐色粗砂、-0.78mで黒褐色シルト～粘質土(上面固く締まる)の近世整地面及び整地層(染付、白磁)、-0.85mで明黄褐色粗砂、-0.86mで黒色記砂(上面固く締まる)の近世整地面及び整地層、-1.06mで黄褐色細砂～粗砂、-1.2mで褐色細砂(上面固く締まる)の近世整地面及び整地層、-1.24～-1.41mで黒褐色記砂の近世整地層(焼輪陶器)。	19F643	FD 043	14
伏見城跡	伏・南部町72-2	9/10	GL-0.74mまで盛上。	20F245	FD 279	14
伏見城跡	伏・新町五丁目497, 新町六丁目484-1	9/28, 11/4	GL-0.64mで明赤褐色粘質土、-0.82～-1.0mでぶい黄褐色粘質土。	20F360	FD 305	14
伏見城跡	伏・桃山町鍋島	9/28～10/14	GL-1.1mまで盛上。	20F405	FD 306	14
伏見城跡	伏・桃山町立売52の一部	12/10・24	GL-0.63mまで盛上。	20F443	FD 437	14
伏見城跡	伏・桃山町奈良老93-8	7/15・20	GL-1.04mで明黄褐色粗砂、-1.45mで暗灰黄色砂記(粗砂記砂の時期不明包含層(白磁)、-1.61mで黄褐色粗砂、-1.7mでぶい黄褐色砂記、-2.02mでぶい黄色粗砂、-2.21mで黄灰色粘土、-2.29～-2.4mで灰白色粗砂)。	20F014	FD 178	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷内膳町16の一部	5/19	GL-1.2mまで盛上。	19F765	FD 080	14・15
伏見城跡	伏・深草大亀谷東寺町～深草大亀谷内膳町地内	7/6	GL-2.0mまで盛上。	19F737	FD 161	14・15
伏見城跡	伏・桃山町奈良老地先	10/30, 11/20	GL-0.6～-1.1mで浅黄色細砂。	20F426	FD 360	14・15
伏見城跡、 福島太夫道跡	伏・福島太夫北町52(伏竹総合支援学校)	5/26, 6/12・24, 7/1・27, 8/24・28, 9/7・10・17	№3: GL-0.85mで黄褐色記砂の近世以降包含層(瓦)、-0.93～-1.27mで浅黄褐色粗砂記砂の近世包含層(土師器面、瓦瓦)。№7: GL-0.88mで明黄褐色シルト(粗砂記砂)、0.96～-1.15mで褐色粘質土。試掘調査後及び発掘調査前の事前調査。	19F791	FD 089	14
伏見城跡、 金森出雲道跡、 御香宮廢寺	伏・桃山町金森出雲1-59・60	4/28	№1: GL-1.16mで褐色粗砂礫記砂、-1.35～-1.64mで黄褐色粗砂礫記砂。№2: GL-3.01mで明褐色砂礫。	20F065	FD 047	14
伏見城跡、 桃山道跡	伏・桃山町(伏見公園)	9/7・15	GL-0.44mまで盛上。	20F325	FD 259	14

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町正宗51-4, 39-6	8/21	CL-1.0mで黄褐色泥砂(礫多量)の時期不明造成土。 -1.22～-2.01mで灰白色泥砂(礫砂、礫)の地山。	20F232	FD 242	15
伏見城跡内	伏・桃山町大蔵110-5, 110-6	10/20	CL-1.0mまで盛土。	20F350	FD 343	15
向島城跡	伏・向島本丸町25の一部	8/3	CL-0.1mまで盛土。	20S131	FD 206	29-5
向島城跡	伏・向島二ノ丸町17	10/20	CL-0.2mで明黄褐色粗砂、-0.43～-0.52mで黄褐色粗砂混シルト。	20S321	FD 342	29-5
史跡麩屋寺境内	伏・麩屋東大路町14	8/4	掘削時掘削終了。	02N027	FD 215	29-3
史跡麩屋寺境内	伏・麩屋東大路町8-1	9/29	CL-0.26～-0.62mで明黄褐色泥砂(礫混)。	02N047	FD 307	29-3
史跡麩屋寺境内	伏・麩屋赤間南裏町9-12	5/11	CL-0.27mまで盛土。	01N106	FD 063	29-3
史跡麩屋寺境内	伏・麩屋赤間町1	6/19	平安中期の軒平瓦を採集。本報告61ページ。	02N005	FD 135	29-3
史跡麩屋寺境内	伏・麩屋東大路町31-1他	8/11	掘削時掘削終了。	02C010	FD 231	29-3
日野谷寺町道跡	伏・日野谷寺町78	12/10	CL-1.4mまで盛土。	20S238	FD 436	29-4

鳥羽地区(TB)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
西飯食町道跡	伏・深草池ノ内町13	12/10	CL-0.63mまで盛土。	20S479	TB 438	29-6
鳥羽宮跡	伏・中島宮ノ前町78の一部	11/2	CL-0.3mまで盛土。	20T433	TB 367	26-2
鳥羽宮跡、 鳥羽道跡	伏・中島壱町10, 11	11/30, 12/1	CL-1.05mで灰黄褐色粗砂～シルト、-1.38mで黄褐色粗砂混シルトの時期不明地層(平安後期に相当)、-1.9mで灰黄色粗砂混シルト、-2.0～-2.12mで黄褐色粘土質シルト。	20T128	TB 415	26-2
鳥羽宮跡、 鳥羽道跡	伏・中島宮ノ前町～中島壱町地先	10/26・28, 11/4	CL-0.55～-0.83mで旧耕作土。	20T454	TB 351	26-2
下鳥羽道跡	伏・竹田松林町56の一部	10/7・9・12・14・16	CL-0.89mで旧耕作土、-1.05mで灰黄褐色粘土質の時期不明包層、-1.17～-1.42mで灰黄色シルト(固く締まる)の地山。	19S432	TB 317	26-2
志水落合城跡	伏・羽来師志水町21, 22, 23	6/18・22	CL-0.37～-0.69mで暗灰黄色砂礫の河川堆積。	20S199	TB 134	19
淀城跡	伏・淀本町181-3, 182-4, 192-2の一部及び193の一部	12/7	CL-0.3mまで盛土。	20S166	TB 423	20
淀城跡	伏・淀下町24-1, 24-2, 25, 25-1	4/30	CL-0.85mまで盛土。	20S042	TB 048	20
淀城跡	伏・淀新町124-11(10号地)	6/8	CL-0.32mまで盛土。	20S025	TB 116	20
淀城跡	伏・淀新町124-13(12号地)	5/15	CL-0.3mまで盛土。	20S026	TB 075	20
淀城跡	伏・淀新町124-17(16号地)	9/10	CL-0.38mまで盛土。	20S250	TB 281	20
淀城跡	伏・淀新町124-19(18号地)	9/10・11	CL-0.23mまで盛土。	20S266	TB 280	20
淀城跡	伏・淀新町124-22(27号地)	4/8	CL-0.3mまで盛土。	19S775	TB 013	20
淀城跡	伏・淀新町124-26(23号地)	7/10	CL-0.25mまで盛土。	20S140	TB 168	20
淀城跡	伏・淀新町124-32(33号地)	10/27	CL-0.3mまで盛土。	20S385	TB 353	20
淀城跡	伏・淀新町124-50(43号地)	10/27	CL-0.2mまで盛土。	19S580	TB 355	20
淀城跡	伏・淀新町124-31(34号地)	5/21	CL-0.3mまで盛土。	19S763	TB 084	20
淀城跡	伏・淀新町124-34	8/4	CL-0.3mまで盛土。	20S251	TB 212	20
淀城跡	伏・淀新町124-35(30号地)	9/23	CL-0.18mまで盛土。	20S313	TB 296	20
淀城跡	伏・淀新町124-51(44号地)	8/20	CL-0.25mまで盛土。	19S532	TB 240	20
木津川河床道跡	伏・淀美町857	11/5・26	CL-2.25mで灰色粘土の湿地状堆積、-2.36～-2.82mで灰色粘土の湿地状堆積。	20S294	TB 372	20

長岡京地区(NG)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京一条三坊十三町跡、東土川道跡	南・久世東土川町331	7/31, 8/5	CL-0.24～-0.36mで明黄褐色シルトの地山。試掘調査(「京都市内遺跡試掘調査報告 令和2年度」に報告)後の詳細分布調査。	19NGR30	NG 201	18-3・19
左京一条三坊十六町跡	南・久世大蔵町493-8	8/17・18	CL-0.78mまで盛土。	20NG180	NG 233	18-3

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
左京一条四坊三・四町跡、東土川道跡	南・久世東土川町286-2の一部、287.5、289.7	4/2・3、6/19	弥生の土坑。ピット群を検出。本報告63ページ。	19NG682	NG 003	18-3
左京一条四坊九町跡	伏・久我石原町7.6、7.29	10/23	巡回時掘削終了。	20NG367	NG 348	18-3
左京二条四坊一町跡、東土川道跡	南・久世東土川町366-1	6/11・22	発掘調査で検出した長岡京南北溝の延長部と弥生の道路を検出。本報告67ページ。	19NG761	NG 124	18-3・19
左京二条四坊五町跡	伏・久我西出町1.9、1.10	8/18	GL-0.51～-0.72mで灰色シルトと暗灰黄色シルトの旧耕作土。	20NG083	NG 236	19
左京二条四坊五町、三条四坊八町跡	伏・久我西出町7-13他	9/7・23	GL-1.0mで旧耕作土。-1.3mで褐灰色粘質土。-1.44mでふい、黄褐色粘質土。-1.63mで黄灰色粘質土(黄褐色粘質土調)。-1.92～-2.29mで灰色粘土。	20NG305	NG 278	19
左京三条四坊八町跡	伏・久我西出町7-11及び7-12	5/29	GL-0.42mでふい、黄褐色泥砂。-0.58mで浅黄色シルト。-0.68～-0.75mでふい、黄色シルト(ツンガン含有)。	20NG082	NG 098	19
左京三条四坊十一町跡	伏・久我西出町13-126	8/24	GL-0.3mまで盛上。	20NG244	NG 246	19
左京三条四坊十二町跡	伏・久我西出町13-5	4/21	GL-0.6mまで盛上。	19NG633	NG 036	19
左京三条四坊十二町跡	伏・久我西出町13-5	11/6・11	GL-0.94mで旧耕作土。-1.05mで灰黄色粘土。-1.21mでふい、黄色粘土。-1.32mで灰黄色粘土。-1.54mで灰白色粘土。-1.66～-1.74mで浅黄色粘土を切って灰色粘土の時相不明露出。	20NG327	NG 376	19
左京四条三坊十三町跡、羽東師道跡	伏・羽東師薬川町47-1の一部、47-2(A棟)	7/9	GL-0.17mで褐色シルト。-0.36～-0.42mで灰黄褐色シルト。	20NG104	NG 169	19
左京四条四坊四町跡、羽東師道跡	伏・羽東師薬川町47-1の一部(B棟)	7/29	GL-0.25mまで盛上。	20NG105	NG 192	19
左京五条四坊十二町跡	伏・羽東師古川町55、64	6/29	GL-0.18mで旧耕作土。-0.3～-0.65mで褐色シルト。	20NG143	NG 148	19
左京五条四坊十三町跡	伏・羽東師古川町142	5/25	GL-0.34～-0.49mで明黄褐色シルトの地山。	19NG827	NG 088	19
左京五条四坊十六町跡、長黒道跡	伏・羽東師志水町187	4/2	GL-0.19mでオリーブ褐色粘土質シルトの近世耕作土。-0.45mでオリーブ褐色粘土質シルトの中世耕作土。-0.58mで暗褐色シルトの長岡期包舎層。	19NG685	NG 004	19
左京五条四坊十六町跡、長黒道跡	伏・羽東師志水町187	5/28、6/8	GL-0.35mまで盛上。	20NG148	NG 102	19
左京六条四坊五町跡	伏・羽東師古川町647他 地内	11/6	GL-0.98～-1.5mで暗緑灰色シルト。	20NG392	NG 358	19
左京六条四坊十五町跡	伏・羽東師古川町595	10/15	GL-2.28～-2.57mでふい、黄褐色泥砂。	20NG345	NG 336	19
左京七条四坊三・四町、八条三坊九町跡	伏・説大下津町～羽東師 地先	12/8	GL-0.1mで黄褐色泥砂。-0.55mで黄灰色泥砂。-0.66m～-1.09mで浅黄色泥砂。	20NG231	NG 428	20
左京八条三坊九町跡、水垂道跡	伏・説水垂町	8/3	GL-1.98～-2.46mで暗緑灰色粘質シルト(植物遺体含有)。	18NG805	NG 208	20
左京九条三坊十二町跡、説城跡	伏・説本町225	4/13・14・15	説城二ノ丸北限(旧宇治川南護国)石垣を検出。本報告69ページ。	17NG294	NG 018	20
左京九条三坊十三町、四坊四町跡、旧説城跡	伏・納所町173～121-2 地先	10/12・16・27、11/6	GL-1.3mまで盛上。	20NG417	NG 325	20
左京九条三坊十三町、四坊四町跡、旧説城跡	伏・納所町 地内	12/9	GL-0.9mまで盛上。	20NG500	NG 431	20
左京九条四坊三町跡、旧説城跡	伏・納所薬師堂27-306の一部	9/23	GL-1.6mまで盛上。	18NG719	NG 297	20
石京北辺三坊三・六・七町跡	西・大枝南福西三丁目～大原野上里北ノ町 地内	9/30～12/14	GL-1.8mまで盛上。	20NG190	NG 309	27-1

南桂川地区(MK)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・嵐山中尾下町20-38	7/30	GL-0.53mまで盛上。	02C026	MK195	26-3
史跡・名勝嵐山	西・嵐山田町5-53、5-54	11/2	GL-0.25mまで盛上。	02C029	MK368	26-3
史跡・名勝嵐山	西・嵐山森ノ前町34-2 地先	7/10	GL-0.8mまで盛上。	02C017	MK171	26-3
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町道跡	西・嵐山東海道町52-6の一部	12/22	GL-0.24mまで盛上。	01C140	MK462	26-3
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町道跡	西・嵐山東海道町52-6の一部	12/22・23	GL-0.2mまで盛上。	02C030	MK460	26-3
櫻原慶寺、櫻原道跡	西・櫻原内垣外町9-7	12/10	GL-0.08m～-0.39mでにぶい褐色記砂の平安包含層(土師器)。	20S514	MK439	29-8
櫻原道跡、櫻原慶寺瓦窯跡	西・櫻原里ノ垣外町18-1 他	9/18・23、 10/2・16・ 19・26・27、 12/15	GL-0.84mで黄灰色粘質土の時期不明包含層(須恵器)、-1.35mで黄灰色粘質土、-1.64～-1.8mで明黄褐色記砂(黄灰色粘質土と確認の時期不明包含層(土師器))。	14S350	MK294	29-8
福西古墳群	西・大枝中山町2-168 地先	8/4	GL-0.75～-1.4mまで明黄褐色砂礫の地山。	20S236	MK211	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-714(9号地)	12/25	GL-0.4mまで盛上。	20S521	MK465	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-715	12/14	GL-0.5mまで盛上。	20S522	MK448	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-705	12/14	GL-0.2mまで盛上。	20S520	MK447	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(4号地)	8/17	GL-0.9mまで盛上。	20S243	MK235	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(3号地)	7/3	GL-0.25mまで盛上。	20S176	MK157	26-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部(1号地)	4/17	GL-0.25mまで盛上。	19S811	MK031	26-4
上久世道跡	南・久世上久世町419	7/7	GL-0.16～-0.5mで暗灰黄色シルトの旧耕作土。	20S086	MK164	18-3
上久世道跡除根地	南・久世上久世町717の一部	5/28	GL-0.3mまで盛上。	19S582	MK095	18-3
中久世道跡	南・久世大蔵町62	6/2、9/11	GL-0.73mまで盛上。	19S378	MK103	18-3
中久世道跡	南・久世中久世町五丁目18-2、36	8/17・21	GL-0.75mで黄褐色粘質土、-0.89mで暗灰黄色粘質土、-1.2mで黄褐色粘質土の地山、-1.37mで灰色粘土の地山、-2.02～-2.13mで明黄褐色砂礫の地山。	20S224	MK234	18-3
大敷道跡、下久世溝跡	南・久世殿城町524-1、524-2の各一部	6/4	GL-0.12mで明黄褐色シルト、-0.29mで褐色粘質土(炭質)、-0.54mで黄褐色粘質土の地山、-1.3～-1.64mで灰色シルトの地山。	20S072	MK114	18-3
東山古墳群	西・大枝北福西町二丁目300-3	9/15～12/15	GL-0.78～-1.36mで黄褐色シルトの地山。	17S665	MK289	27-1
上里北ノ町道跡	西・大原野上里北ノ町他地内	5/13、9/17	GL-0.8mで黄褐色シルト(微砂質)の地山、-1.15mで黒色礫の地山、-1.36mで灰白色粘土の地山、-1.87mで浅黄色記砂(礫質)の地山、-2.71～-3.32mの浅黄褐色粘土の地山。	18S259	MK067	18-1

京北地区(UK)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鹿山慶寺	石・京北鹿山町中山39-4他	9/24	GL-1.25mまで盛上。	20S304	UK 299	24-2

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしょうざいぶんぶちょうさほうこく れいわにねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	馬瀬智光・家原主太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮豊楽院跡、 史跡平安宮跡 (内裏跡・朝堂院跡・ 豊楽院跡、鳳鳴道跡)	京都市中京区聚楽廻西 町86-1	26100	2-A203-3- 236	35度 01分 04秒	135度 44分 26秒	2020/11/6		建物解体
平安京左京三条 四坊五町跡、 烏丸御池道跡	京都市中京区高倉通佛 小路下る東片町618	26100	1-464	35度 00分 33秒	135度 45分 45秒	2020/6/16 ～6/23		ホテル
平安京左京九条 三坊十四町跡、 烏丸町道跡	京都市南区東九条北烏 丸町38-3	26100	1-759	34度 58分 51秒	135度 45分 38秒	2020/6/17 ～6/19		共同住宅
平安京右京一条 四坊一・二・七町 跡	京都市右京区花柳木上比 良町1-1、1-6、36の各一部、 花園妙心寺町1-5、1-6、 1-7の一部、59-2、62-2、 62-4、68の一部	26100	1	35度 01分 19秒	135度 43分 23秒	2020/3/13 ～10/28		学校
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮豊楽院跡、 史跡平安宮跡 (内裏跡・朝堂院跡・ 豊楽院跡、鳳鳴道跡)	史跡・ 宮殿跡・ 集落跡	平安時代		緑釉瓦など		豊楽殿所用瓦が出土。		
平安京左京三条 四坊五町跡、 烏丸御池道跡	都城跡・ 集落跡	平安時代末 ～鎌倉時代 室町時代	整地層、土坑、ピット	土師器、瓦器、白磁				
平安京左京九条 三坊十四町跡、 烏丸町道跡	都城跡・ 集落跡	鎌倉時代 ～室町時代	溝	瓦質土器、青磁		町域の南限付近で大溝を確認。		
平安京右京一条 四坊一・二・七町 跡	都城跡	鎌倉時代前期	東西方向の溝、ピット	土師器、瓦器		宅地内の区画溝を確認。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしようさいふんぶちようさほうこく れいむにねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原主太・西森正見・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y-J-Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京右京四条二坊十四町跡	京都市右京区西院西今田町20-4、20-5	26100	1	35度00分21秒	135度43分49秒	2020/6/29 ～7/3		事務所・共同住宅
平安京右京八条一坊九町跡	京都市下京区西七条南東野町22-1	26100	1	34度59分20秒	135度44分17秒	2020/5/13 ～5/21		共同住宅
平安京右京九条二坊六町跡、唐橋遺跡	京都市南区唐橋平田町24	26100	1-756	34度58分54秒	135度03分03秒	2019/7/29 ～2020/12/15		市営住宅 建替え
特別区跡-特別名勝鹿苑寺(金園寺)庭園	京都市北区金園寺町1	26100	A105	35度02分22秒	135度43分51秒	2020/10/1		京都市
市史跡貴布祢神社境内	京都市左京区鞍馬貴船町180	26100	C324	35度07分17秒	135度45分47秒	2020/4/7		デジタルサイネージ
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京四条二坊十四町跡	都城跡	平安時代前期至町時代	溝、土坑、ピットなど	緑軸陶器、須恵器、土師器、灰軸陶器		平安時代前期の遺構群を確認。		
平安京右京八条一坊九町跡	都城跡	平安時代末～鎌倉時代	東西方向の溝、ピット	土師器、須恵器、瓦		七条大路南側溝を確認。		
平安京右京九条二坊六町跡、唐橋遺跡	都城跡・集落跡	平安時代～鎌倉時代	湿地状堆積	土師器		平安時代前期の土器群を確認。		
特別区跡-特別名勝鹿苑寺(金園寺)庭園	寺院跡	室町時代	土壇状遺構			土壇状遺構頂部の境面の放射性炭素年代測定。		
市史跡貴布祢神社境内	史跡	平安時代後期	整地層	土師器、白色土器				

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうざいぶんぶちょうさほうこく れいわにねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下 下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上 上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	京都市左京区下鴨泉川町59	26100	A309-1	35度 02分 19秒	135度 46分 25秒	2020/7/1 ～3		遺拝場
植物園北遺跡	京都市北区上賀茂藪田町25-1の一部	26100	146	35度 03分 12秒	135度 45分 31秒	2019/12/23 ～2020/1/6		事務所・ 共同住宅
室町殿跡(花の御所)、上京遺跡	京都市上京区御所八幡町110-13、110-14、110-15	26100	230	35度 01分 49秒	135度 45分 32秒	2020/7/1 ～8/14		店舗・ 事務所
白河街区跡	京都市左京区陣馬天王町25-5	26100	417	35度 01分 01秒	135度 47分 17秒	2020/2/25 ～4/2		ホテル
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社)	史跡	鎌倉時代 ～室町時代		土師器など				
植物園北遺跡	集落跡	弥生時代末 ～古墳時代初頭	土坑、ピット	土師器				
室町殿跡(花の御所)、上京遺跡	邸宅跡	室町時代	礎石			景石を新たに2点確認。		
白河街区跡	邸宅跡	古墳時代、 平安時代末 ～鎌倉時代初頭	落込み、土坑	土師器、焼締陶器、瓦		古墳時代前期の遺物包含層、土坑などを確認。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしようさいぶんぶちょうさほうこく れいわにぬんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原主太・西森正見・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所在地 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
如意寺跡、西谷道跡	京都市山科区御陵安祥寺町 安祥寺山園有林	26100	425・425-07	35度01分02秒	135度48分27秒	2019/6/12～9/20		森林作業道作設
山科本願寺跡(寺内町遺跡)、史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南院跡	京都市山科区西野山階(寺内町遺跡) 30-1, 33-1, 34, 34-1, 35	26100	603・626	34度58分57秒	135度48分32秒	2020/5/1～9/30		公園版整備
中臣道跡	京都市山科区勤修寺東金ヶ崎町58, 59, 60, 61, 62, 81, 82	26100	632	34度58分00秒	135度48分27秒	2020/4/9～4/14		宅地造成
史跡醍醐寺境内	京都市伏見区醍醐醍醐町1	26100	A1103	34度57分06秒	135度49分20秒	2020/6/19		フェンス復旧
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
如意寺跡、西谷道跡	寺院跡・散布地	平安時代前期～中期	整地層、落込み		土師器、須恵器、緑釉陶器、黒色土器、灰釉陶器		如意寺跡の範囲を拡大。	
山科本願寺跡(寺内町遺跡)、史跡山科本願寺跡及び山科本願寺南院跡	史跡・寺院跡	室町時代	土塁		土師器、須恵器、瓦		史跡土塁の断面観察を実施。	
中臣道跡	集落跡	弥生時代後期	土坑、ピット		弥生土器			
史跡醍醐寺境内	史跡	平安時代中期			軒平瓦			

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうざいぶんぶちょうさほうこく れいわにねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和2年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ号								
編者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長岡京左京一条 四坊二・四町跡、 東土川遺跡	京都市南区久世東土川 町286-2の一部、287-5、 289-7	26100	3-783	34度 56分 48秒	135度 43分 16秒	2020/4/2 ～6/19		工場
長岡京左京二条 四坊一町跡、 東土川遺跡	京都市南区久世東土川 町366-1	26100	3-783	35度 00分 13秒	135度 45分 10秒	2020/6/11 ～6/22		工場
長岡京左京九条 三坊十二町跡、 淀城跡	京都市伏見区淀本町 225	26100	3-1191	34度 54分 23秒	135度 43分 04秒	2020/4/13 ～4/15		事務所
周山城跡	京都市右京区京北地山町	26100	2088	35度 09分 13秒	135度 37分 47秒	2020/2/17 ～2/21		踏査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長岡京左京一条 四坊四町跡、 東土川遺跡	郡城跡・ 集落跡	弥生時代	土坑、ピット、落込み	弥生土器		弥生時代の遺構群を 確認。		
長岡京左京二条 四坊一町跡、 東土川遺跡	郡城跡・ 集落跡	平安時代	溝			東三坊大路東側溝を 確認。		
長岡京左京九条 三坊十二町跡、 淀城跡	郡城跡・ 平城跡	江戸時代	石垣			二の丸の石垣を確認。		
周山城跡	山城跡	安土・桃山時代		瓦				